西ノ原第２遺跡

宮崎市文化財調査報告書

1992

宮崎市教育委員会

序

近年、リゾートや区画整理事業による開発が広く行われる中で、産業・学術・住宅の共栄を図った開発を目指す木花地区は、清武町へかけて宮崎学園都市遺跡群をはじめとして数多くの遺跡が発見され、発掘調査がなされております。

今年度は、県営のほ場整備事業を契機に西ノ原第２遺跡の発掘調査を行い、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代にまたがる重要な発見がありましたので、本書にて報告いたします。

また、宮崎市では、本年７月に考古・歴史・民俗・神話を展示する「みやざき歴史文化館」の開館を予定しており、本書と共に広く皆様に活用いただければ幸です。

平成４年３月

宮崎市教育委員会

教育長　柚木崎　　敏

例　　言

1. 本書は、宮崎市教育委員会が、平成3年1月7日～平成3年3月29日、平成3年6月28日～平成3年8月17日に実施した西ノ原第2遺跡の発掘調査報告書である。

2. 調査組織

調査主体	宮崎市教育委員会		
調査総括	文化振興課	主幹	野間重孝
庶務	〃	主事	永井淳生
	〃	〃	井上治美
調査員	〃	主事	米良明信
	〃	〃	中山豪
補助員	別府大学	学生	日高広人
	文化振興課	嘱託	椎由美子

3. 本書の執筆は、中山が行った。

4. 掲載図面の実測、製図、図版の作成は中山、米良、椎、が行った。

5. 写真撮影は、中山が行った。

6. 本遺跡出土遺物は、宮崎市教育委員会で保管している。

目　　次

Ⅰ. はじめに …… 1
1. 遺跡の位置と環境 …… 1
2. 調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ. 調査の記録 …… 4
1. 調査の概要 …… 4
2. 検出遺構 …… 4
(1) A区 …… 4
(2) B区 …… 9
(3) C区 …… 13
3. 出土遺物 …… 18
(1) A～C区出土遺物 …… 19
土器実測図 …… 19
土器観察表 …… 34
石器実測図 …… 41
石器観察表 …… 43
(2) 住居跡出土遺物実測図 …… 44
土器実測図 …… 44
石器実測図 …… 53
鉄器実測図 …… 55
土器観察表 …… 56
石器・鉄器観察表 …… 58

Ⅲ. 終わりに …… 59

I. はじめに

1. 遺跡の位置と環境

西ノ原第２遺跡は加江田川と清武川にはさまれ、日向灘近くに形成された清武、木花段丘の東端部の、宮崎市大字熊野字西ノ原に位置している。

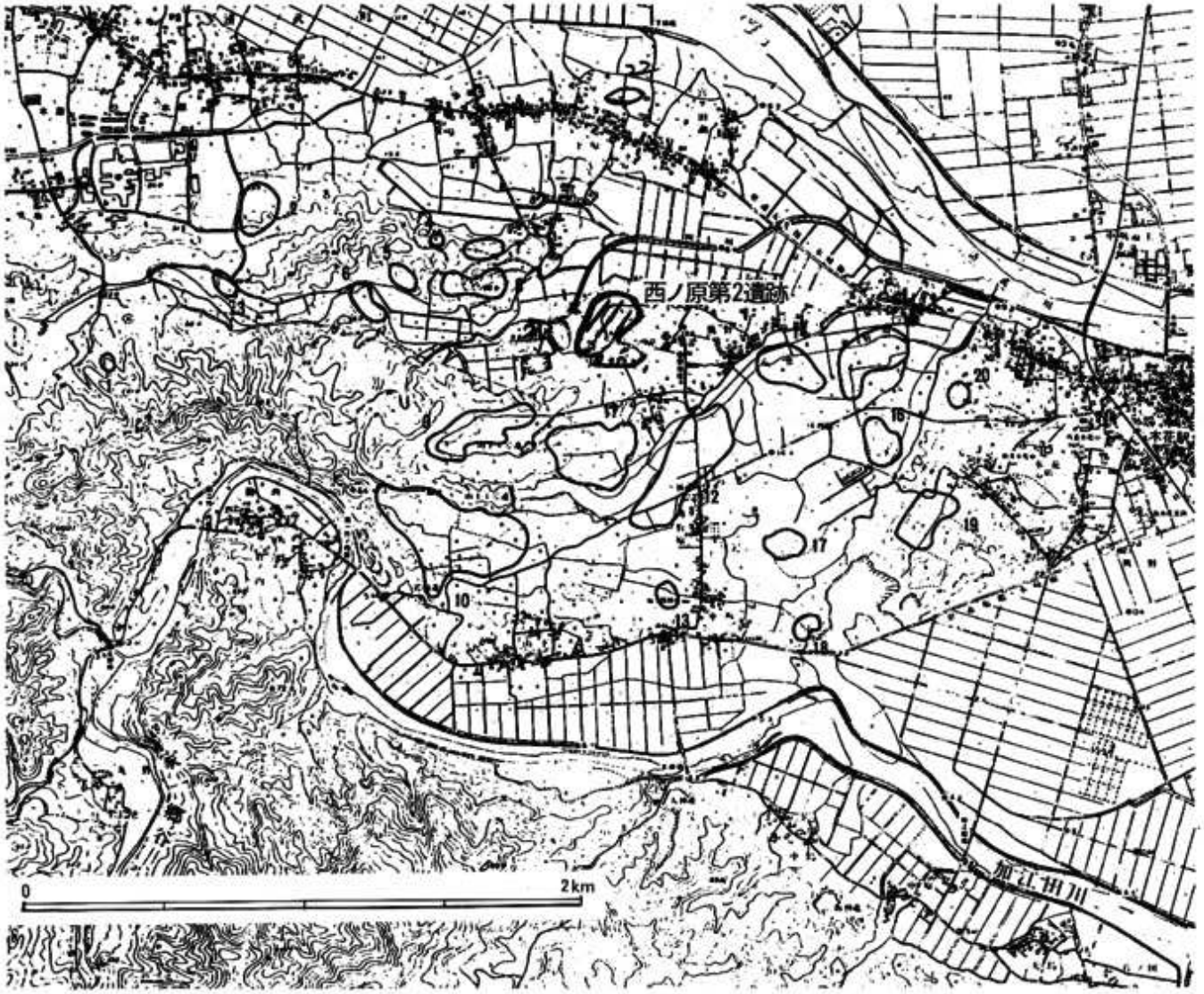
本遺跡は、宮崎における旧石器時代から近世までの複合遺跡としてよく知られている宮崎学園都市遺跡群、縄文時代から弥生時代の遺跡である車坂・山下遺跡、縄文時代から古代の遺跡である西ノ原地区遺跡、前方後円墳を含む木花村古墳に近接している。また、熊野地区は、延喜式に見られる「救麻駅」の比定地と考えられており、本遺跡との関係が注目される。

特に、昭和59年に行われた西ノ原地区遺跡の調査では、縄文時代前期、後期の土器、弥生時代終末期の住居跡、古墳時代中期（５世紀前半）の住居跡、９世紀後半から10世紀前半に比定される焼成土坑、焼成土坑に先行する９世紀代の土師器が出土している。特に、焼成土坑の土器は、飽切り技法である点と高台付き塊の底部に中心部に向けて放射状に指頭調整を加える技法が良く残され、需給関係をつかむ手掛かりになると指摘されている。

2. 調査に至る経緯

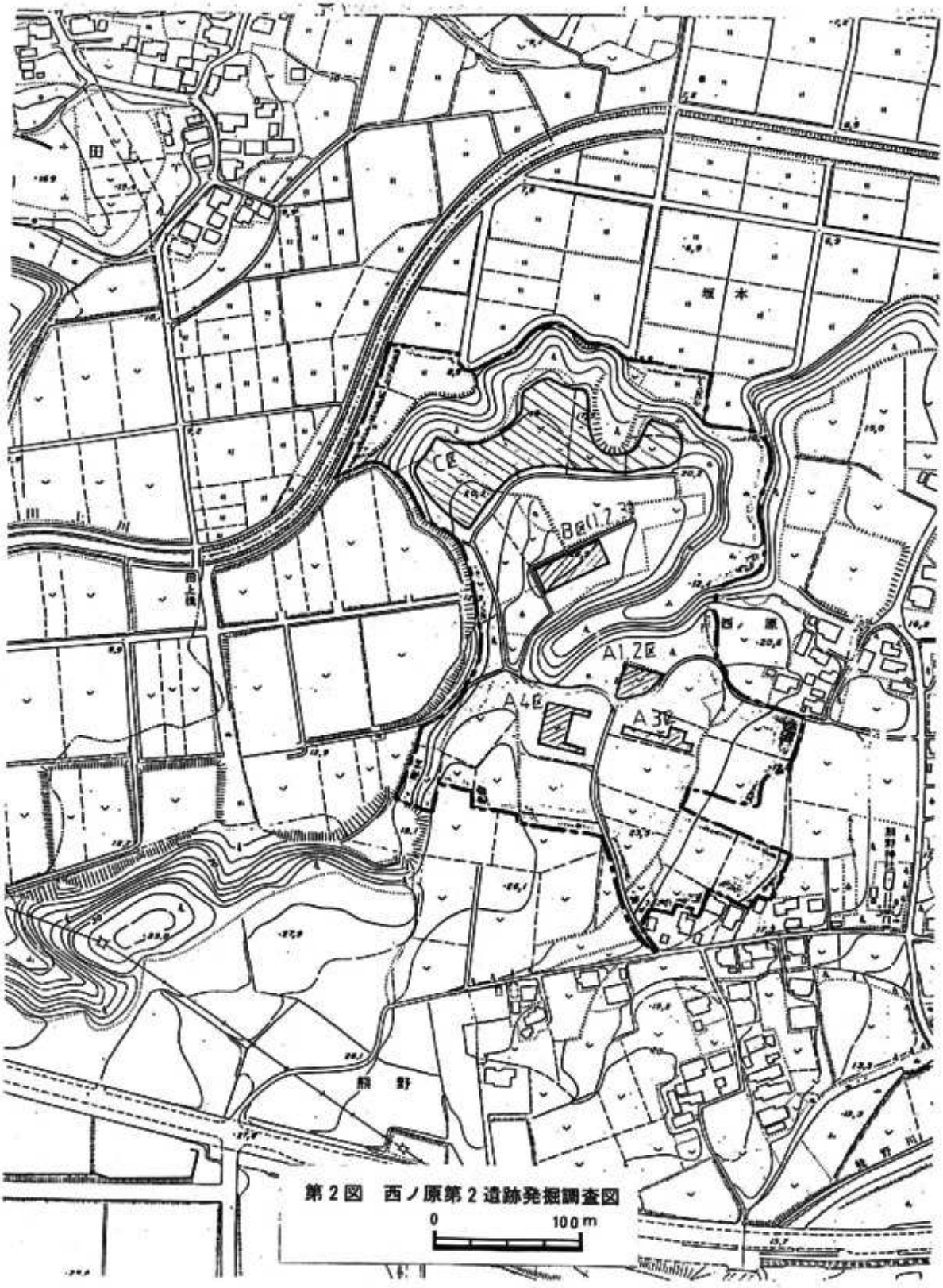
熊野土地改良区では、宮崎県の補助により畑地の区画整理を行うこととなり、当該地の文化財の有無照会が宮崎市の耕地課から文化振興課へ提出された。文化振興課では、計画地が西ノ原地区遺跡の隣接地であるうえ、宮崎学園都市遺跡群にも近接することから分布確認調査を行ったところ、ほぼ全域において遺物の散布が見られた。

このため、県文化課によって平成元年６月に遺構の確認調査が行われ、縄文時代から平安時代の遺構、遺物が確認された。この結果をもとに市耕地課と工事区域、工法等の調整を図り、２年度にまたがる国庫補助事業として、発掘調査を行うこととなった。



1. 山内石塔群
2. 下田畑遺跡
3. 赤坂遺跡
4. 小山尻西石塔群
5. 浦田遺跡
6. 入料遺跡
7. 小山尻東遺跡
8. 田上遺跡
9. 堂地西遺跡
10. 平畑遺跡
11. 堂地東遺跡
12. 熊野原遺跡
13. 犬の馬場遺跡
14. 前原西遺跡
15. 前原北遺跡
16. 前原南遺跡
17. 陣ノ内遺跡
18. 車坂城跡
19. 木花遺跡
20. 今江城跡
21. 西ノ原地区遺跡
22. 木花古墳

第1図　西ノ原遺跡位置図



第2図　西ノ原第2遺跡発掘調査図

Ⅱ. 調査の記録

1. 調査の概要

当調査では、県文化課が試掘調査を行った際に設定した南から北へ向かってA、B、Cの3区の分割を踏襲している。

A区は、西から東にゆるやかに傾斜した畑地である。

B区は、一段高い尾根部である。

C区は、北側に広がるテラス状の区域で西から東にゆるやかに傾斜している。

当調査区の基本土層は、

Ⅰ層　表土（耕作土）　Ⅱ層　黒色土　Ⅲ層　アカホヤ　Ⅳ層　硬質の黒褐色土

Ⅴ層　暗褐色土　Ⅵ層　褐色土　Ⅶ層以降は礫層やシラス層と一定ではない。

A区では中央部にはⅥ層の褐色土しか残っておらず、東西に行くに従って徐々に層が増えて行く。B区ではⅤ層の暗褐色土、C区ではⅢ層のアカホヤしか残っていない。

Ⅱ層の黒色土では、上部で古墳時代以降の遺物、下部で縄文時代後期の遺物が出土し、Ⅴ層の暗褐色土で、縄文時代早期の遺物が出土している。

2. 検出遺構

⑴　A区

①　1・2区

1・2区では、表土を剥いだ段階でⅣ層の硬質の黒褐色土に掘り込まれた溝状遺構と土坑を検出した。

溝状遺構は、幅や深さ方向に規則性が見られず用途不明である。出土遺物は砕片ばかりであるが布痕を持つものが含まれていた。

土坑は、長軸1.5ｍ、短軸0.8ｍ前後の大型長楕円形のものである。溝状遺構を切る形で掘り込まれており、糸切り底の坏の破片が出土している。

また、縄文時代の早期の集石が2基検出された。共にレンズ状の掘り込みの中に礫がつまった状態であり、埋土に微小な炭が混入していた。

②　3区

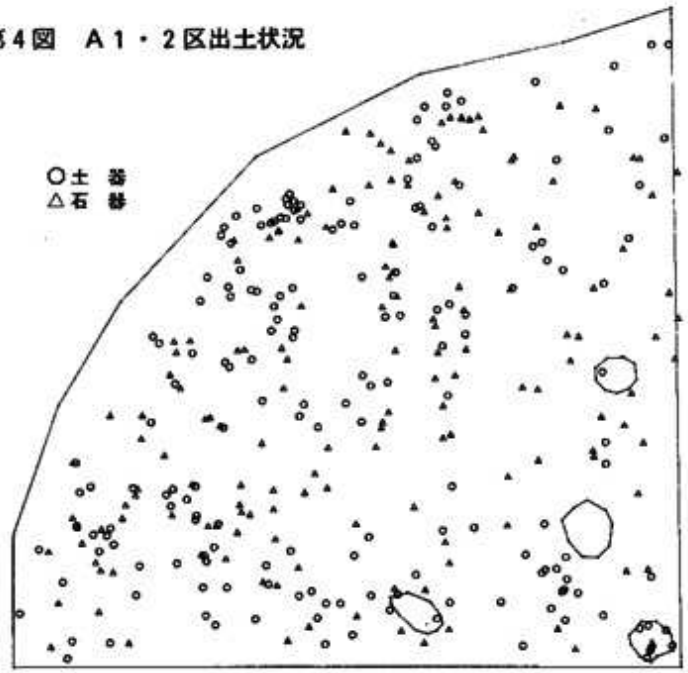
3区では多数のＰＩＴと溝状遺構及び溝状遺構に切られた1号住居を検出した。

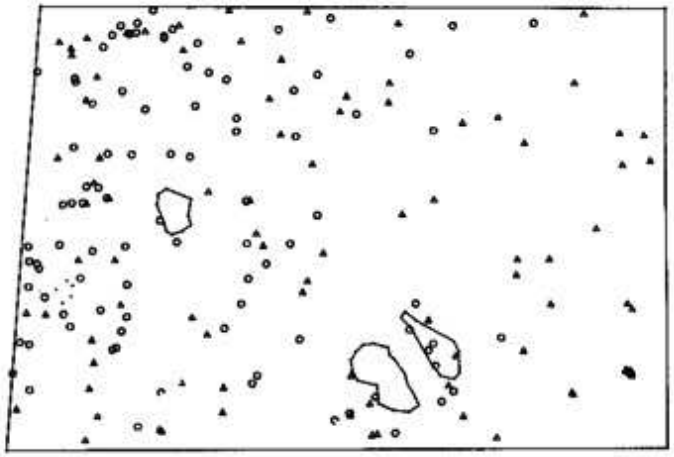
ＰＩＴは直線的に並ぶものも見られたが、掘立柱の遺構とするには面積的にできなかった。遺物は細片がほとんどであるが糸切り底の坏が出土している。

溝状遺構は黒色土を埋土としており、布痕土器片や篦切り土師器の坏片などが出土している。但し性格等は確認できなかった。

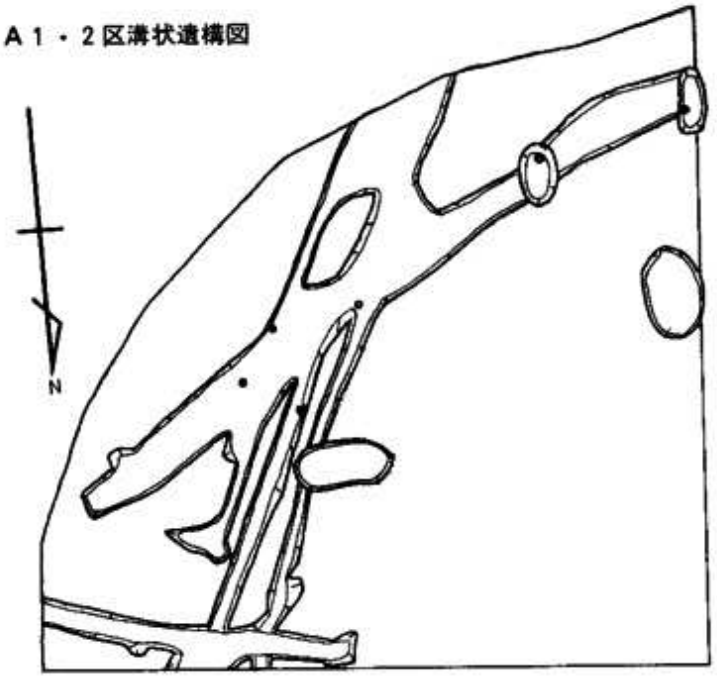
1号住居は溝状遺構と試掘トレンチに壁の一部を切断されているが、間仕切り壁を3カ所有する3.5ｍ×5.4ｍの花弁状住居である。中央に3回掘り直した感のあるＰＩＴをもち、ミニチュア土器が出土した点が注目される。

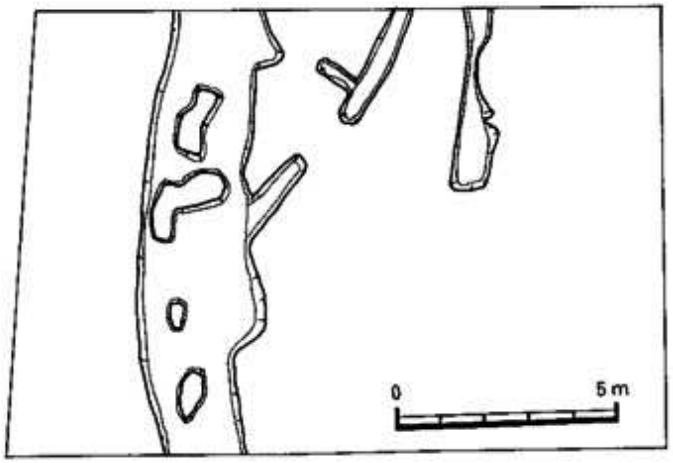
第4図　A1・2区出土状況

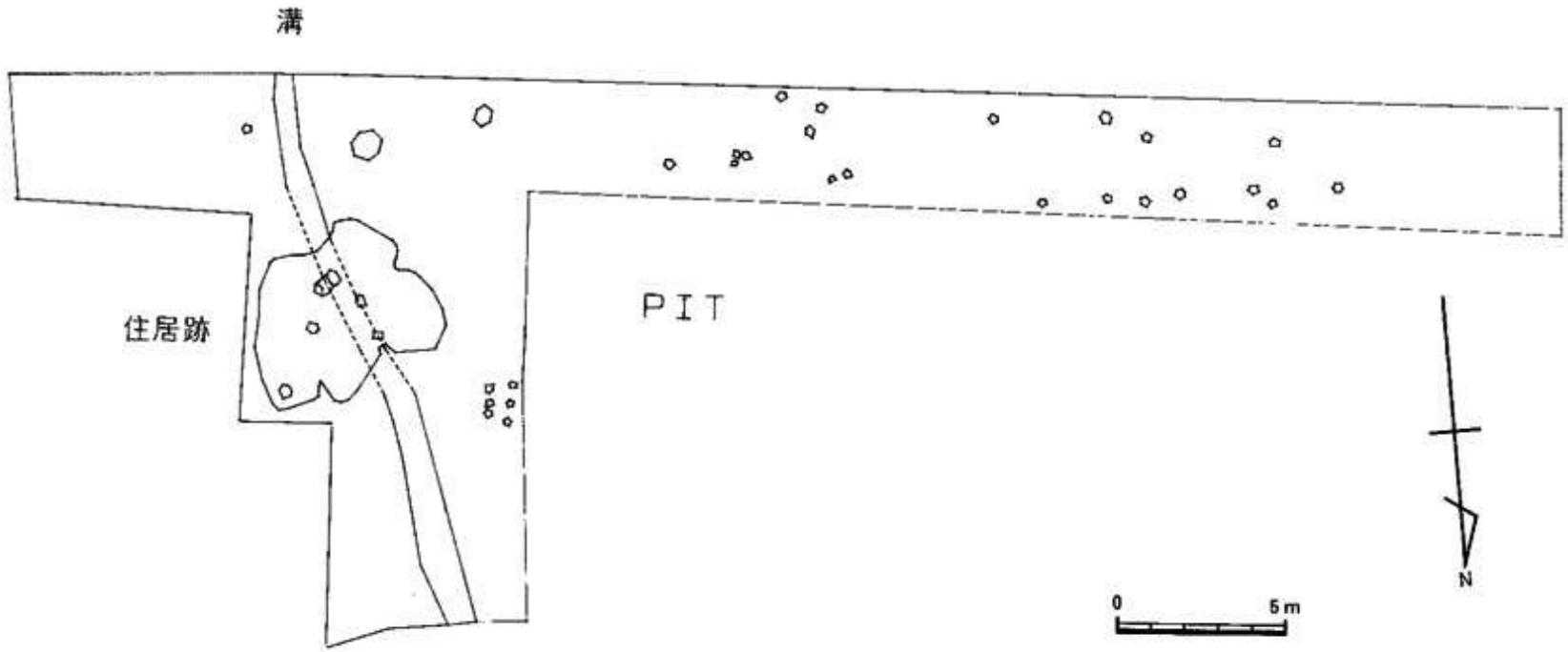




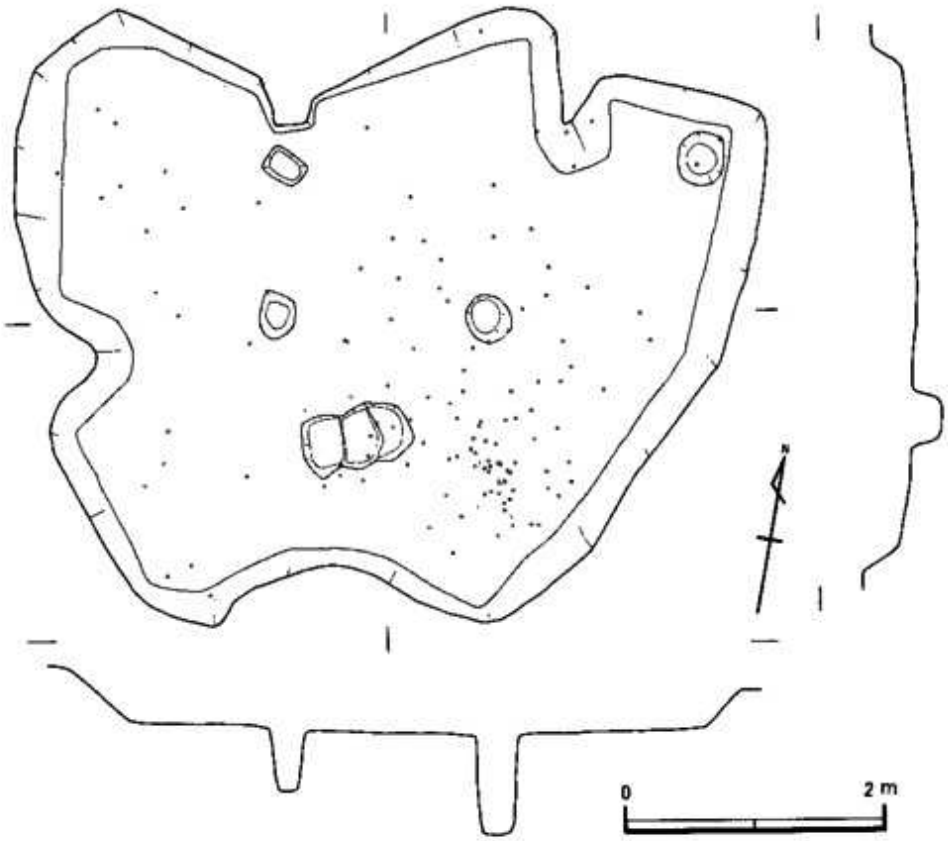
第3図　A1・2区溝状遺構図



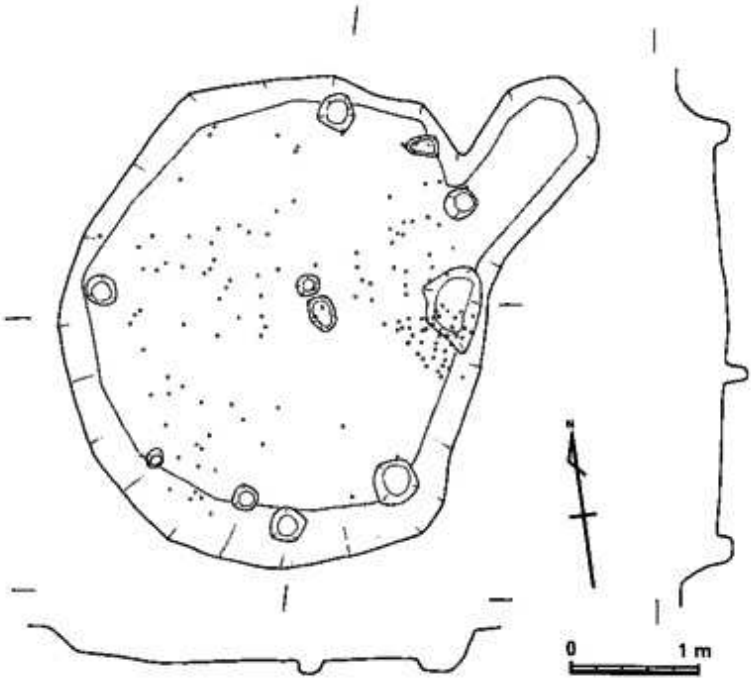




第5図　A3区概要図



第6図　A3区1号住居跡



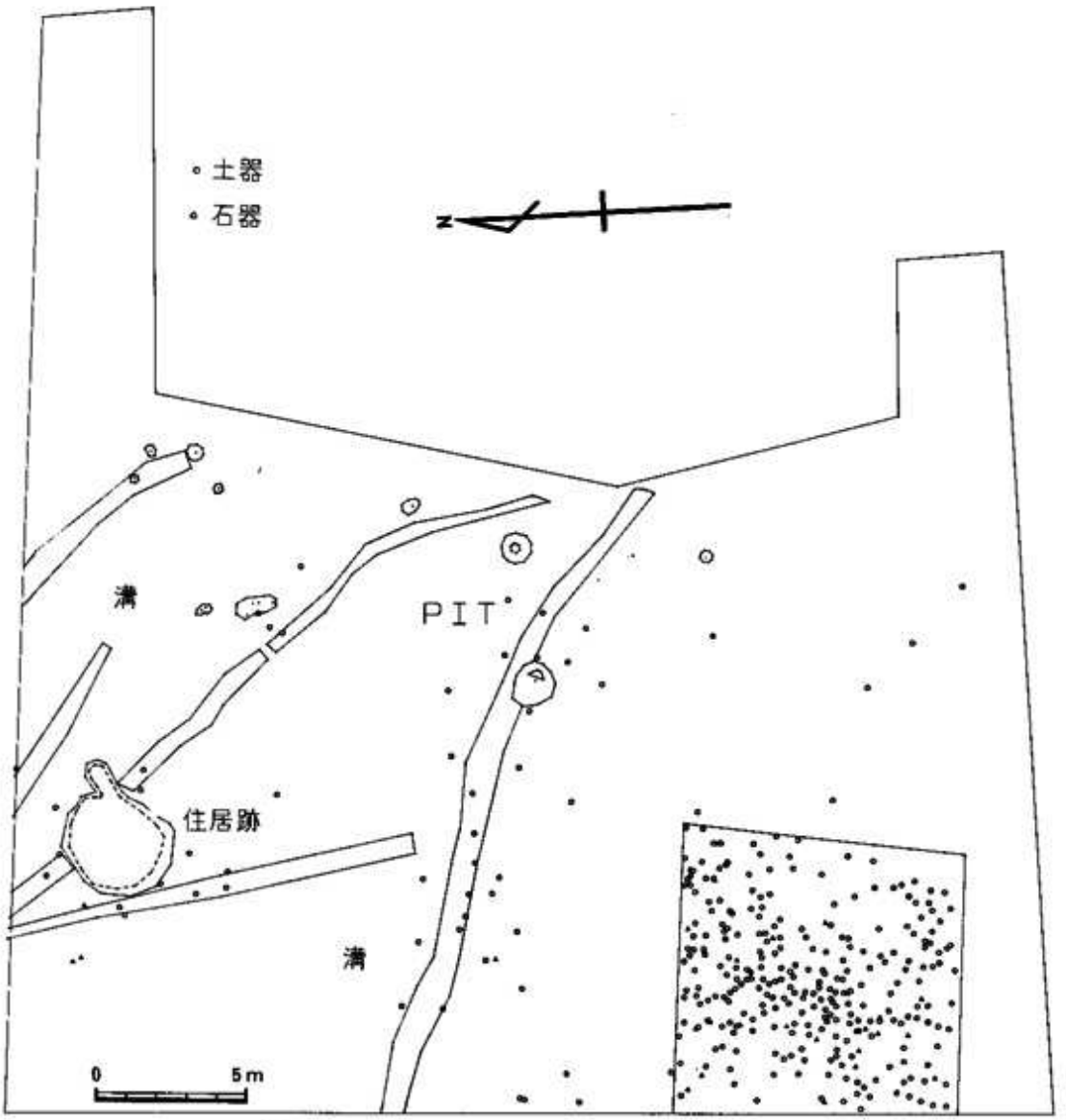
第7図　A4区2号住居跡

⑧　4区

4区の土層は、東側はⅢ層のアカホヤが若干残る程度であるが、西側に行くに従って基本土層が現われるようになる。このことから、旧地形は、西側に傾斜していたと考えられる。

また、黒色土層面で多量の土器片が出土したため、10m 4方のグリッドを1カ所に設け精査を行った。黒色土上層では、箆切り底、糸切り底の土師器、須恵器等が、同下層では、縄文後期の土器（貝殻文に沈線）が出土したが、グリッド内では住居等の遺構は検出出来なかった。

当区では、溝状遺構と大型のＰＩＴ２基（内１基は溝状遺構に切られている）と、同じく溝状遺構に切られた２号住居を検出した。



第8図　A4区出土状況

溝状遺構は東西方向に３本、南北方向に１本検出された。黒色土を埋土としており、土師器、須恵器、縄文土器の破片を包含していた。東西方向の３本の溝の内、南端の溝は、アカホヤの下まで掘り込まれ、他の３本とは差があるようである。

大型のＰＩＴ２基は、直径１ｍ、深さ1.2ｍほどのものである。遺物は検出されず、埋土は黒色土であった。溝状遺構に土師器、須恵器、縄文土器の破片が混在している点からすると縄文時代に属すると考えられる。その用途については、住居に近いことから貯蔵穴若しくは落とし穴が考えられる。

２号住居は、黒色土から掘り込まれた、径約3.8ｍの円形プランの竪穴住居である。東側の一部に舌状の飛び出しが見られるが、遺物の出土は無く、本来付属したものか後世の掘り込みかの区別はつかなかった。住居の壁に添って等間隔に並んだＰＩＴと中央部に２基ＰＩＴが検出され、これらを柱穴と考えるならば家屋の復元も可能であろう。

⑵　Ｂ区

１・２・３区共に集石遺構が検出され、形態から次のように分類される。

１類．レンズ状の掘り込みを持つもの　　（11～13ページ写真参照）

①　掘り込み全体に焼石が詰まったもの

②　掘り込みの中心に焼石が見られるが、ＰＩＴの壁との間が空くもの

③　掘り込み内に焼石の無いもの

２類．レンズ状の掘り込みを持たないもの

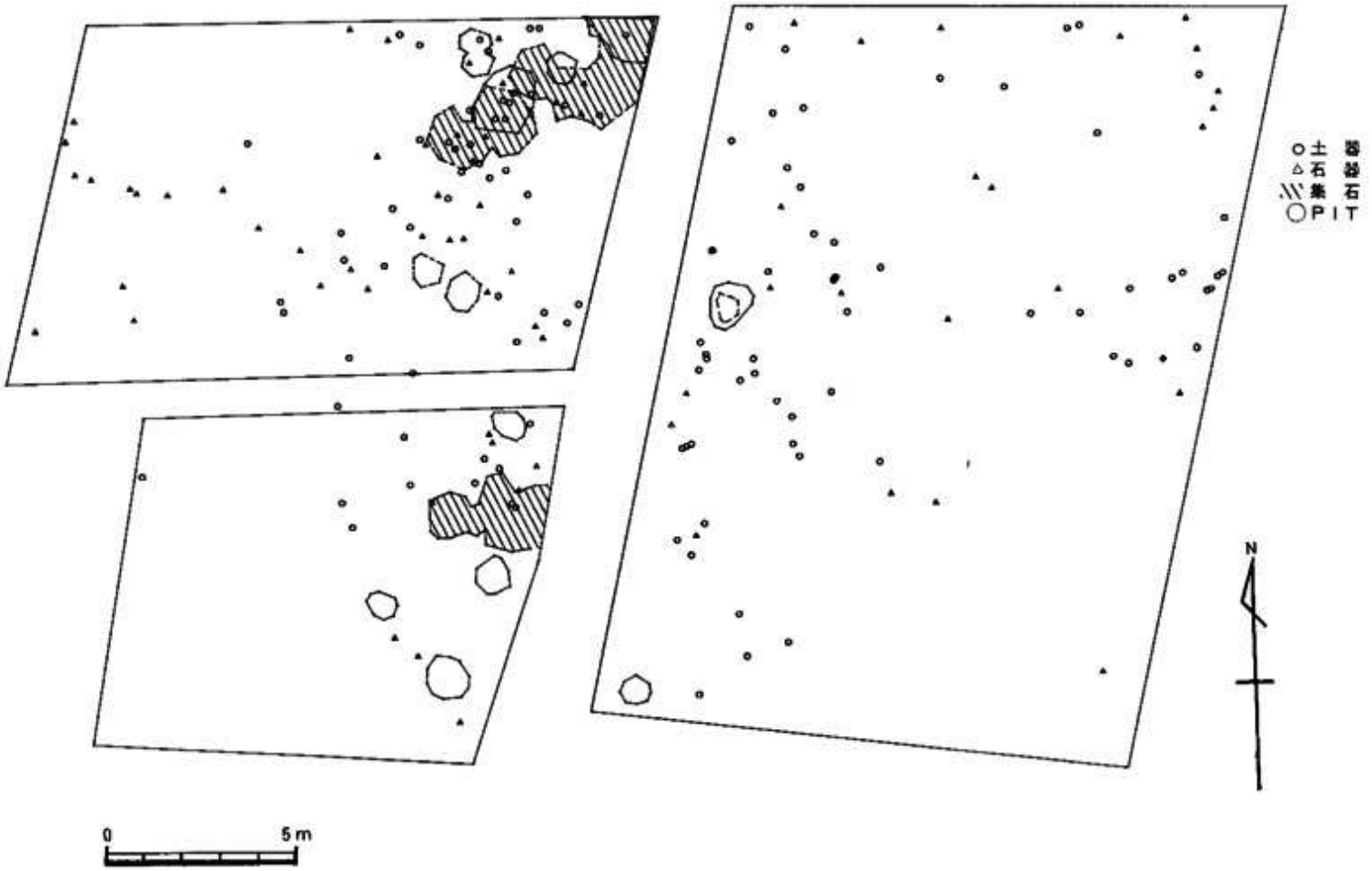
①　円礫や破片が一面に広がったもの

②　円礫のみで構成されるもの

ここで問題となるのは、１類と２類の関係である。集石が、本来掘り込みを持つものであり使用した石の壊れ方に応じ、順次石の交換を行うならば、２類の①は単なる廃棄物と考えられる。この場合、２類の②と１類のものとは、用途において異なっていると考えられる。

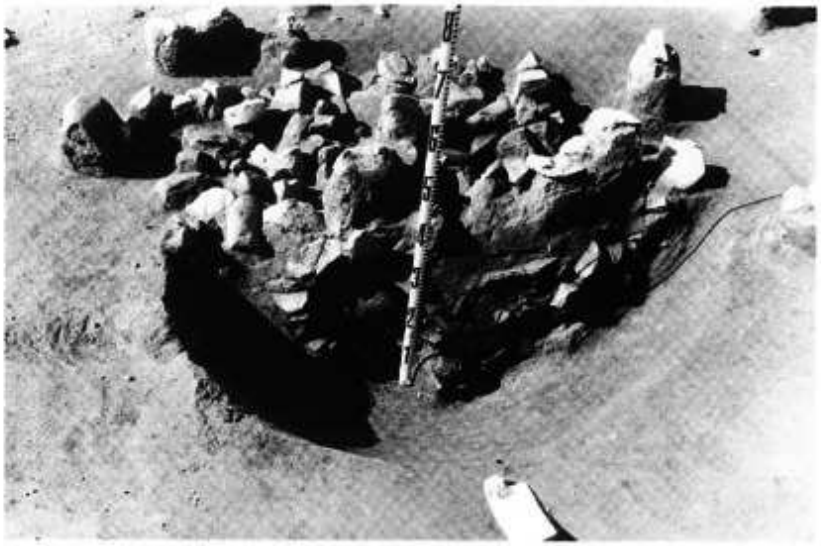
また、１類と２類の間に前後関係があるならば、２類の①を取り除いた段階で、１類が確認されるという出土状況から、１類が先行すると思われる。この場合、集石は、掘り込みを持つものから地面に炉状の石組を持つものへと変化したことになる。

この分類は、形態のみの区分であり用途を考慮していないため、土器の出土状況との関連が今後の課題であろう。



第9図　B1・2・3区出土状況

1類①

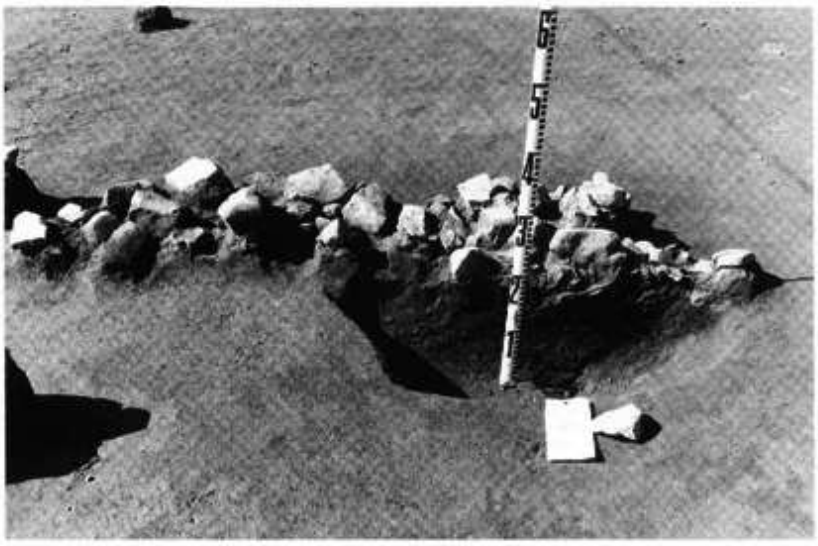


1類①′

1類②

1類②′

1類③



1類③′

2類①

2類②

⑶　C区

溝状遺構、掘立柱建物2軒、竪穴住居3軒を検出した。

溝状遺構は、長さ30×35m、幅1.2m程の長方形をしている。深さは、北側が深く約60cmを計るが、南側に行くにつれて次第に浅くなり、南辺では一部分が途切れた形になっている。この断絶部が、後世の削平によるものか、本来南側に出入口が設けてあったためかは、判断できなかった。また、北東部を土取りで削られているため全体の確認はできていない。

黒色土から掘り込まれているが、埋土にシラスを層状に含むことが特徴である。

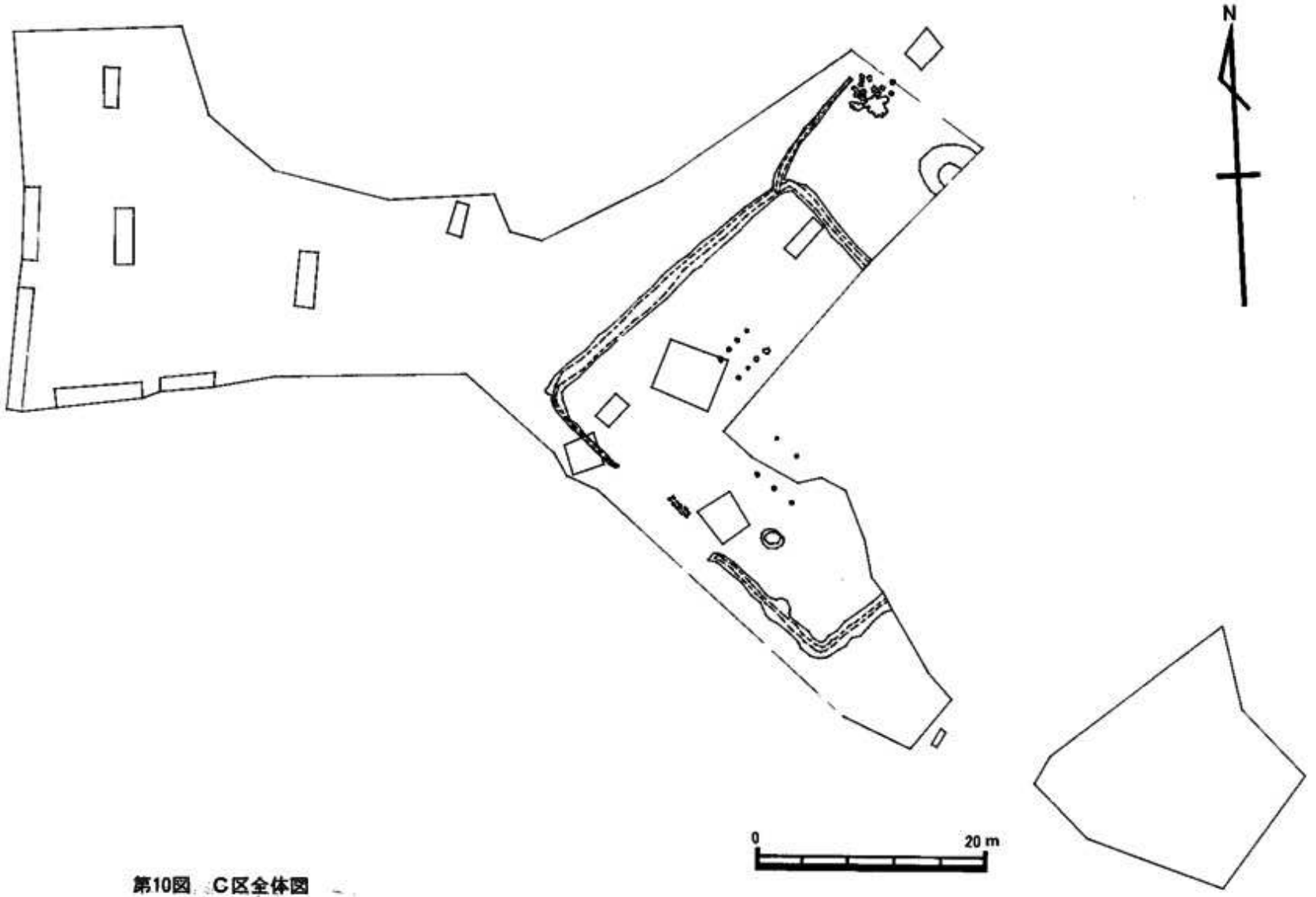
掘立柱建物は、西側の溝状遺構に並行に2×4mのもの1軒、南側の溝状遺構に並行に3.5×4mのものが1軒、L字状に配置されている。

3号住居は、3.5×3.6m程の台形を呈する。溝状遺構に北側の壁を切られ、削平により壁も余り残っておらず、遺物も数少なかったが、丸底壺とノミ形鉄器が出土した。

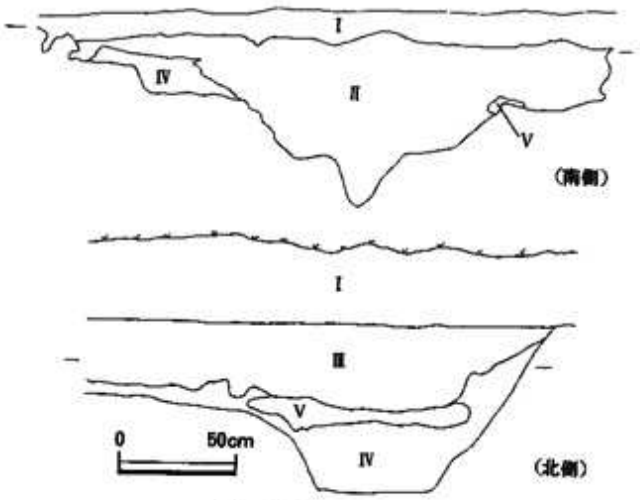
4号住居は、3.8×4.5mの台形を呈する。床面中央部に礫が点在し、炭を含む凹みが検出され、炉が中央にあったと考えられる。遺物では、小型丸底壺、高坏等のほか、小型の鉄斧が出土した。

5号住居は5.5×6.5mの長方形であり、掘立柱建物に壁の一部を切られている。土器片と炭が入り混じった状態で出土し、炭の部分を検討したところ建築材の形状を示した。径40cmの扁平丸石が中央部に置かれたことに特徴があり、小型丸底壺、高坏、脚付鉢のほか不明鉄器も出土した。

竪穴住居と掘立柱建物、溝状遺構との関係についてであるが、3軒の竪穴住居はその方向性は一定で無いものの出土遺物より6世紀後半のものと考えられる。また、3号住居は溝状遺構に、5号住居は掘立柱建物に切られることより前後関係は明らかである。掘立柱建物と溝状遺構については、溝と柱の方向性が一致する上、配置的にもバランスが良く、溝を巡らした館と考えられる。

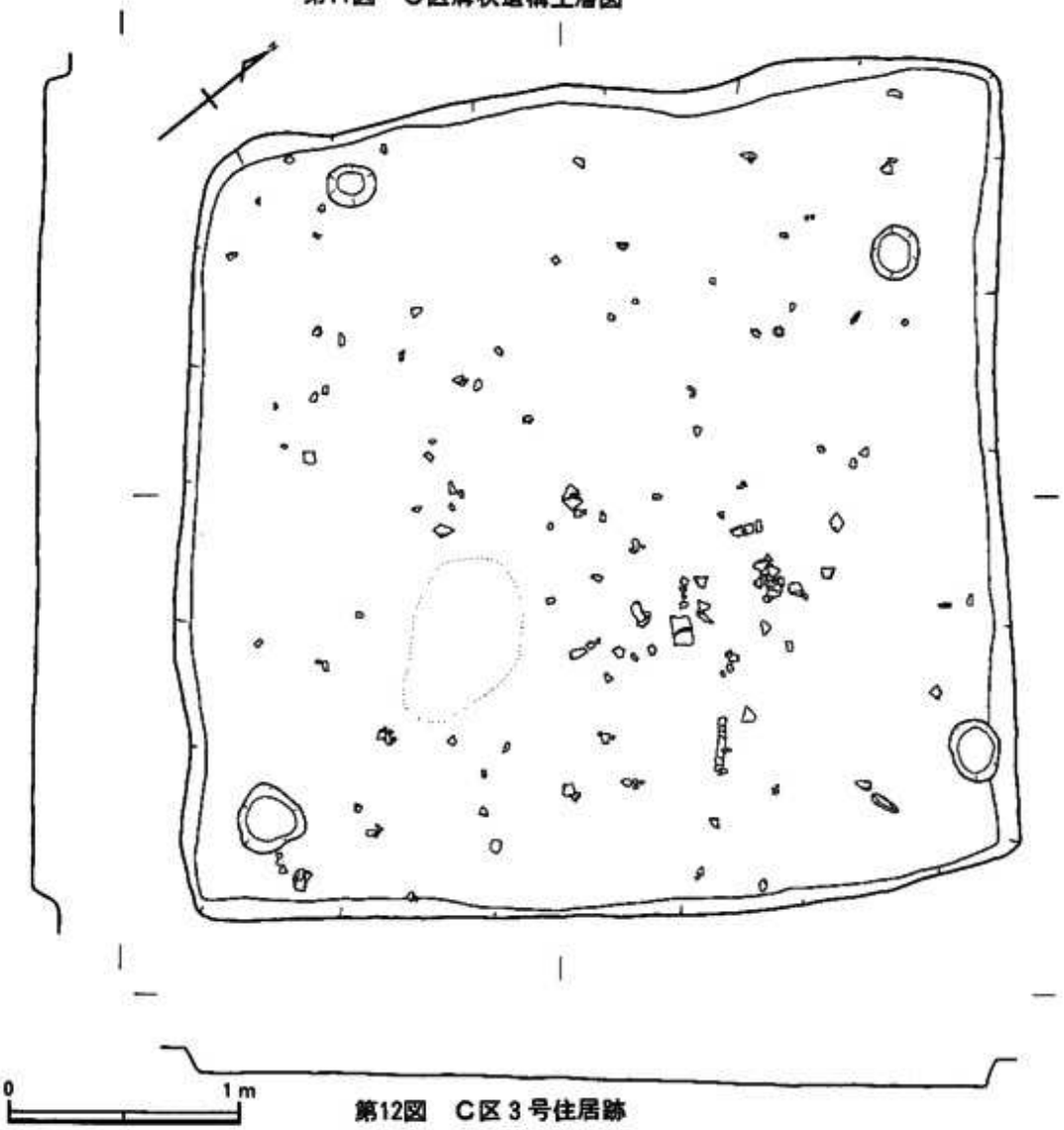


第10図　C区全体図

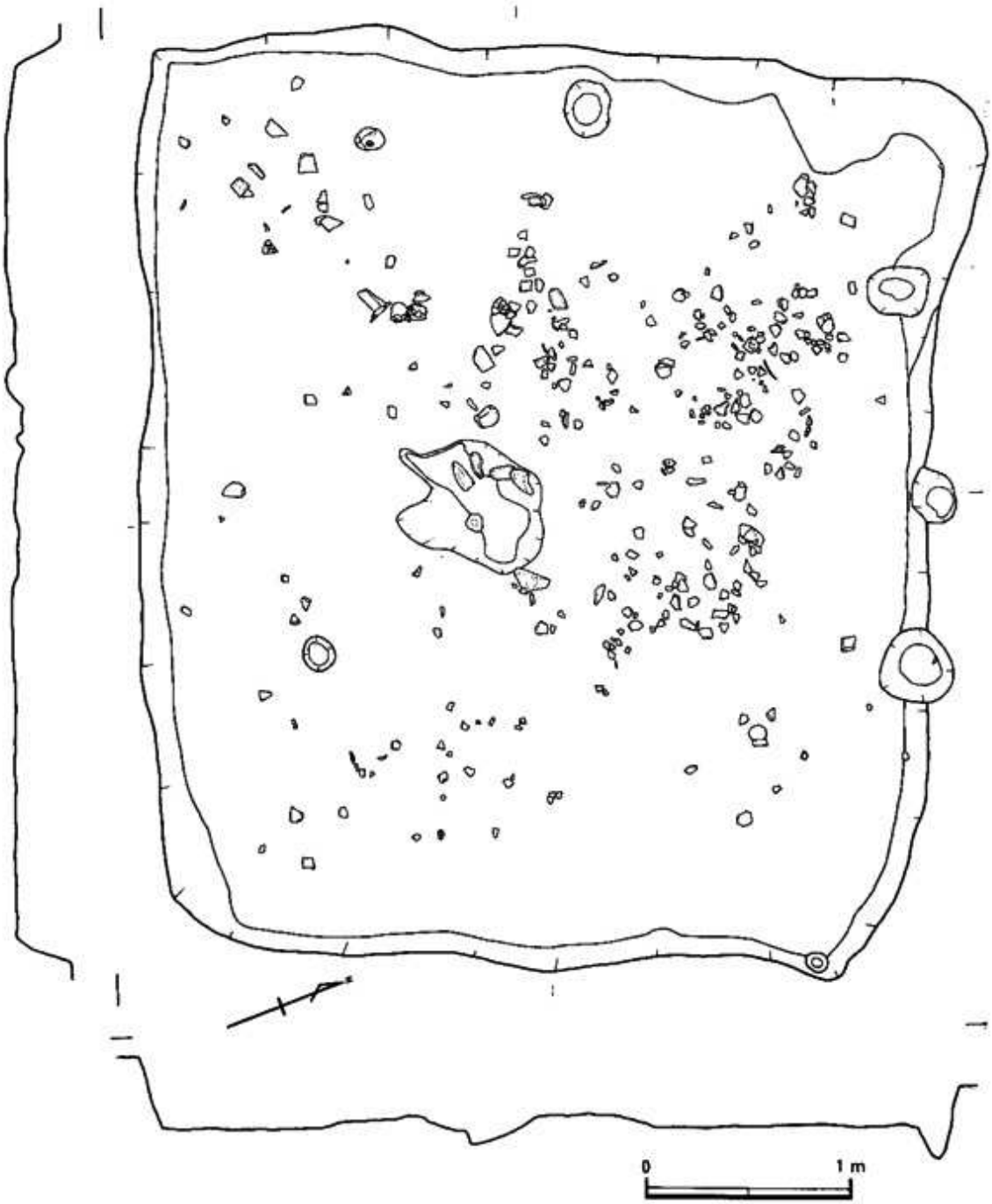


I 表土（耕作土）
II シラス混入黒色土
III 黒色土
IV 黄橙色土混入黒色土
V シラス

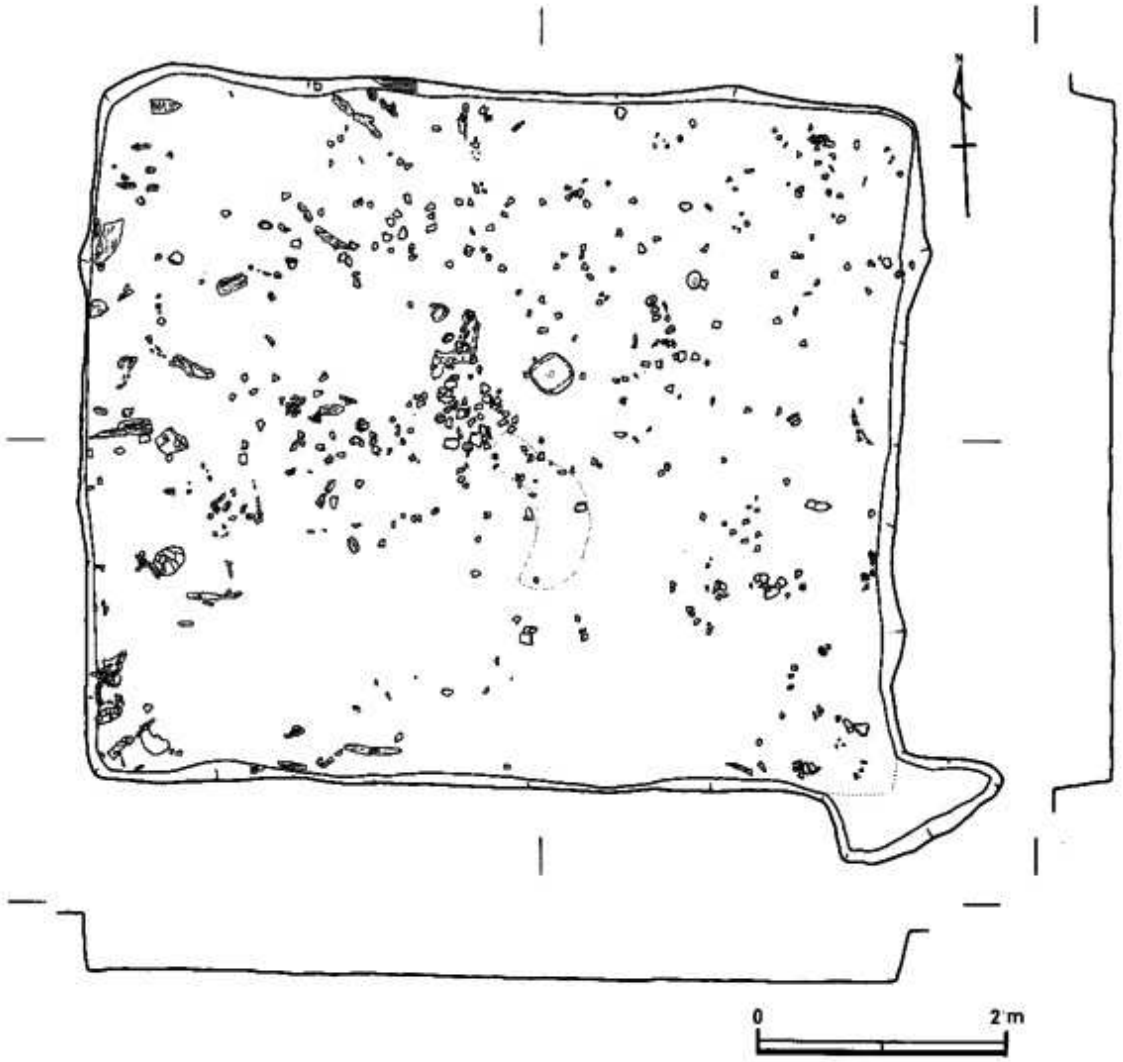
第11図　C区溝状遺構土層図



第12図　C区3号住居跡



第13図　C区4号住居跡



第14図　C区5号住居跡

3. 出土遺物

縄文時代早期の遺物は、A・B区に見られる。

土器は、調整に貝殻条痕、ナデ、ミガキ的なものが見られる。

施文は、以下のように分けられる。

縄文

押型文……楕円、山形

貝殻腹縁文……連続、綾杉、山形

篦状工具によるもの……連続、綾杉

櫛状工具（具殻）によるもの……連続、綾杉

楔状の突帯……具殻腹縁文を突帯間に施文

刺突

石器は、石鏃、石斧、スクレーパー、凹み石、石錘が出土したが、一様にチップ、フレイクが出土する点は、土器の出土状況に類似する。

縄文時代後期の遺物は、A―4区と2号住居に見られる。

土器は、調整に貝殻条痕、ナデ、ミガキが見られる。

施文は、以下のように分けられる。

縄文……磨消し縄文

貝殻腹縁文……連続、沈線を加えるもの

篦状工具によるもの……沈線

器形は深鉢と思われ、口縁には山形のものも見られ、突帯を有するものも多い。

石器は、石錘のみであった。

弥生時代

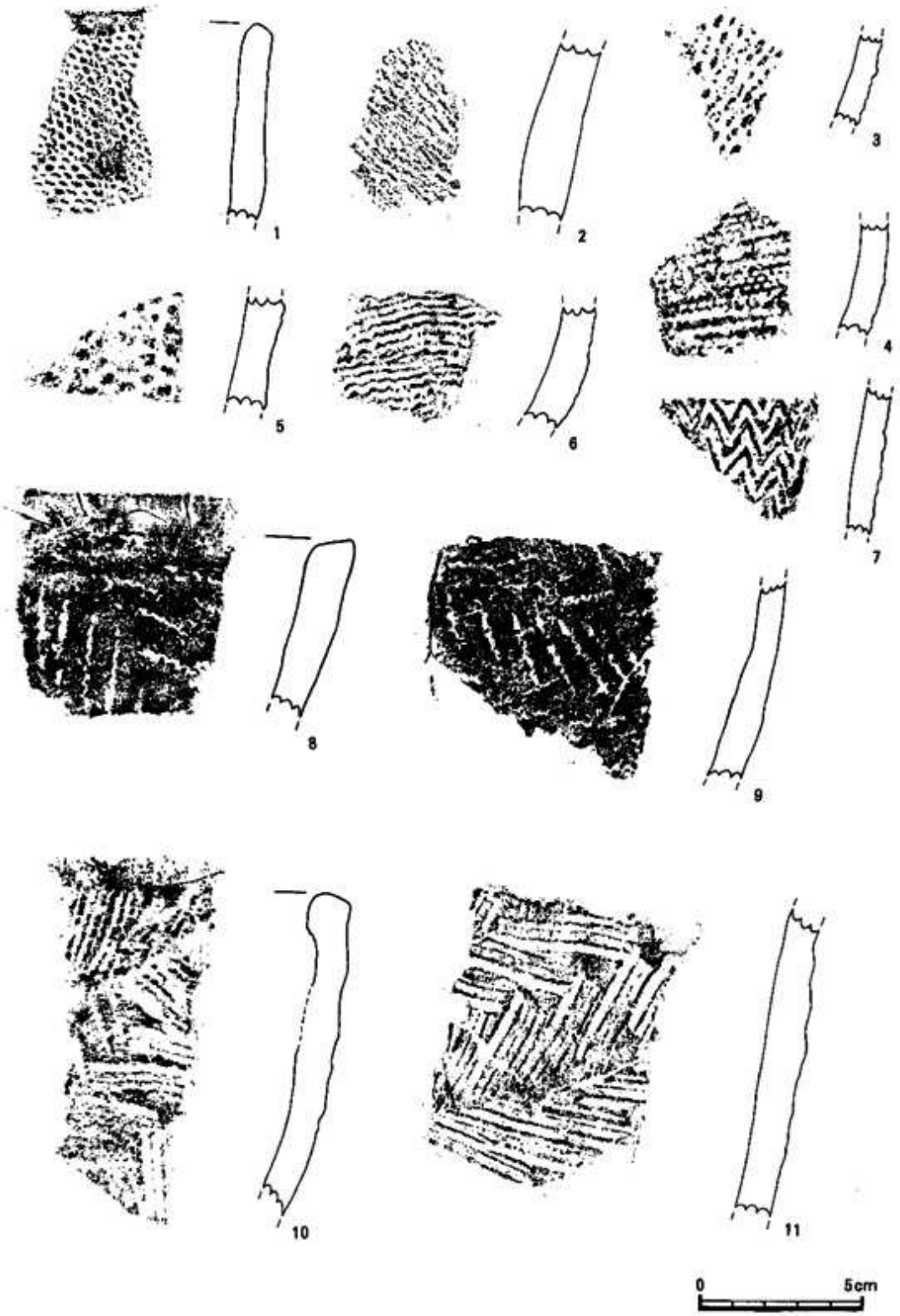
1号住居からのものが殆どである。但し、C区のアカホヤ上面で、中期の壺、甕、高坏が出土したことが注目される。

古墳時代

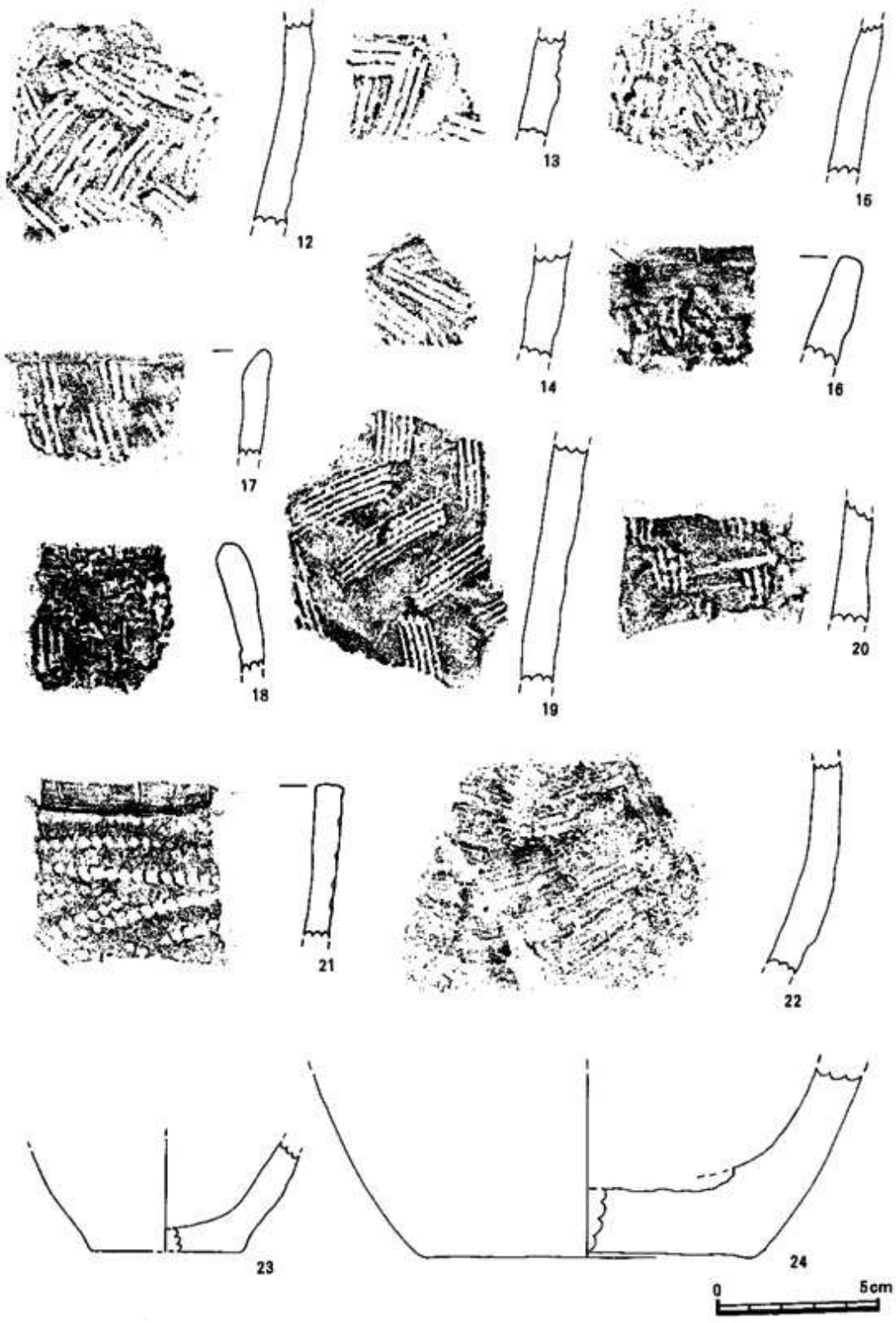
3・4・5号住居からのものである。此の3軒に共通することは、須恵器を持たないことであり、工具と思われる鉄器を出土したことである。

古墳時代以降

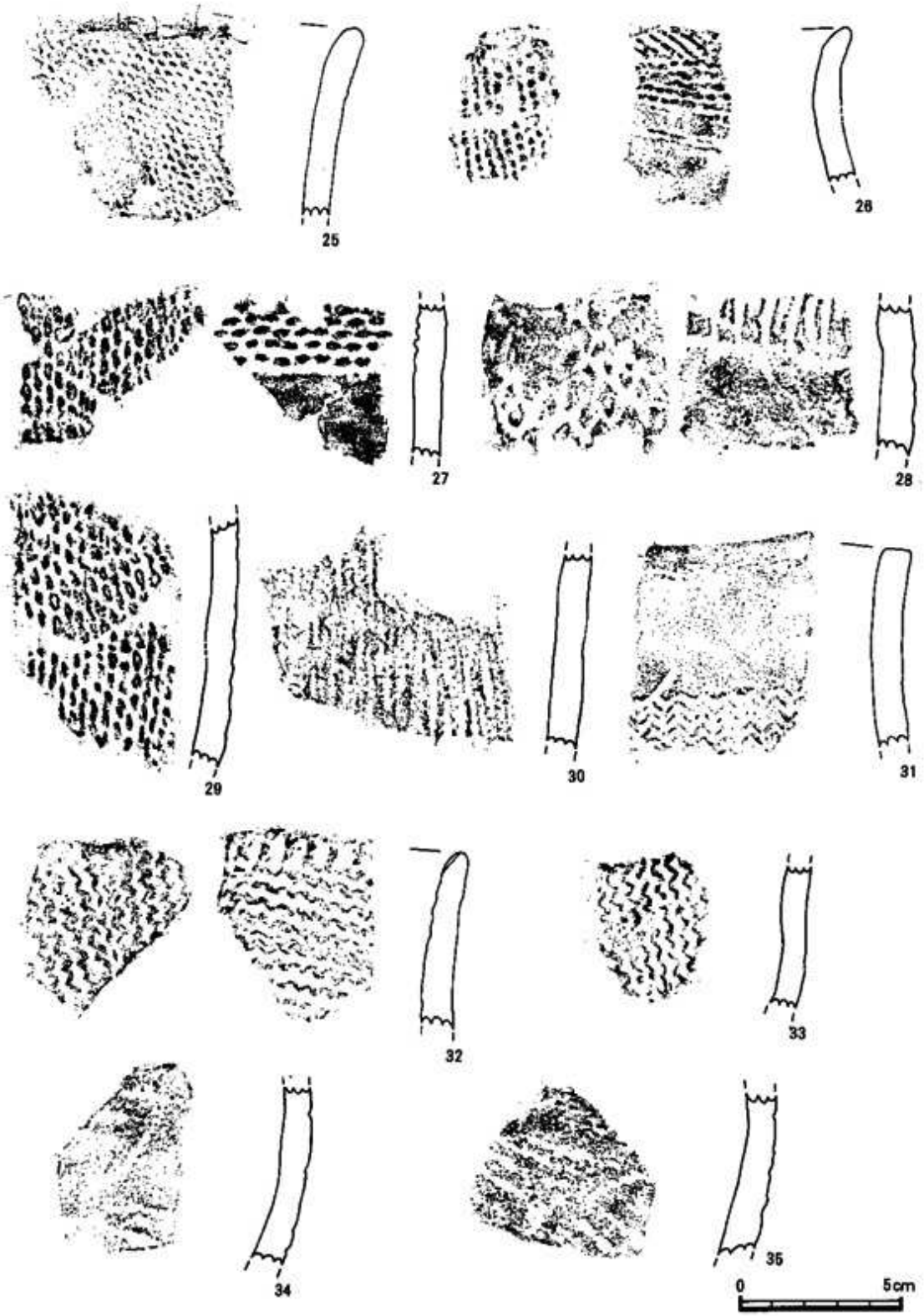
土師器では、篦切りの坏、塊、糸切りの坏、内面黒色の土器、布痕土器、須恵器では胴部破片であり、昭和59年に調査された西ノ原地区遺跡のものと同様である。



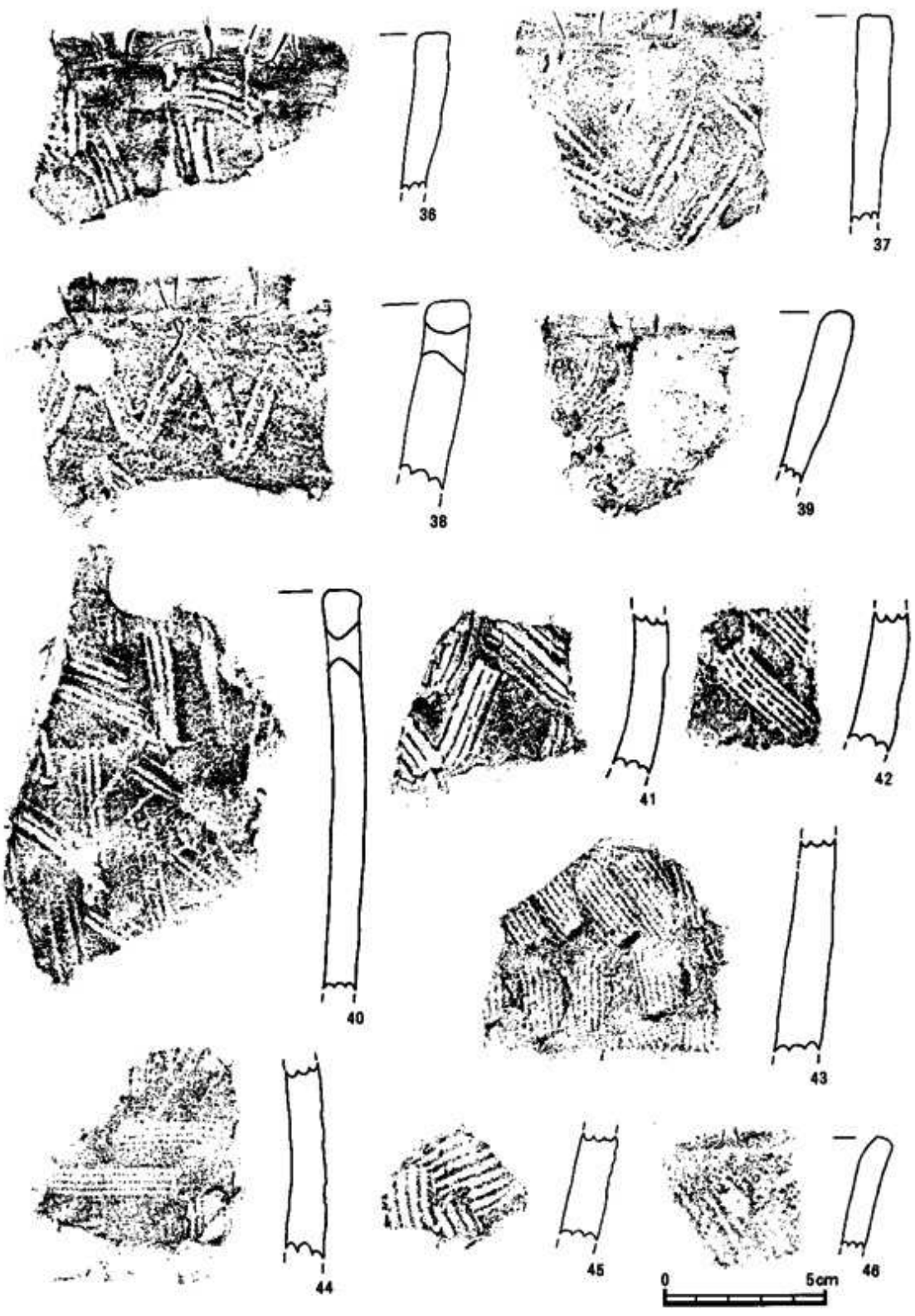
第15図　A～C区出土土器実測図(1)



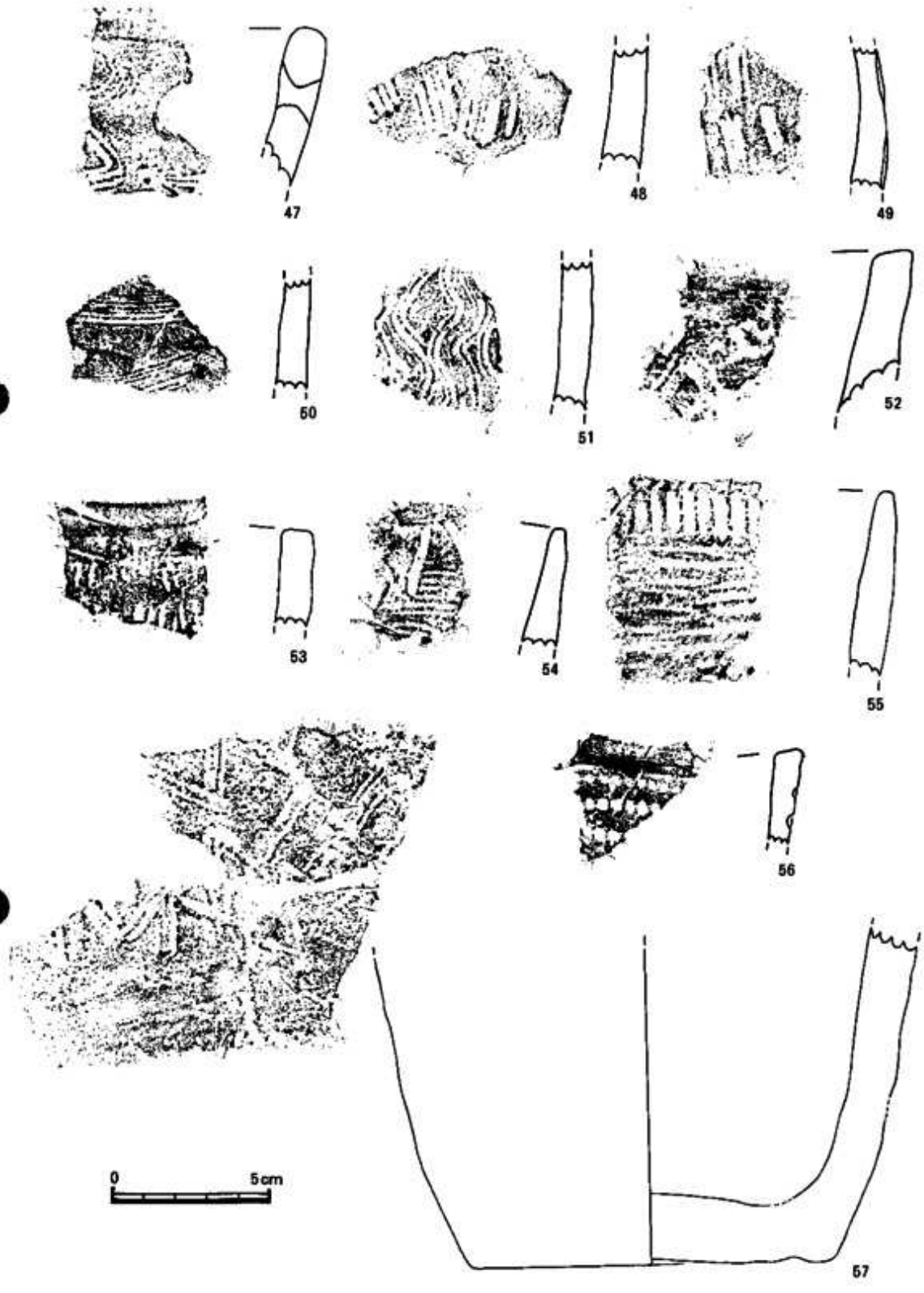
第16図　A～C区出土土器実測図(2)



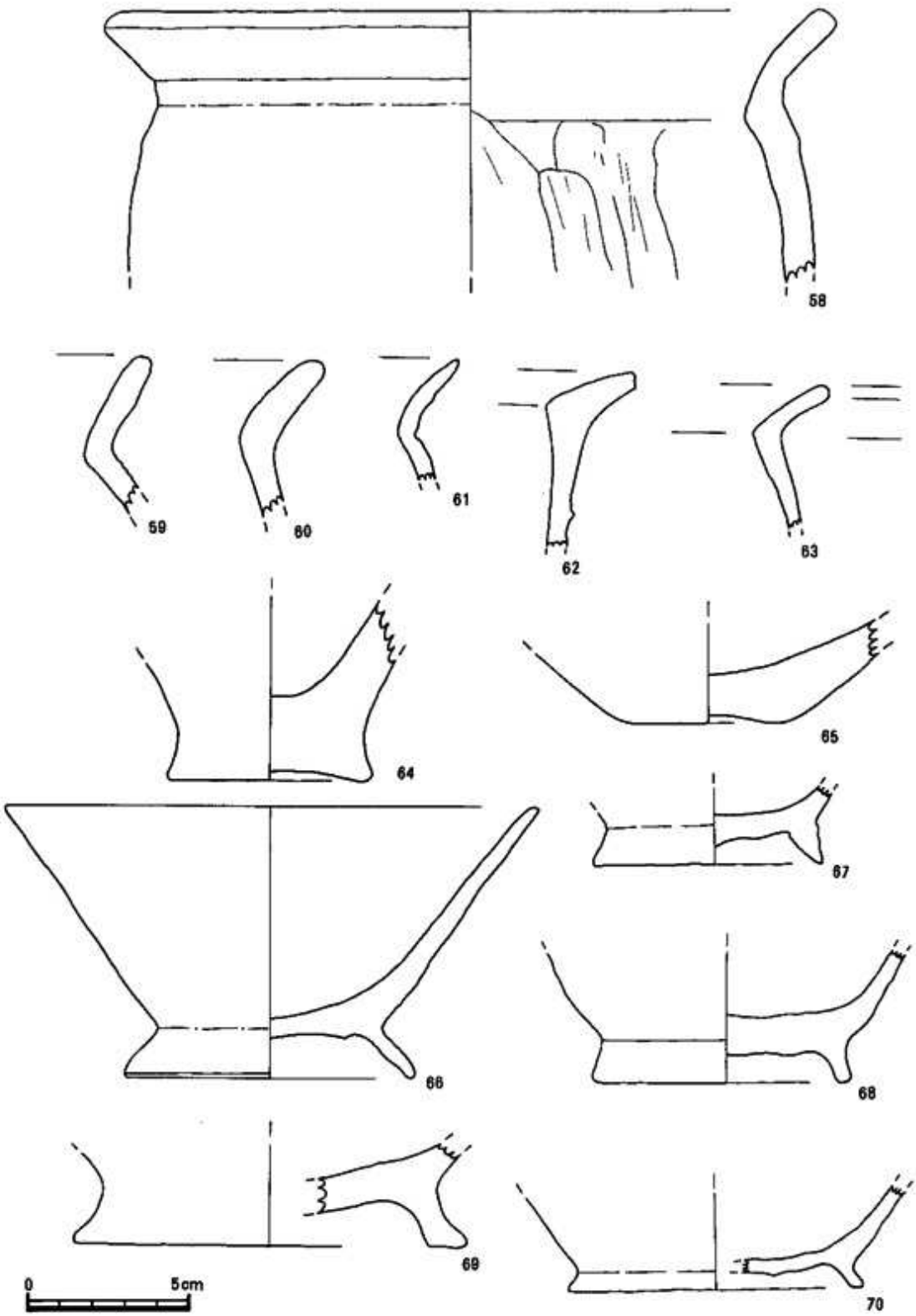
第17図　A～C区出土土器実測図(3)



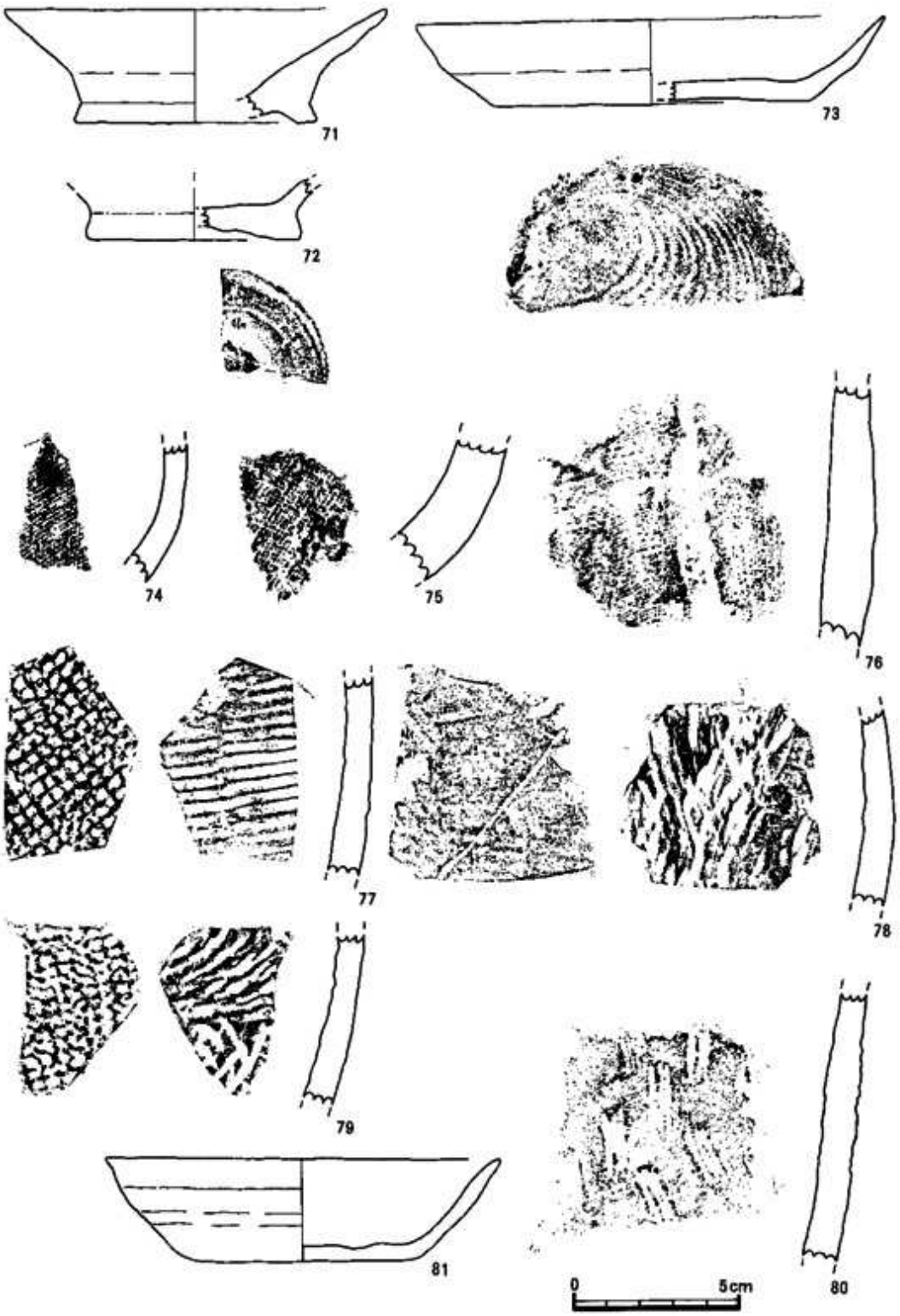
第18図　A～C区出土土器実測図(4)



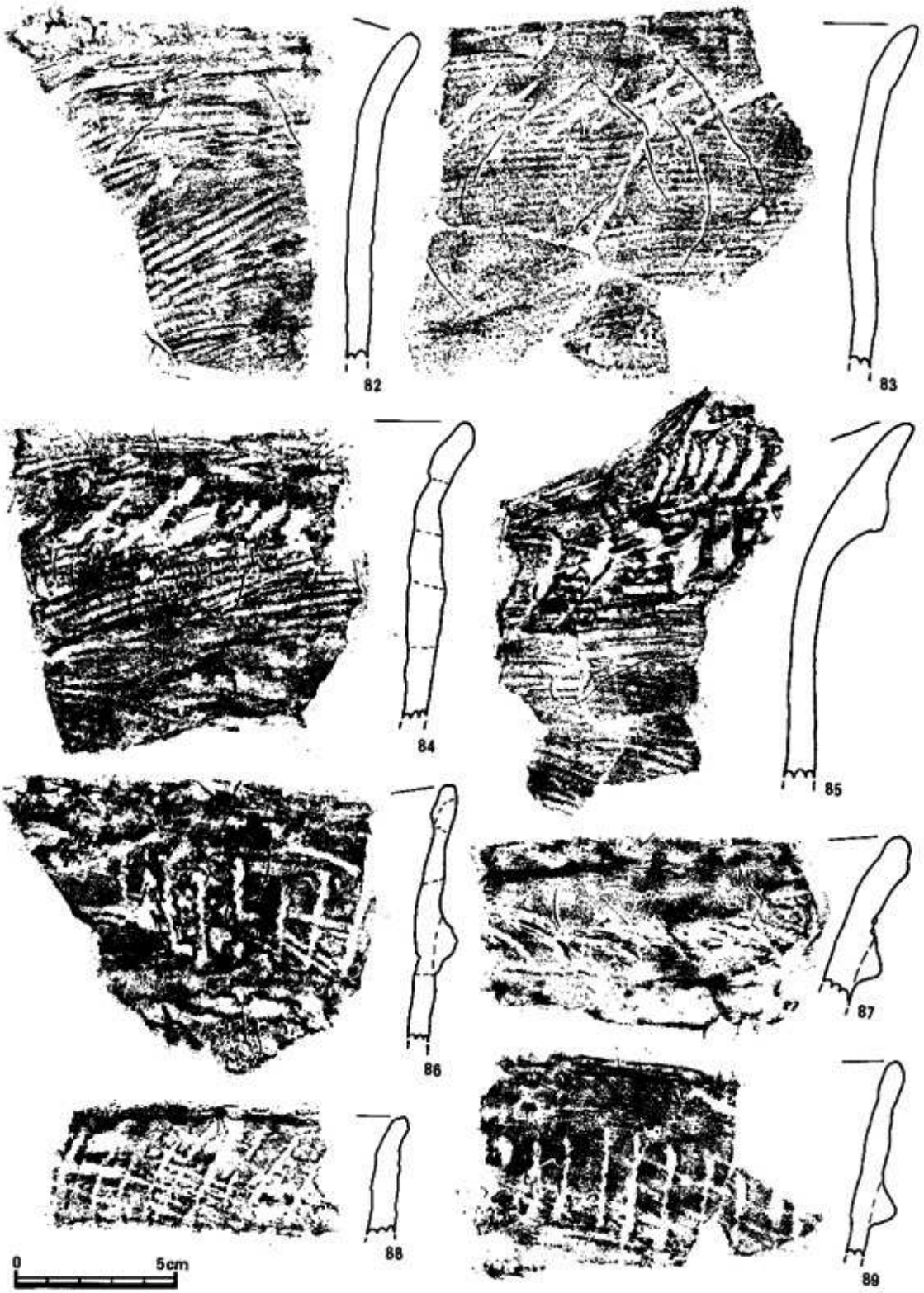
第19図　A～C区出土土器実測図(5)



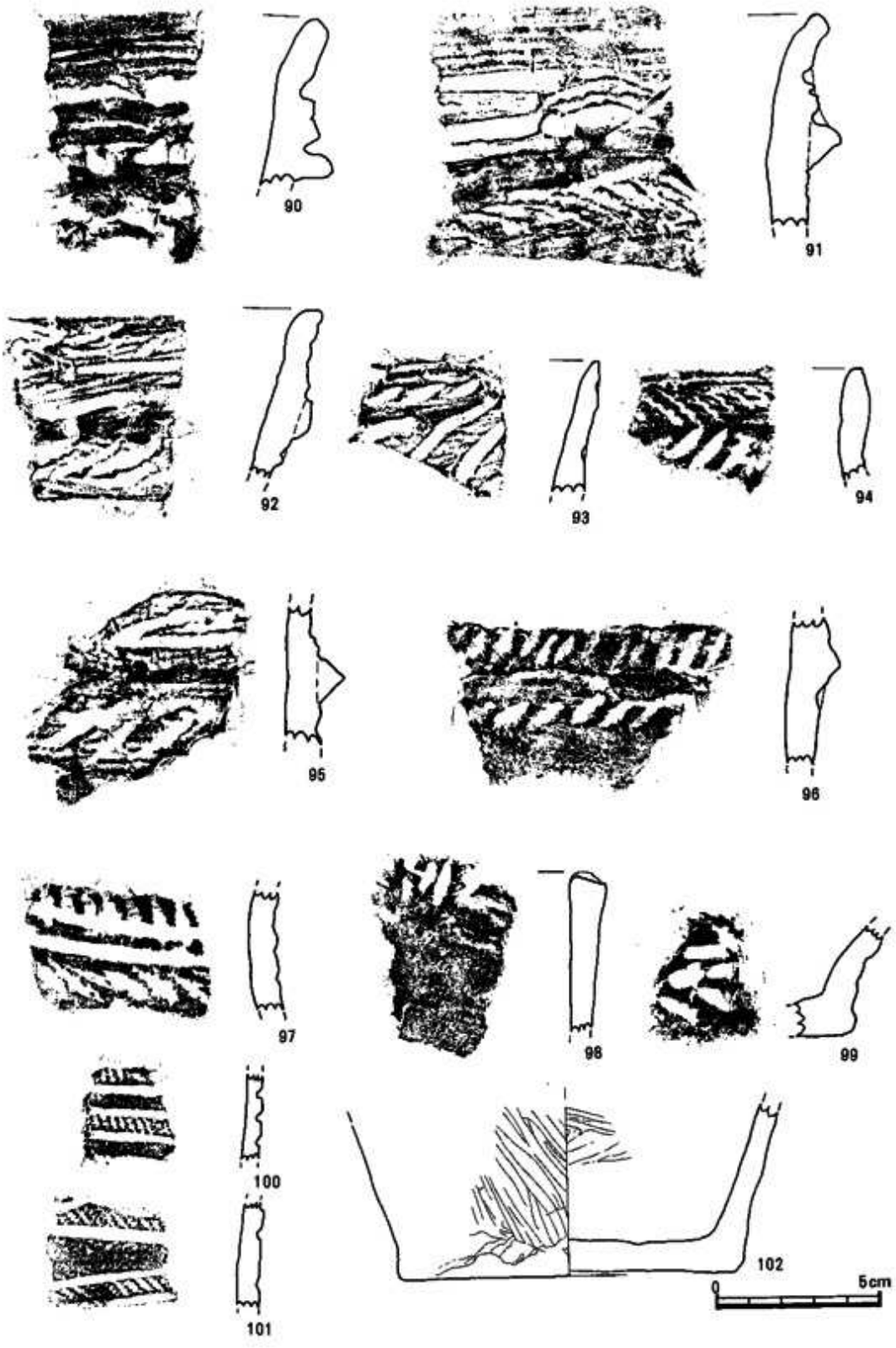
第20図　A～C区出土土器実測図(6)



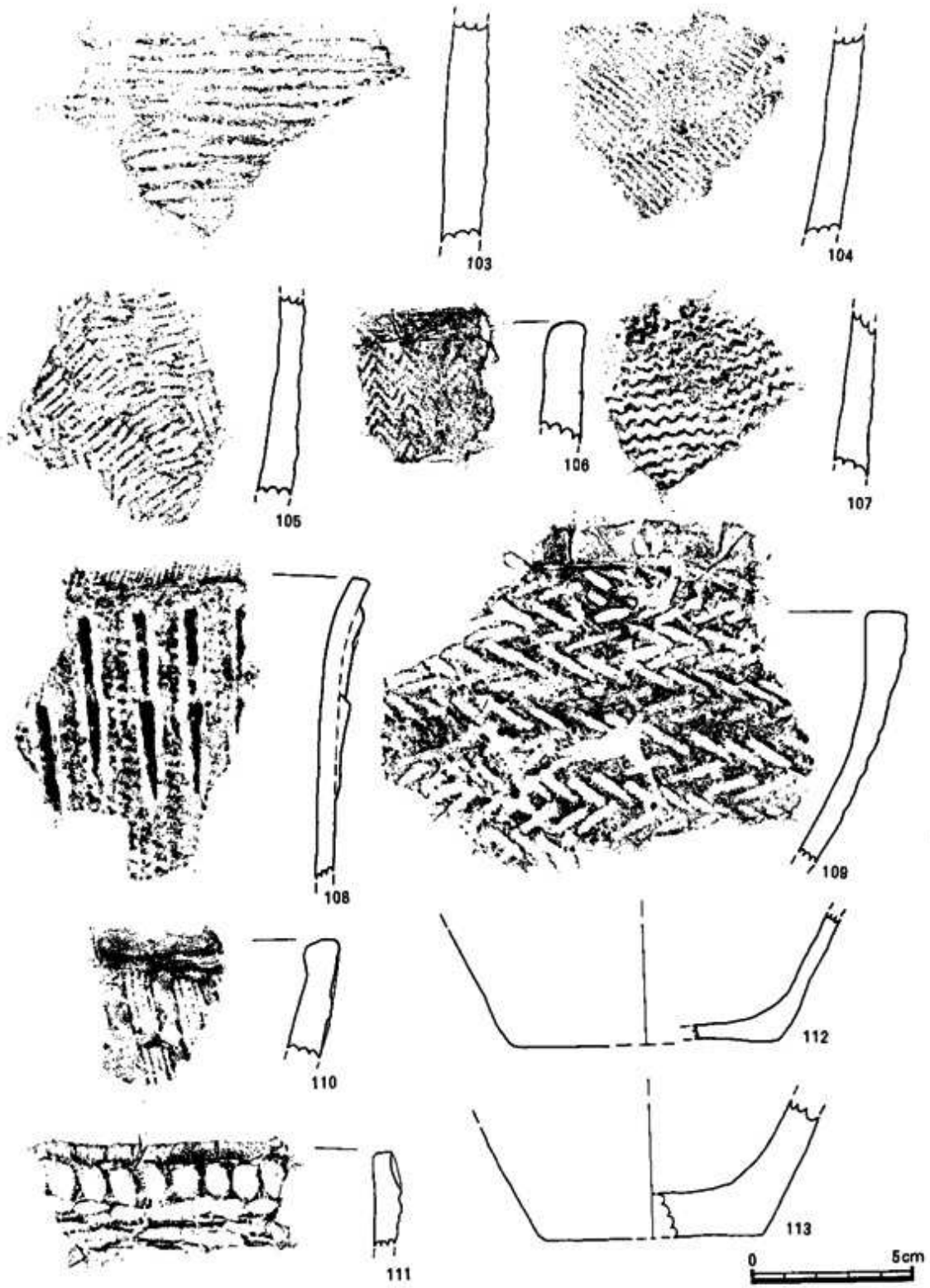
第21図　A～C区出土土器実測図(7)



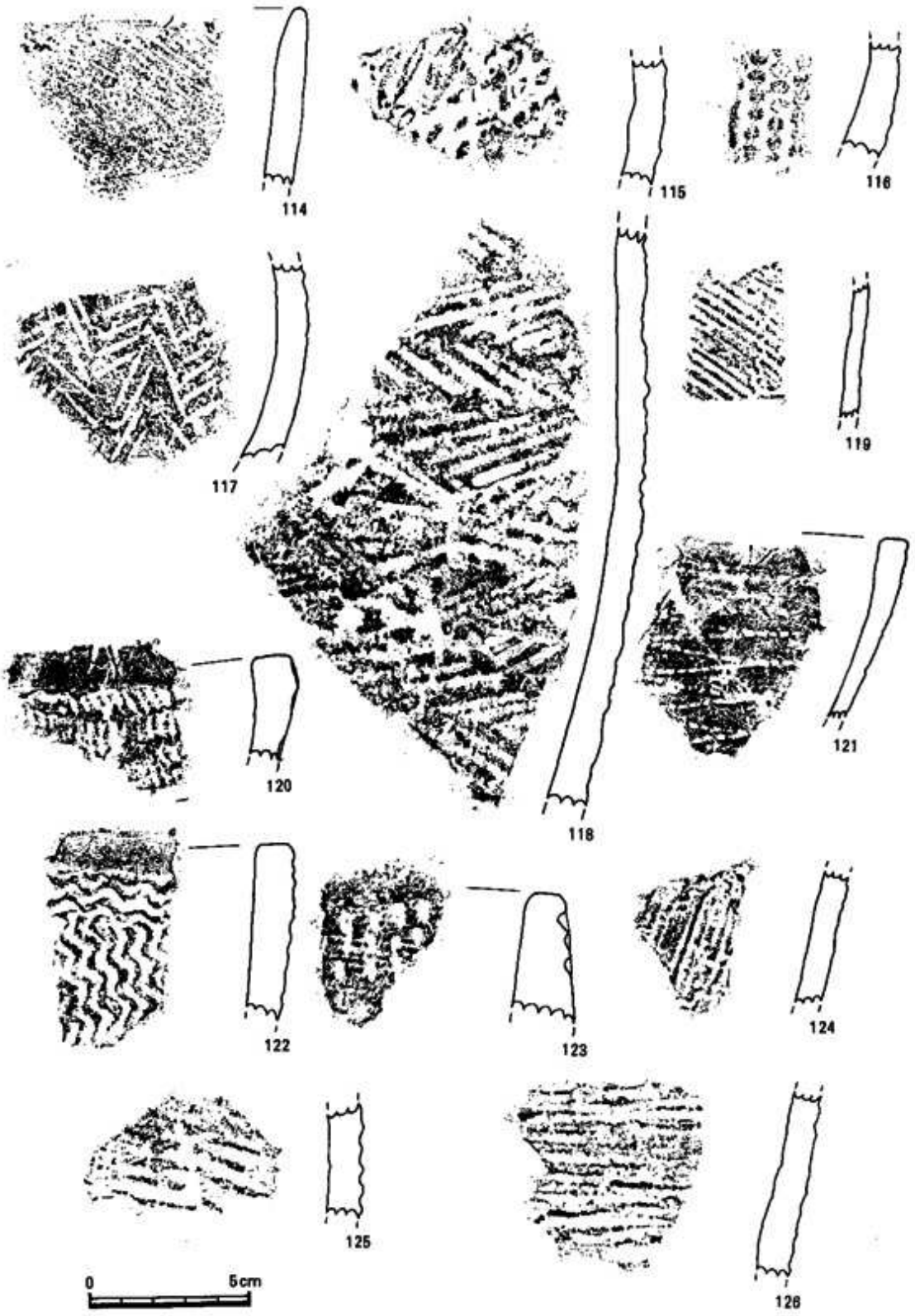
第22図　A～C区出土土器実測図(8)



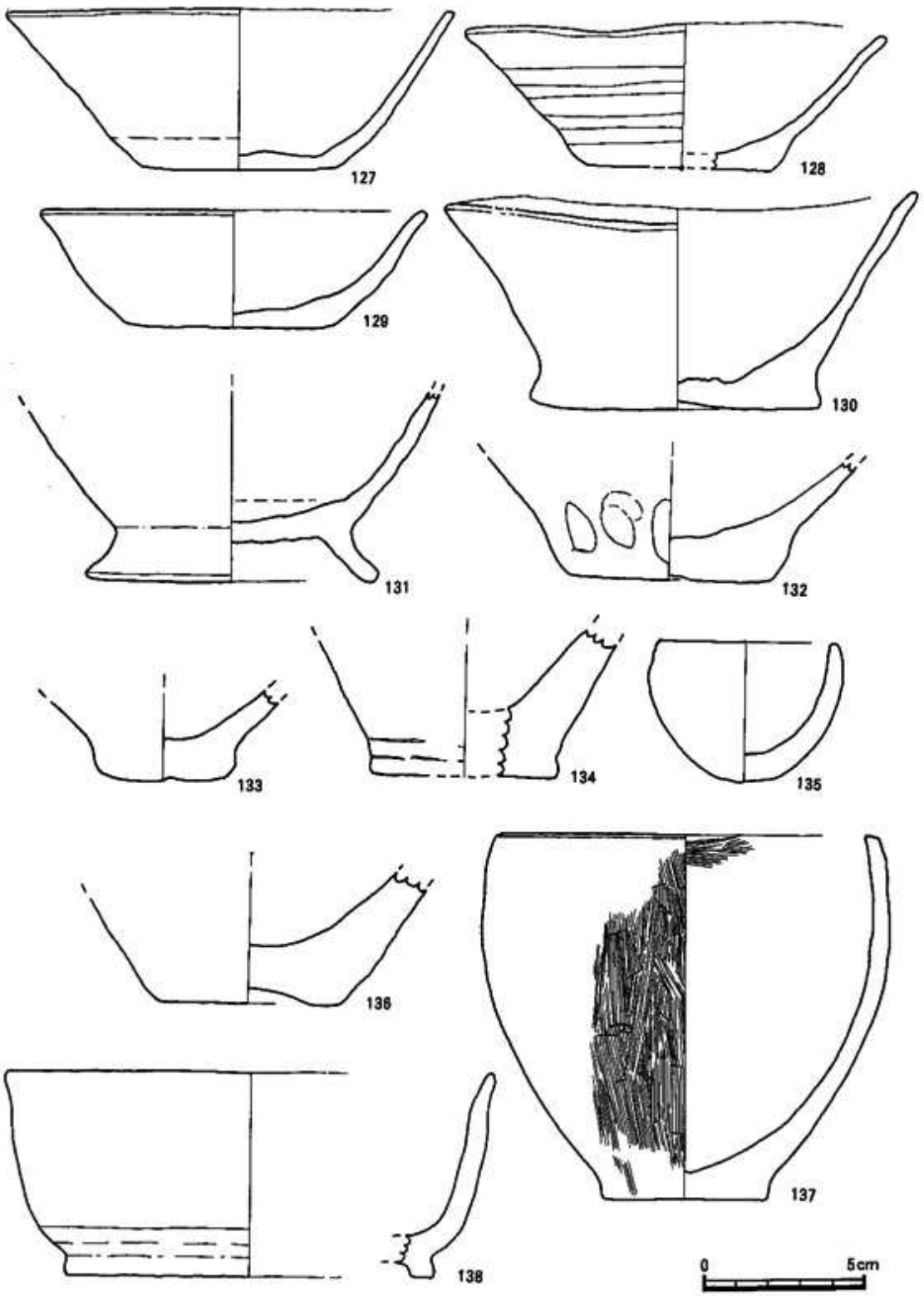
第23図　A～C区出土土器実測図(9)



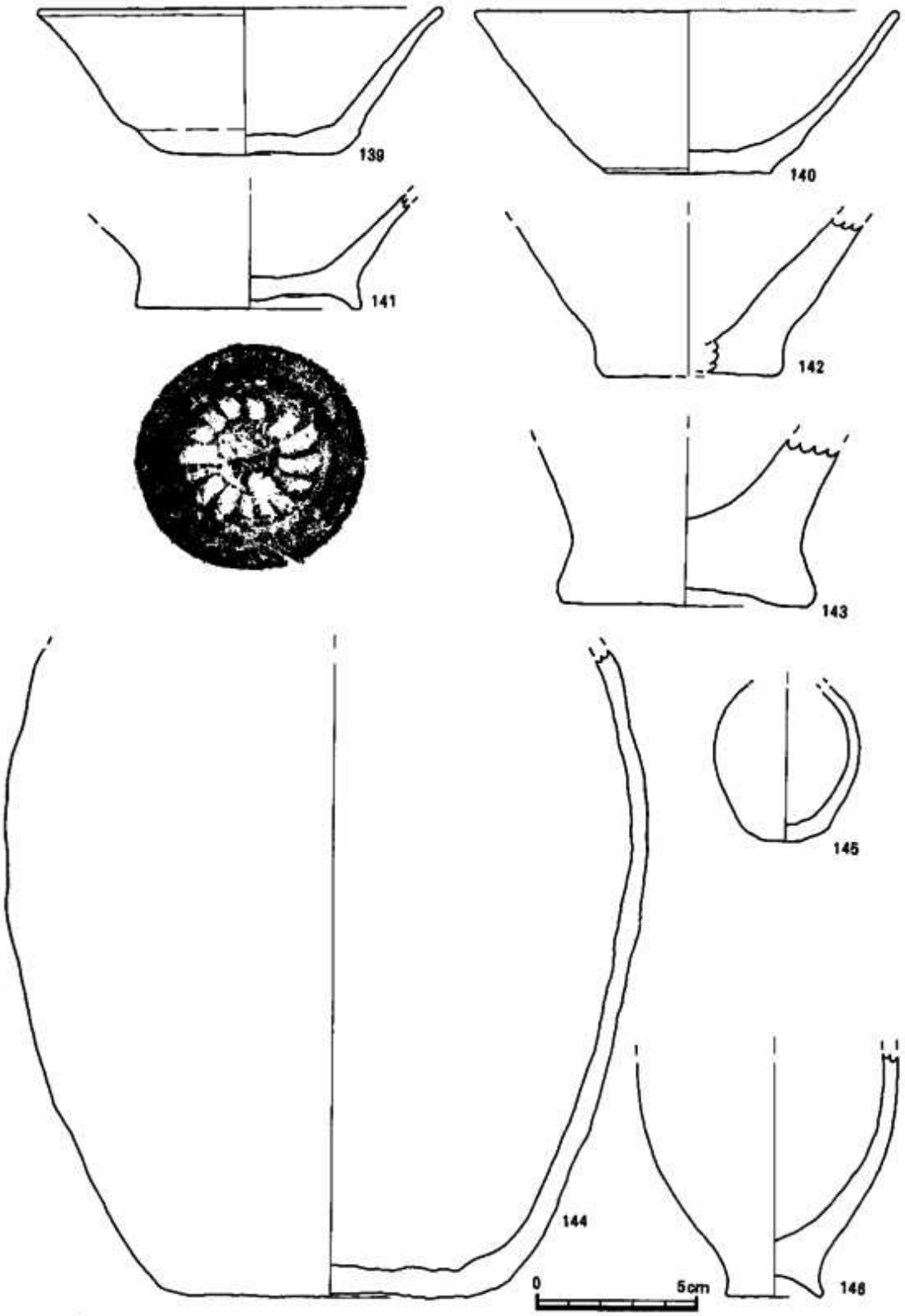
第24図　A～C区出土土器実測図(1)



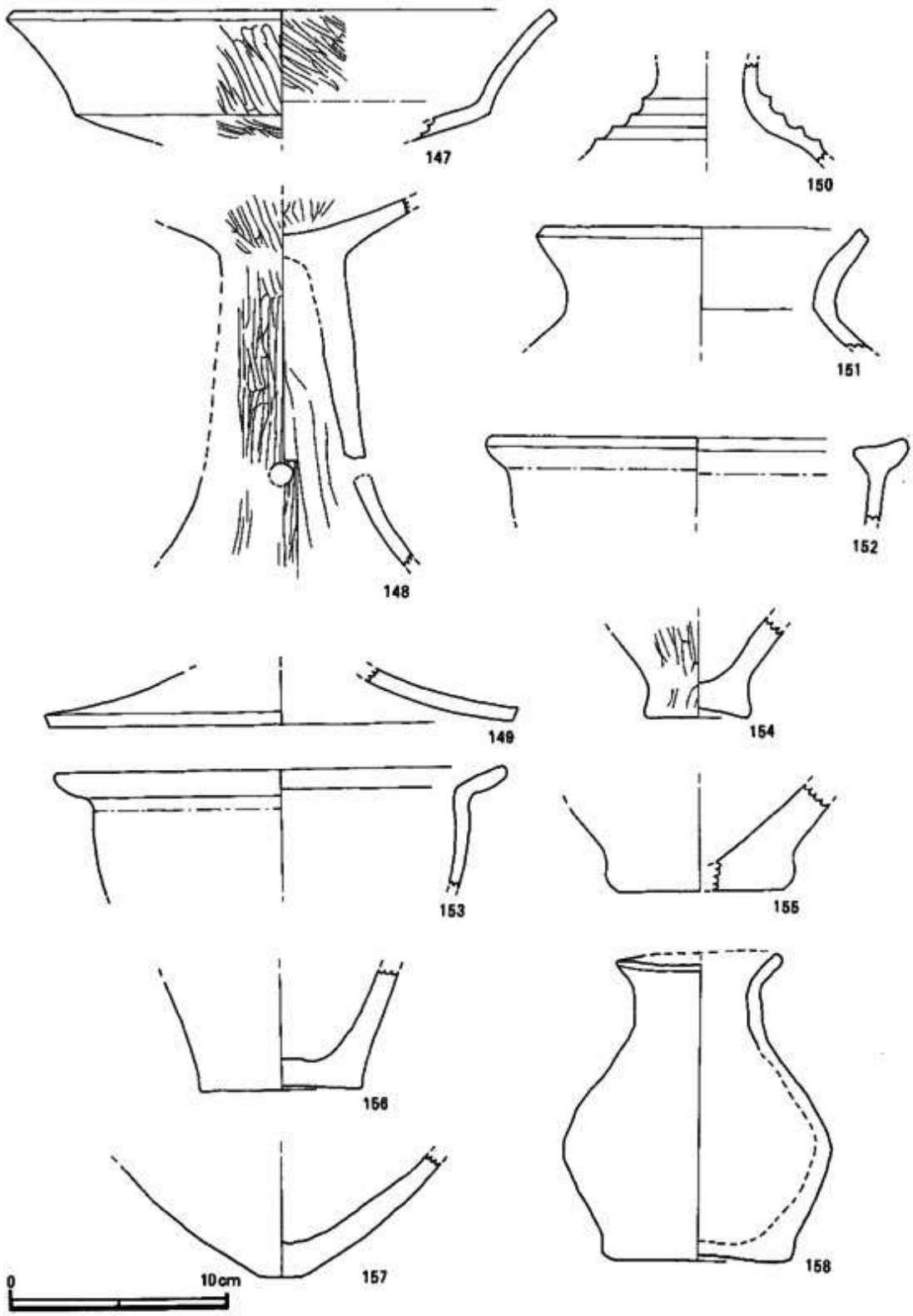
第25図　A～C区出土土器実測図(1)



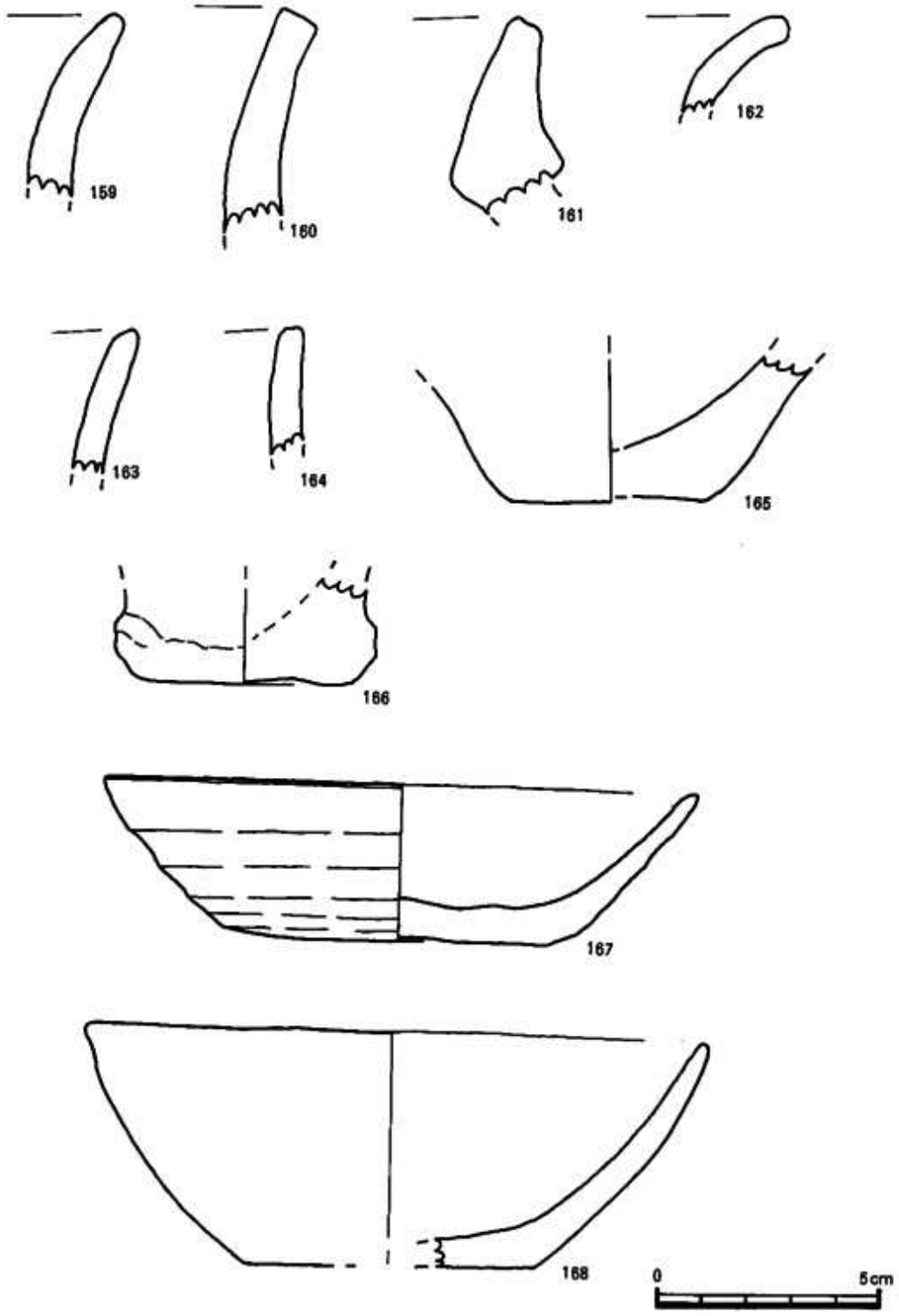
第26図　A～C区出土土器実測図12



第27図　A～C区出土土器実測図(3)



第28図　A～C区出土土器実測図(4)



第29図　A～C区出土土器実測図(15)

A～C区土器観察表

番号	出土地	器種	焼成	胎土・色調	調整・文様	備考
1	A－1	深鉢 口縁部	良	1㎜以下の砂粒及び0.5㎜以下の石英粒を含む 内外とも褐色	内－ナデ 外－押型文	
2	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜以下の砂粒を含む 内外とも暗赤褐色	内－ナデ 外－より糸状	
3	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜以下の石英粒及び黒色の光る砂粒を含む 内－黄褐色　外－淡茶褐色	内－ナデ 外－押型文	
4	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、1㎜以下の石英粒を微量含む 内－暗褐色　外－茶褐色	内－ナデ 外－縄文	
5	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜未満の砂粒を含み、0.5㎜以下の石英粒を微量含む 内－褐色　外－淡茶褐色	内－ナデ 外－押型文	
6	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含む 内－暗褐色　外－黄褐色	内－ナデ 外－押型文	
7	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜以下の砂粒を含む 内外とも暗褐色	内－ヨコナデ 外－押型文	
8	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、石英粒、金雲母を微量含む　内外とも褐色　一部暗褐色	内－ナデ 外－貝殻腹縁文	
9	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒及び1㎜以下の金雲母を含む 内外とも褐色	内－ヨコナデ 外－貝殻腹縁文	
10	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、1㎜以下の金雲母を微量含む 内外とも灰褐色	内－不明 外－クシ状工具による綾杉文	
11	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、1㎜以下の石英粒及び0.5㎜以下の金雲母を微量含む 内－暗黄褐色　外－褐色	内－ヨコナデ 外－クシ状工具による綾杉文	
12	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、1㎜未満の金雲母を微量含む 内－暗褐色　外－黄褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による綾杉文	
13	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、細かい金雲母を微量含む 内外とも暗褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による綾杉文	
14	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み石英粒をごく微量含む 内外とも褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による綾杉文	
15	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜以下の砂粒を含み、細かい金雲母を微量含む 内－暗褐色　外－茶褐色	内－ナデ 外－クシ状工具によるタテ方向施文	
16	〃	深鉢 口縁部	〃	細砂粒を含む 内外とも暗褐色	内－ナデ 外－ヨコナデ、クシ状工具によるタテ方向施文	
17	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜未満の砂粒及び1㎜以下の石英粒を含む 内－褐色　外－淡褐色	内－ヨコナデ 外－ナデ、クシ状工具によるタテ方向施文	
18	〃	深鉢 口縁部	〃	細砂粒及び微細な石英粒を含む 内外とも黄褐色	内－ナデ 外－ヨコナデ、クシ状工具によるタテ方向施文	
19	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、石英粒を微量含む 内外とも茶褐色	内－ナデ 外－クシ状工具によるタテ方向施文	（綾杉状）
20	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、微細な金雲母を少量含む 内外とも暗褐色	内－ヨコナデ 外－ナデ、貝殻文（押引）	（綾杉状）
21	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜未満の砂粒及び1.5㎜以下の金雲母を含む 内－暗茶褐色　外－褐色	内－ヨコナデ 外－ナデ、刺突列点文	（綾杉状）
22	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒をかなり多量に含み、細かい金雲母を少量含む 内－暗褐色　外－黄褐色	内－ナデ 外－条痕	
23	〃	深鉢 底部	〃	1㎜以下の砂粒を含む 内外とも褐色	内－ナデ 外－不明	
24	〃	深鉢 底部	〃	2㎜未満の砂粒を含み、細かい石英粒を微量含む 内－灰褐色　外－淡褐色	内外ともナデ	

番号	出土地	器種	焼成	胎土・色調	調整・文様	備考
25	A－2	深鉢 口縁部	良	2㎜以下の砂粒及び1㎜以下の石英粒を含む 内外とも褐色	内－ナデ 外－押型文	
26	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を少量含み、細かい石英粒をごく微量含む 内外とも褐色	内外とも押型文	
27	〃	深鉢 胴部	〃	細砂粒を少量含み、1㎜未満の石英粒をごく微量含む 内外とも褐色	内外とも押型文	
28	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、1㎜未満の石英粒を微量含む 内－淡茶褐色　外－淡赤褐色	内－ナデ 外－押型文	
29	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒及び1㎜以下の石英粒を含む 内外とも淡褐色	内－ナデ 外－押型文	
30	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、1㎜以下の石英粒を微量含む 内－淡茶褐色　外－赤褐色	内－ナデ 外－押型文	
31	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒及び石英粒を含む 内外とも淡黄褐色	内－ヨコナデ 外－ナデ、押型文	
32	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒及び石英粒を含む 内外とも褐色	内外とも押型文	
33	〃	深鉢 胴部	〃	細砂粒を含み、石英粒を微量含む 内外とも淡褐色	内－ナデ 外－押型文	
34	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、1㎜以下の金雲母をごく微量含む 内外とも褐色	内－ヨコナデ 外－貝殻腹縁文	
35	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜以下の砂粒及び金雲母を含む 内－褐色　外－茶褐色	内－ナデ 外－貝殻腹縁文	
36	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、細かい金雲母を微量含む 内外とも褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による綾杉文	
37	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒及び1㎜以下の石英粒を含む 内外とも淡褐色	内－ヨコナデ 外－クシ状工具による綾杉文	
38	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、金雲母を微量含む 内外とも褐色	内－ヨコナデ 外－クシ状工具による綾杉文	穿孔
39	〃	深鉢 口縁部	〃	3㎜未満の砂粒を含む 内－暗褐色　外－褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による綾杉文	
40	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含む 内－暗褐色　外－淡褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による綾杉文	穿孔
41	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜以下の砂粒を含み、金雲母を微量含む 内－暗褐色　外－褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による綾杉文	
42	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、石英粒を微量含む 内－暗褐色　外－淡茶褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による綾杉文	
43	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜以下の砂粒を含み、細かい石英粒をごく微量含む 内外とも褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による綾杉文	
44	〃	深鉢 胴部	〃	3㎜以下の砂粒を含む 内－暗茶褐色　外－茶褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による綾杉文	
45	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜以下の砂粒を含む 内－褐色　外－黄褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による綾杉文	
46	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜以下の砂粒を含み、細かい石英粒を微量含む 内－淡黄褐色　外－暗褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による綾杉文	
47	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜以下の砂粒及び石英粒を含む 内外とも褐色	内－ヨコナデ 外－クシ状工具による綾杉文	穿孔
48	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、微細な石英粒を微量含む 内－暗褐色　外－茶褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による綾杉文	

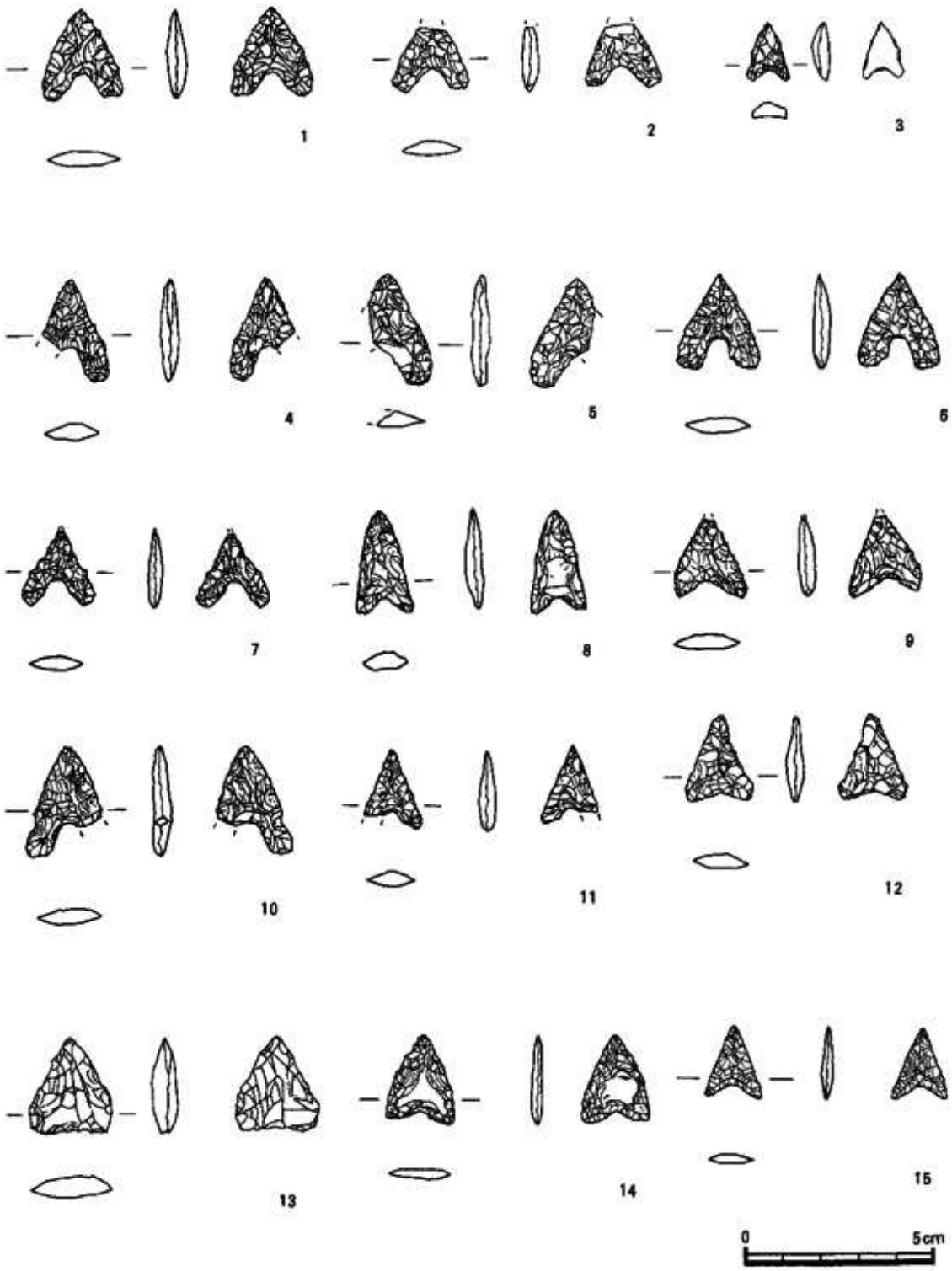
番号	出土地	器種	焼成	胎土・色調	調整・文様	備考
49	A－2	深鉢 胴部	良	1㎜以下の砂粒及び2㎜未満の金雲母を含む 内外とも褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による被杉文	
50	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜未満の砂粒を含む 内－暗赤褐色　外－赤褐色	内－ナデ 外－クシ状工具による被杉文	
51	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜以下の砂粒を含み、金雲母を少量含む 内外とも褐色	内－ナデ 外－クシ状工具によるタテ方向施文	
52	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、細かい金雲母を微量含む 内外とも黄褐色	内－ヨコナデ 外－クシ状工具によるタテ方向施文	
53	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜以下の砂粒を含み、金雲母を微量含む 内－暗褐色　外－褐色	内－ヨコナデ 外－条痕	
54	〃	深鉢 口縁部	〃	細砂粒及び1㎜未満の石英粒を含む 内外とも暗褐色	内－ナデ 外－クシ状工具によるタテ方向施文	
55	〃	深鉢 口縁部	〃	細かい石英粒及び砂粒を含む 内外とも淡褐色	内－ナデ 外－条痕	
56	〃	深鉢 口縁部	〃	細砂粒を含み、1㎜以下の金雲母をごく微量含む 内－茶褐色　外－褐色	内－ナデ 外－刺突列点文	
57	〃	深鉢 底部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、金雲母を微量含む 内外とも褐色	内－ナデ 外－クシ状工具によるタテ方向施文	
58	A－3	壺 口縁部	〃	3㎜未満の砂粒を含む 内外とも茶褐色	内－ヨコナデ 指ナデ、指オサエ 外－ヨコナデ	外面煤付着
59	〃	壺 口縁部	〃	0.5～3.0㎜の砂粒を含む 内外とも淡褐色	内－不明 外－ヨコナデ	
60	〃	壺 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、1㎜以下の石英粒を微量含む 内外とも褐色	内外ともヨコナデ	
61	〃	壺 口縁部	〃	2㎜未満の砂粒を含む 内－暗褐色　外－褐色	内外ともヨコナデ	
62	〃	壺 口縁部	〃	2㎜未満の砂粒を含み、金雲母をごく微量含む 内外とも褐色	内－不明 外－ヨコナデ	凸帯
63	〃	壺 口縁部	〃	3㎜以下の砂粒を含む 内－暗褐色　外－淡赤褐色	内－ナデ 外－不明	
64	〃	壺 底部	〃	2.5㎜以下の砂粒を含む 内－灰褐色　外－茶褐色	不明	
65	〃	壺 底部	〃	1㎜以下の砂粒を多量に含む 内－淡黄褐色　外－黄褐色	不明	
66	〃	高台付椀	〃	1㎜未満の砂粒及び石英粒を含む 内－黒　外－褐色	内－ミガキか 外－ヨコナデ	
67	〃	高台付椀	〃	1㎜未満の砂粒及び微細な石英粒を含む 内外とも橙褐色	内－ナデ 外－ヨコナデ	
68	〃	高台付椀	〃	細砂粒及び石英粒を含む 内－褐色　外－橙褐色	内－不明 外－ヨコナデ	内－煤付着
69	〃	高台付椀	〃	1㎜以下の砂粒を含む 内外とも灰褐色	内－ナデ 外－ヨコナデ	
70	〃	高台付椀	〃	1㎜未満の砂粒を少量含む 内外とも淡橙褐色	内外ともヨコナデ	
71	〃	高台付椀	〃	2㎜未満の砂粒を含み、細かい石英粒をごく微量含む 内－淡褐色　外－淡橙褐色	内－不明 外－ヨコナデ	
72	〃	椀	〃	1㎜未満の砂粒を少量含む 内外とも淡橙褐色	内外ともヨコナデ	底－ヘラ切り

番号	出土地	器種	焼成	胎土・色調	調整・文様	備考
73	A－3	坏	良	細砂粒を少量含む 内外とも淡褐色	内外ともヨコナデ	底－糸切り
74	〃	尖底土器 胴部	〃	3㎜以下の砂粒を含む 内－暗褐色　外－橙褐色	内－布痕 外－ナデ	
75	〃	尖底土器 胴部	〃	0.5㎜～6.0㎜大の砂粒・砂礫を含む 内外とも淡褐色	内－布痕 外－不明	
76	〃	尖底土器 胴部	〃	3㎜以下の砂粒を含む 内－茶褐色　外－灰褐色	内－布痕 外－不明	
77	〃	須恵器 胴部	〃	細砂粒を含む 内－灰褐色　外－赤	内－平行線文 外－格子目文叩き	
78	〃	須恵器 胴部	〃	1㎜未満の砂粒を少量含む 内外とも灰色	内－平行線文の交叉 外－格子目文叩きの上をナデ消し、沈線	
79	〃	須恵器 胴部	〃	細砂粒を少量含む 内－灰色　外－青緑色	内－同じ円文 外－格子目文叩き	緑釉
80	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒をかなり多量に含み、金雲母を少量含む 内－暗褐色　外－褐色	内－不明、一部ヨコナデ 外－クシ状工具によるタテ方向施文	
81	P－2	坏	〃	1㎜未満の砂粒を含む 内外とも淡褐色	内外ともヨコナデ	底－糸切り
82	A－4	深鉢 口縁部	〃	1㎜以下の砂粒及び石英粒を含む 内－赤褐色　外－褐色	内－ナデ 外－条痕	外－煤付着
83	〃	深鉢 口縁部	〃	3㎜未満の砂粒を含み、細かい石英粒を含む 内－淡褐色　外－茶褐色	内－ナデ 外－条痕、貝殻腹縁文	
84	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜以下の砂粒及び石英粒を含む 内外とも茶褐色	内－ナデ 外－条痕、貝殻腹縁文	外面に煤付着
85	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜未満の砂粒を含み、微細な石英粒を少量含む 内外とも茶褐色	内－ナデ 外－条痕、貝殻腹縁文	山形の口縁部部に凸帯
86	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜以下の砂粒及び石英粒を含む 内－褐色　外－暗茶褐色	内－ナデ 外－貝殻腹縁文	凸帯、外面に煤付着
87	〃	深鉢 口縁部	〃	細砂粒及び1㎜未満の石英粒を含む 内外とも赤褐色	内－ナデ 外－貝殻腹縁文	凸帯
88	〃	深鉢 口縁部	〃	細砂粒を含み、微細な石英粒を微量含む 内－茶褐色　外－黒褐色	内－ナデ 外－貝殻腹縁文	
89	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜未満の砂粒及び石英粒を含む 内－暗茶褐色　外－暗褐色	内－ナデ 外－条痕、貝殻腹縁文	凸帯
90	〃	深鉢 口縁部	〃	細砂粒及び1㎜未満の石英粒を含む 内－褐色　外－暗茶褐色	内－ヨコナデ 外－貝殻腹縁施文後に沈線	凸帯
91	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、0.5㎜以下の石英粒を微量含む　内－暗茶褐色　外－暗褐色	内－ナデ 外－貝殻腹縁施文後に沈線	凸帯 外面煤付着
92	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜未満の砂粒を含み、石英粒を微量含む 内－茶褐色　外－褐色	内－条痕 外－貝殻腹縁施文後に沈線	
93	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜未満の砂粒及び0.5㎜以下の石英粒を含む 内－茶褐色　外－褐色	内－ヨコナデ 外－貝殻腹縁施文後に沈線	
94	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒及び細かい石英粒を含む 内－茶褐色　外－赤褐色	内－ヨコナデ 外－貝殻腹縁施文後に沈線	
95	〃	深鉢 胴部	〃	細砂粒及び石英粒を含む 内－赤褐色　外－暗赤褐色	内－ナデ 外－貝殻腹縁施文後に沈線	
96	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒及び1㎜以下の石英粒を含む 内－淡褐色　外－淡赤褐色	内－不明 外－貝殻腹縁施文後に沈線	

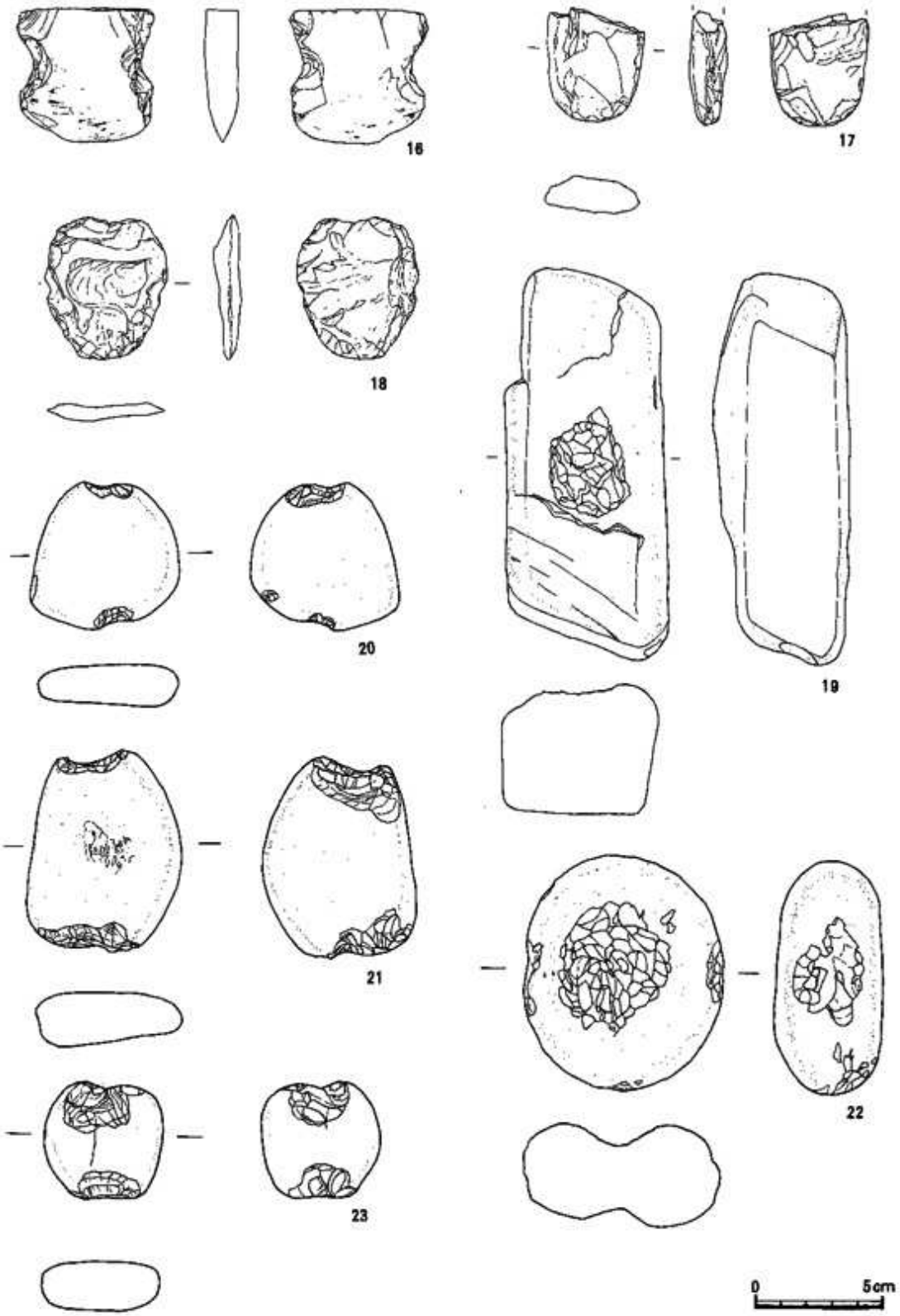
番号	出土地	器種	焼成	胎土・色調	調整・文様	備考
97	A－4	深鉢 胴部	良	細砂粒を含み、0.5㎜以下の石英粒を少量含む 内－暗褐色　外－茶褐色	内－ナデ 外－貝殻腹縁文施文後に沈線	
98	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜未満の砂粒及び石英粒を含む 内外とも赤褐色	内－ヨコナデ 外－ナデ	口唇部押圧文
99	〃	深鉢 底部	〃	細砂粒及び1㎜未満の石英粒を含む 内外とも茶褐色	内－ナデ 外－押圧文	
100	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜以下の砂粒をやや多量に含み、石英粒を少量含む 内外とも褐色	内－ナデ 外－磨消縄文	
101	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜未満の砂粒をやや多量に含み、0.5～1.5㎜の金雲母をごく微量含む 内外とも褐色	内－ナデ 外－磨消縄文	
102	〃	深鉢 底部	〃	1㎜未満の砂粒及び石英粒を含む 内外とも茶褐色	内－ナデ 外－条痕	
103	B－1	深鉢 胴部	〃	細砂粒を含む 内外とも淡褐色	内－不明 外－条痕	
104	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜以下の砂粒を含み、石英粒を微量含む 内外とも黄褐色	内－ナデ 外－条痕	
105	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜未満の砂粒を含み、2㎜以下の金雲母を微量含む 内外とも暗褐色	内－ナデ 外－条痕	
106	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含む 内外とも淡褐色	内－ナデ 外－押型文	
107	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒及び0.5㎜以下の石英粒を含む 内－暗黄褐色　外－黄褐色	内－不明 外－押型文	
108	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜未満の砂粒を含み、石英粒を微量含む 内外とも暗茶褐色	内－ナデ 外－貝殻腹縁施文後にクサビ形凸帯	
109	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含む 内外とも褐色	内－ナデ 外－ヘラ状工具による綾杉文	
110	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜以下の砂粒を含み細かい石英粒を微量含む 内外とも褐色	内－ヨコナデ 外－クシ状工具によるタテ方向施文	
111	〃	深鉢 口縁部	〃	細砂粒を含む 内外とも黄褐色	内－ナデ 外－押圧文	
112	〃	深鉢 底部	〃	1㎜以下の砂粒を含み、2㎜以下の金雲母をごく微量含む 内外とも褐色	内－不明 外－ナデ	
113	〃	深鉢 底部	〃	2㎜以下の砂粒及び細かい石英粒を含む 内外とも淡褐色	内外ともナデ	
114	B－2	深鉢 口縁部	〃	1㎜以下の砂粒を含み、2㎜未満の石英粒を少量含む 内－淡褐色　外－淡黄褐色	内－ナデ 外－条痕	
115	〃	深鉢 胴部	〃	3㎜未満の砂粒を含み、5～7㎜の砂礫をごく微量含む 内－暗褐色　外－褐色	内－ナデ 外－押型文	
116	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、細かい金雲母を微量含む 内外とも褐色	内－不明 外－押型文	
117	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜未満の砂粒を含み、金雲母を微量含む 内－暗褐色　外－褐色	内－ヨコナデ 外－ヘラ状工具による山形文	
118	〃	深鉢 胴部	〃	3㎜以下の砂粒を含み、1㎜以下の金雲母をごく微量含む 内外とも暗黄褐色	内－ナデ 外－ヘラ状工具による綾杉文	
119	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜未満の砂粒を含み、石英粒をごく微量含む 内外とも茶褐色	内－不明 外－条痕後に貝殻腹縁文	
120	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、金雲母を少量含む 内外とも灰褐色	内－ヨコナデ 外－クシ状工具による綾杉状か？	

番号	出土地	器種	焼成	胎土・色調	調整・文様	備考
121	B－2	深鉢 口縁部	良	細砂粒を含む 内外とも褐色	内－ヨコナデ 外－貝殻腹縁による線刻文	
122	B－3	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、1㎜未満の金雲母を微量含む 内－黒褐色　外－褐色	内－ヨコナデ 外－押型文	
123	〃	深鉢 口縁部	〃	細砂粒及び石英粒を含む 内－淡褐色　外－黄褐色	内－ナデか 外－押引	
124	〃	深鉢 胴部	〃	細砂粒及び石英粒を含む 内外とも淡褐色	内－ヨコナデ 外－条痕後に貝殻腹縁文	
125	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含む 内－淡褐色　外－淡茶褐色	内－不明 外－条痕	
126	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜未満の砂粒を含み、微細な石英粒を微量含む 内外とも淡褐色	内－不明 外－条痕	
127	C	椀	〃	1㎜以下の砂粒及び0.5㎜以下の石英粒をやや多量に含む 内外とも淡橙褐色	内外ともヨコナデ	底－ヘラ切り 後ナデ
128	〃	椀	〃	1.5㎜以下の砂粒を含み、5㎜以下の砂礫をごく微量含む 内－淡橙褐色　外－淡褐色	内外ともヨコナデ	
129	〃	坏	〃	1㎜以下の砂粒を含む 内外とも灰褐色	内外ともヨコナデ	底－ヘラ切り 後ナデ
130	〃	椀	〃	1㎜以下の砂粒を含み、5㎜以下の砂礫及び1㎜未満の石英粒をごく微量含む 内外とも淡褐色	内外ともヨコナデ	
131	〃	高台付椀	〃	2㎜未満の砂粒及び微細な石英粒を含む 内外とも淡褐色	内外ともヨコナデ	
132	〃	壺 底部	〃	2㎜以下の砂粒及び1㎜以下の石英粒を含む 内－橙褐色　外－茶褐色	内－不明 外－指オサエ	
133	〃	壺 底部	〃	1㎜以下の砂粒を含む 内－黄褐色　外－橙褐色	不明	
134	〃	甕 底部	〃	3㎜以下の砂粒を含む 内－淡橙褐色　外－淡褐色	内－不明 外－ナデ	
135	〃	ミニチュア 土器	〃	2㎜以下の砂粒を含み、微細な石英粒を少量含む 内－灰褐色　外－淡褐色	内外ともナデ	
136	〃	壺 底部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、石英粒を少量含む 内外とも褐色	内－不明 外－ナデ	
137	〃	鉢	〃	4㎜未満の砂粒を含む 内－淡褐色　外－褐色	内－ナデ 外－ハケ目 一部その上をヨコナデ	
138	〃	高台付椀	〃	1㎜以下の砂粒を含む 内－淡橙褐色　外－淡褐色	内外ともナデ	
139	〃	椀	〃	細砂粒を含む 内外とも淡褐色	内外ともヨコナデ	底－ヘラ切り の後ナデ
140	〃	椀	〃	2㎜以下の砂粒を含む 内外とも淡褐色	内外ともヨコナデ	底－ヘラ切り
141	〃	椀	〃	1㎜未満の砂粒を含む 内外とも淡橙褐色	内－ナデ 外－ヨコナデ	
142	〃	甕	〃	3㎜以下の砂粒及び微細な石英粒を含む 内－淡褐色　外－淡橙褐色	内外ともナデ	
143	〃	甕 底部	〃	3㎜以下の砂粒を含む 内－黒褐色　外－淡褐色	内－ナデか 外－ナデ	外面煤付着
144	〃	甕	〃	0.5～5.0㎜の砂粒、砂礫をかなり多量に含む 内－淡茶褐色　外－淡褐色	内－不明 外－不明、一部にナデ痕	

番号	出土器	器種	焼成	胎土・色調	調整・文様	備考
145	C	ミニチュア壺	良	1㎜以下の砂粒を含む 内外とも灰褐色	内外ともナデ	
146	〃	ミニチュア壺	〃	4㎜未満の砂粒を含む 内ー灰褐色　外ー淡橙褐色	内外ともナデ	
147	〃	高坏	〃	2㎜以下の砂粒を含む 内外とも暗赤褐色	内外ともミガキ 口唇部はヨコナデ	朱塗りの可能性あり
148	〃	高坏	〃	2㎜以下の砂粒を含む 内外とも褐色　一部明茶褐色	坏部ー内外ともミガキ 脚部ー内ー上下の指ナデ 外ーミガキ	〃 透かし残存3 推定4
149	〃	高坏	〃	2㎜未満の砂粒を含む 内外とも淡褐色	内外とも ヨコナデの上を縦のミガキ	
150	〃	壺頸部	〃	2㎜未満の砂粒を含む 内ー灰褐色　外ー淡褐色	内ーナデ 外ーヨコナデ	内面煤付着
151	〃	甕口縁部	〃	3㎜以下の砂粒を少量含む 内外とも淡褐色	内ーヨコナデ 外ーナデ	
152	〃	甕口縁部	〃	細砂粒を少量含み、1㎜以下の石英粒を微量含む 内外とも淡褐色	内外ともヨコナデ	外面煤付着
153	〃	甕口縁部	〃	2㎜未満の砂粒をかなり多量に含む 内外とも淡黄褐色	内ーヨコナデ 外ーナデ	
154	〃	甕底部	〃	3㎜未満の砂粒を含み、微細な石英粒を微量含む 内外とも褐色	内ーナデ 外ーミガキ	
155	〃	甕底部	〃	1～4㎜の砂粒を少量含む 内ー褐色　外ー橙褐色	内ーナデ 外ー不明	
156	〃	甕底部	〃	0.5～2.0㎜の砂粒をやや多量に含み、微細な石英粒を少量含む 内外とも褐色	内外ともナデ	外面煤付着
157	〃	甕底部	〃	3㎜以下の砂粒をやや多量に含み、1㎜未満の石英粒を微量含む 内ー褐色　外ー淡褐色	内外ともナデ	
158	〃	壺	〃	2㎜以下の砂粒及び1㎜以下の石英粒を含む 内外とも淡褐色	内ーナデ 外ー不明、一部ナデ	黒変部分あり
159	〃	甕口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、6㎜大の砂礫をごく微量含む 内外とも淡褐色	内ーヨコナデか 外ー不明	
160	〃	甕口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含む 内外とも淡褐色	内ーヨコナデ 外ーナデ	
161	〃	甕口縁部	〃	2㎜未満の砂粒を含み、2㎜以下の金雲母を微量含む 内外とも褐色	内ーナデ 外ーヨコナデ	
162	〃	甕口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、4㎜大の砂礫を微量含む 内外とも淡橙褐色	内外ともヨコナデ	
163	〃	甕口縁部	〃	3㎜以下の砂粒を含む 内外とも淡褐色	内ー不明 外ーヨコナデ	
164	〃	甕口縁部	〃	2㎜以下の砂粒をやや多量に含む 内外とも淡褐色	内外ともヨコナデ	
165	〃	壺底部	〃	1㎜未満の砂粒及び石英粒を含む 内ー灰褐色　外ー淡褐色	内外ともナデ	
166	〃	甕底部	〃	3㎜以下の砂粒を含む 内外とも淡褐色	内ー不明 外ーナデ	
167	〃	坏	〃	1㎜以下の砂粒を含む 内外とも淡茶褐色	内外ともヨコナデ	
168	〃	鉢	〃	0.5～3.0㎜の砂粒を含む 内ー黒　外ー淡褐色	内ー丁寧なナデ 外ーナデ	



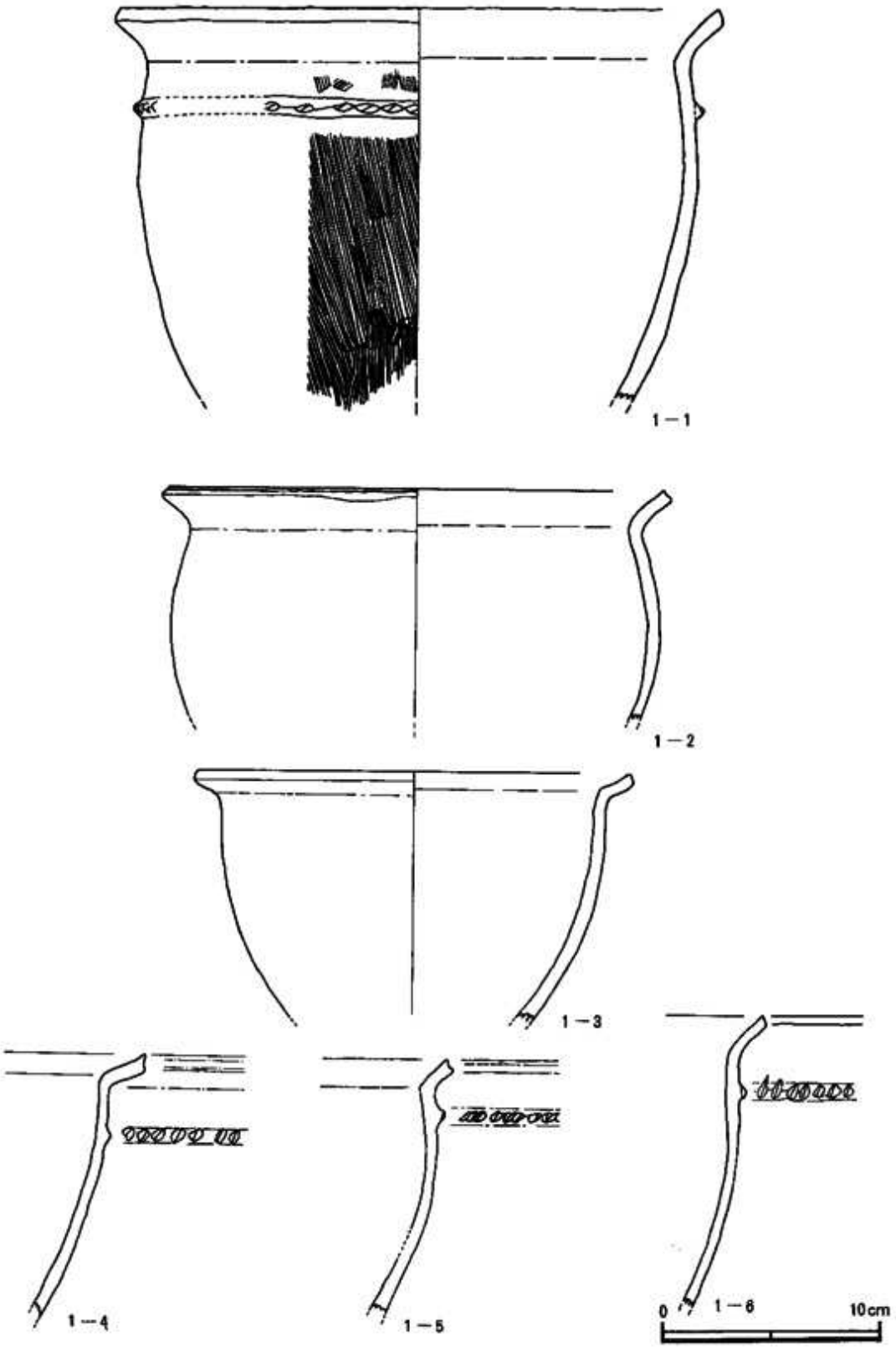
第30図　A～C区出土石器実測図(1)



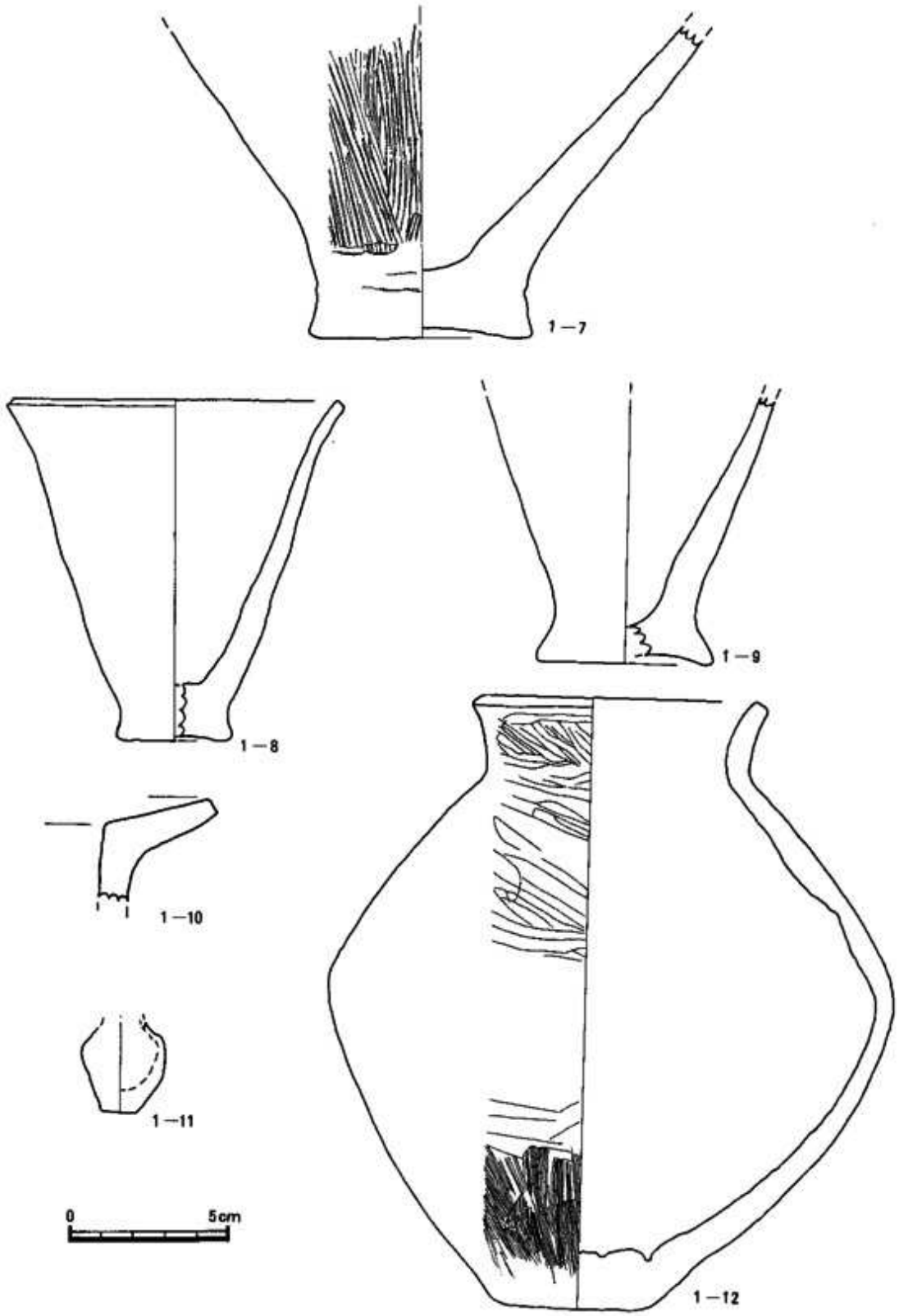
第31図　A～C区出土石器実測図(2)

A～C区石器観察表

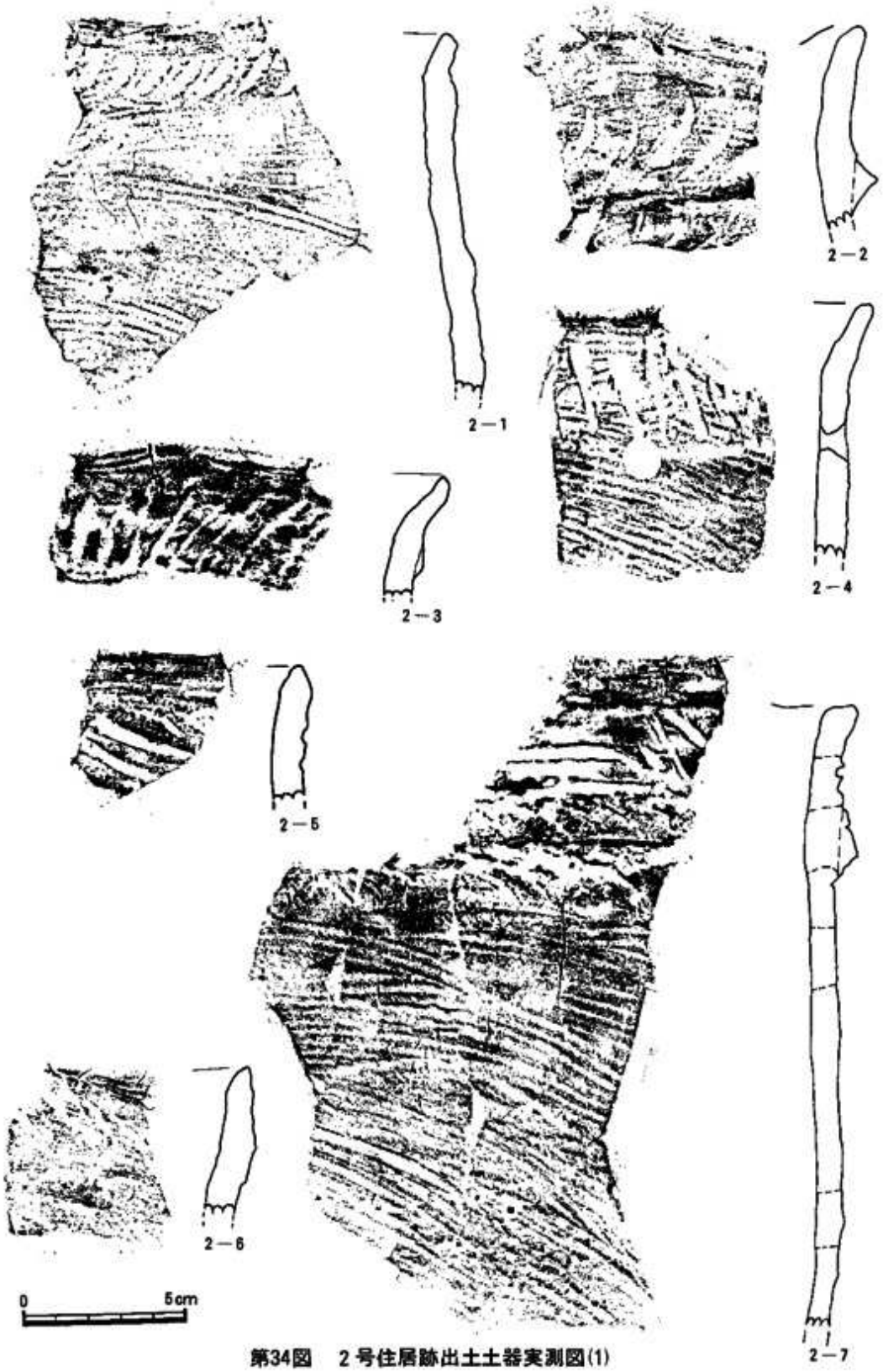
番号	出土地	器種	材質	所見
1	A－1	石鏃	黒曜石	全長2.4cm、側辺の打ち欠きによる突起が著しい。
2	〃	〃	〃	現長1.6cm、先端より1／3の部分で欠損、側辺は鈍い。
3	〃	〃	〃	全長1.5cm、亀の甲状を呈し、離面は剥離面を残す。
4	〃	〃	〃	全長2.5cm、先端から1cm程側辺部と片石を欠損。
5	〃	〃	チャート	全長3.0cm、大型であるが、側辺の造りは鈍い。
6	A－2	〃	流紋岩	全長2.5cm、両側辺の突起も細く鋭利である。
7	〃	〃	チャート	現長2cm、先端部を欠損、側辺の突起に突損が多い。
8	〃	〃	頁岩	全長2.6cm、細長く基部が肥厚する。側辺は直線的である。
9	〃	〃	流紋岩	現長1.8cm、先端部を欠損、側辺は細かく鋭い突起がある。
10	〃	〃	チャート	現長2.8cm、先端と片石を欠損、足の付け根に打ち欠きを行う。
11	〃	〃	頁岩	全長2.0cm、片石を欠損、先端及び側辺の加工は細かい。
12	B－1	〃	〃	現長2.2cm、先端及び片足先を欠損、側辺加工は大きく、基部の造りは浅い。
13	〃	〃	流紋岩	全長2.3cm、平基で厚みのある点は他と異なる。
14	C	〃	頁岩	全長2.2cm、側辺の加工は細かく、両面とも中央部を研磨する。
15	〃	〃	黒曜石（白色）	現長1.8cm、先端部を若干欠損、小型で丁寧な造り。
16	A－1	石斧	頁岩	長さ5cmの正方形に近い。現形では石斧として小型であり、破損後石錘に転用か？
17	〃	〃（？）	〃	現長4.3cm、刃部は明瞭に形成されていないが、破損が見られる。16とは別用途と思われる。
18	A－2	スクレーパー	チャート	長軸5.5cm、短軸4.7cm、ほぼ全面に破損が見られる。
19	A－4	凹石	砂岩	全長15cm、上、下面に敲打痕が見られる。側面は砥石として使用し、先端に若干敲打がある。
20	〃	石錘	〃	全長5.7cm、75g、打ち欠きが小さい。
21	〃	〃	〃	全長8cm、140g、打ち欠きが短辺全面へ及ぶ。
22	B－2	凹石	〃	長軸9.5cm、短軸8cmで両面共に1cmの凹を有する。側辺は全面的に敲打痕が残る。
23	C	石錘	〃	全長4.5cm、60g、打ち欠きが短辺全面に及び、直線的になっている。



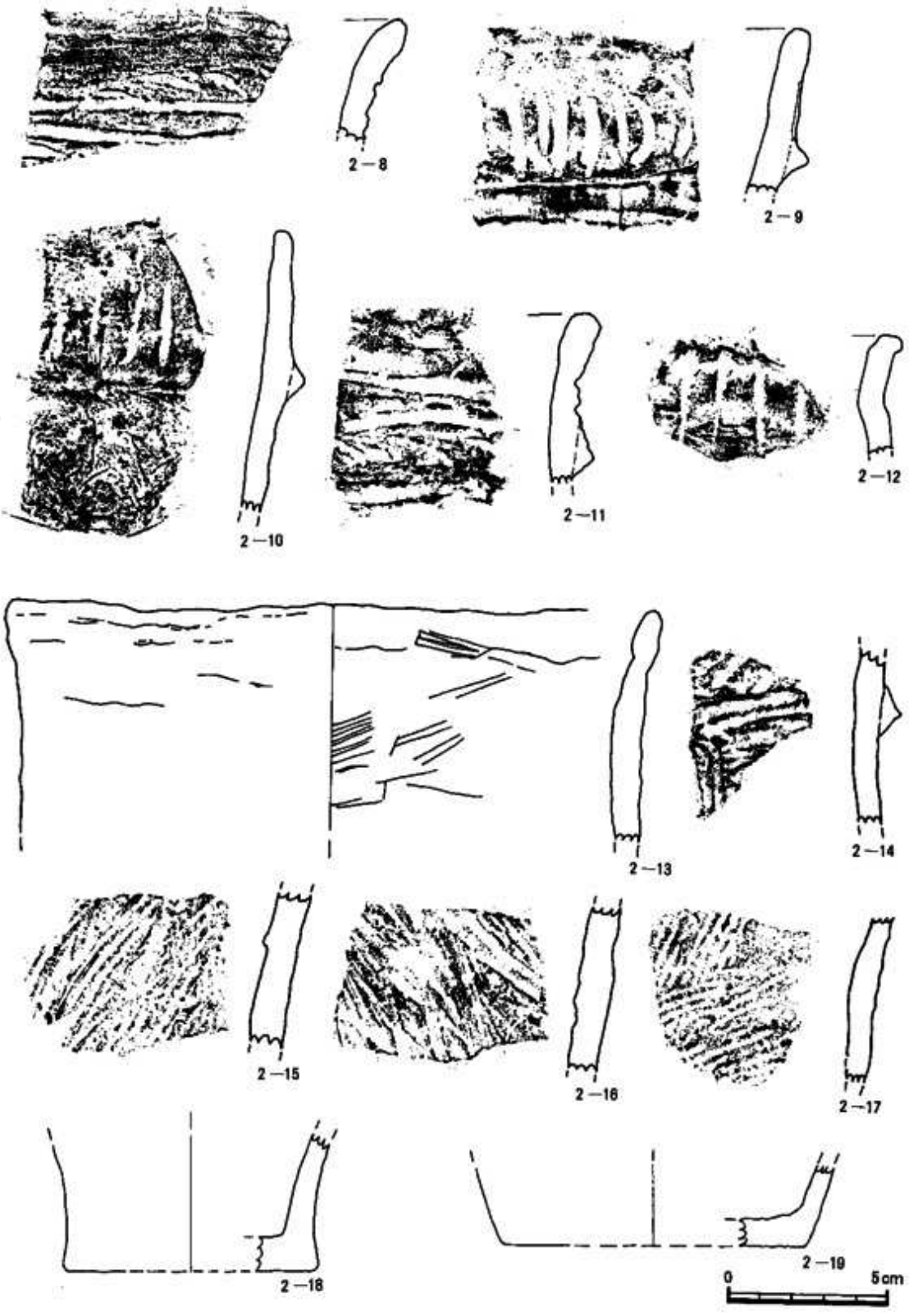
第32図　1号住居跡出土土器実測図(1)



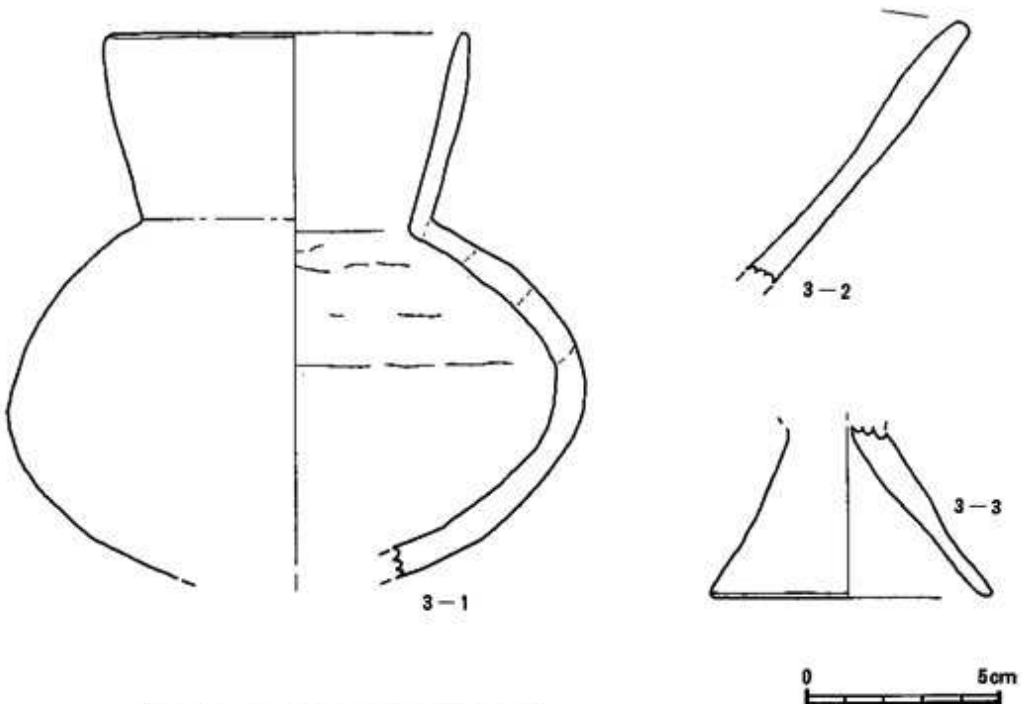
第33図　1号住居跡出土土器実測図(2)



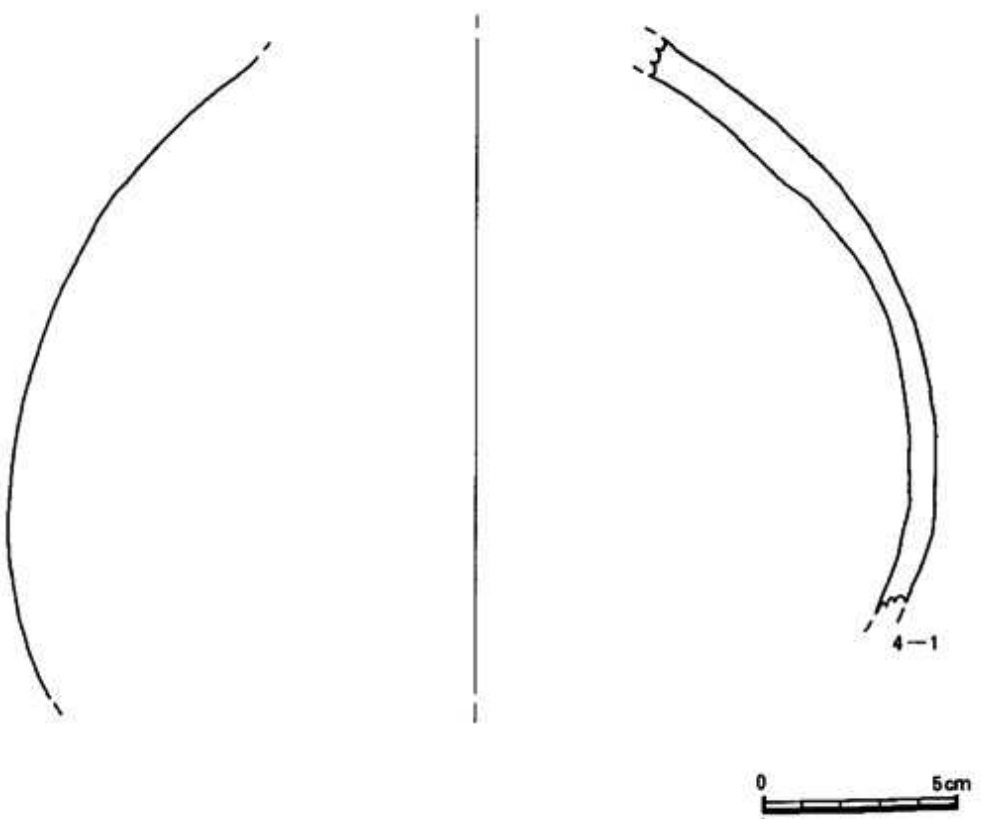
第34図　2号住居跡出土土器実測図(1)



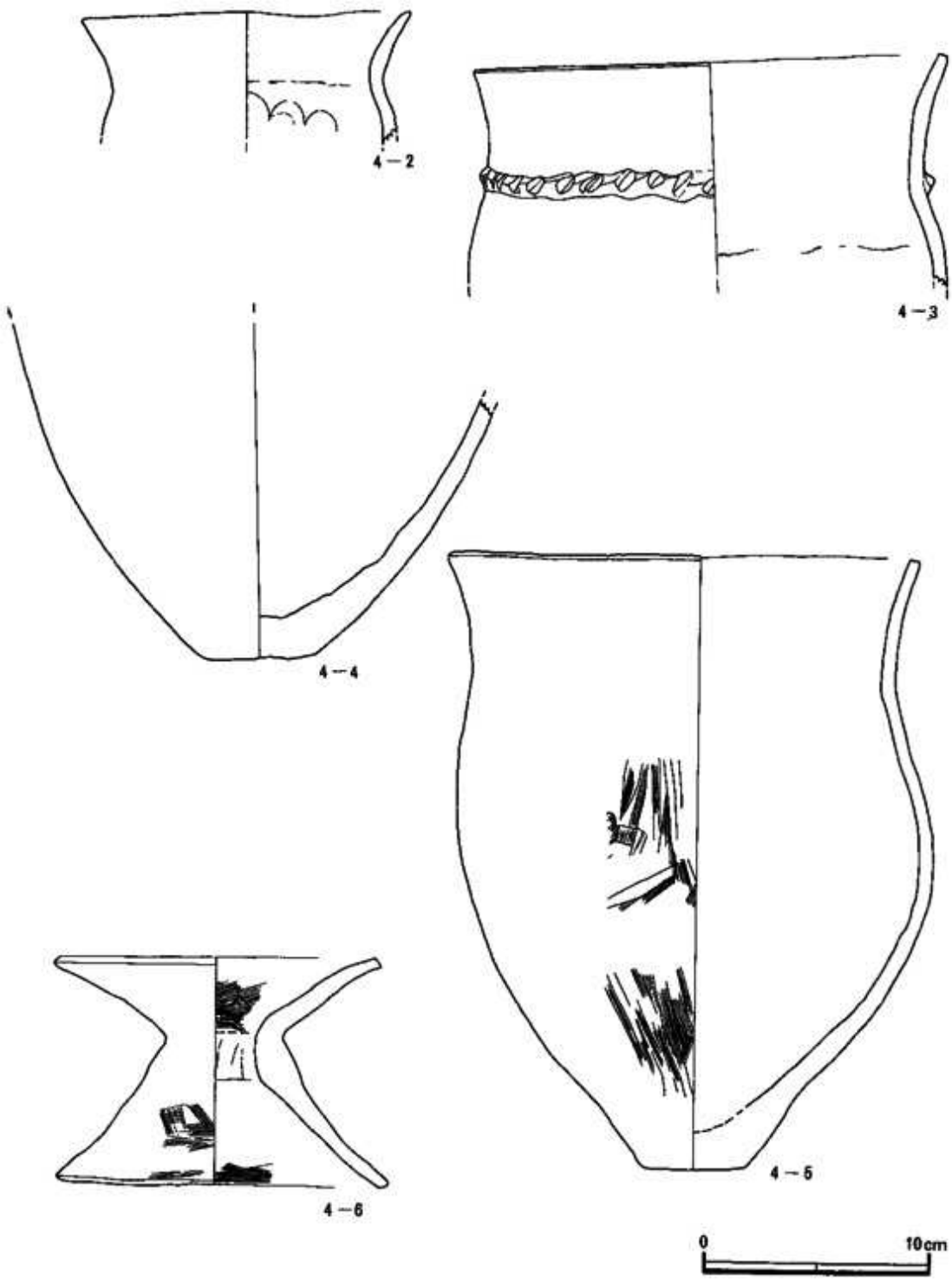
第35図　2号住居跡出土土器実測図(2)



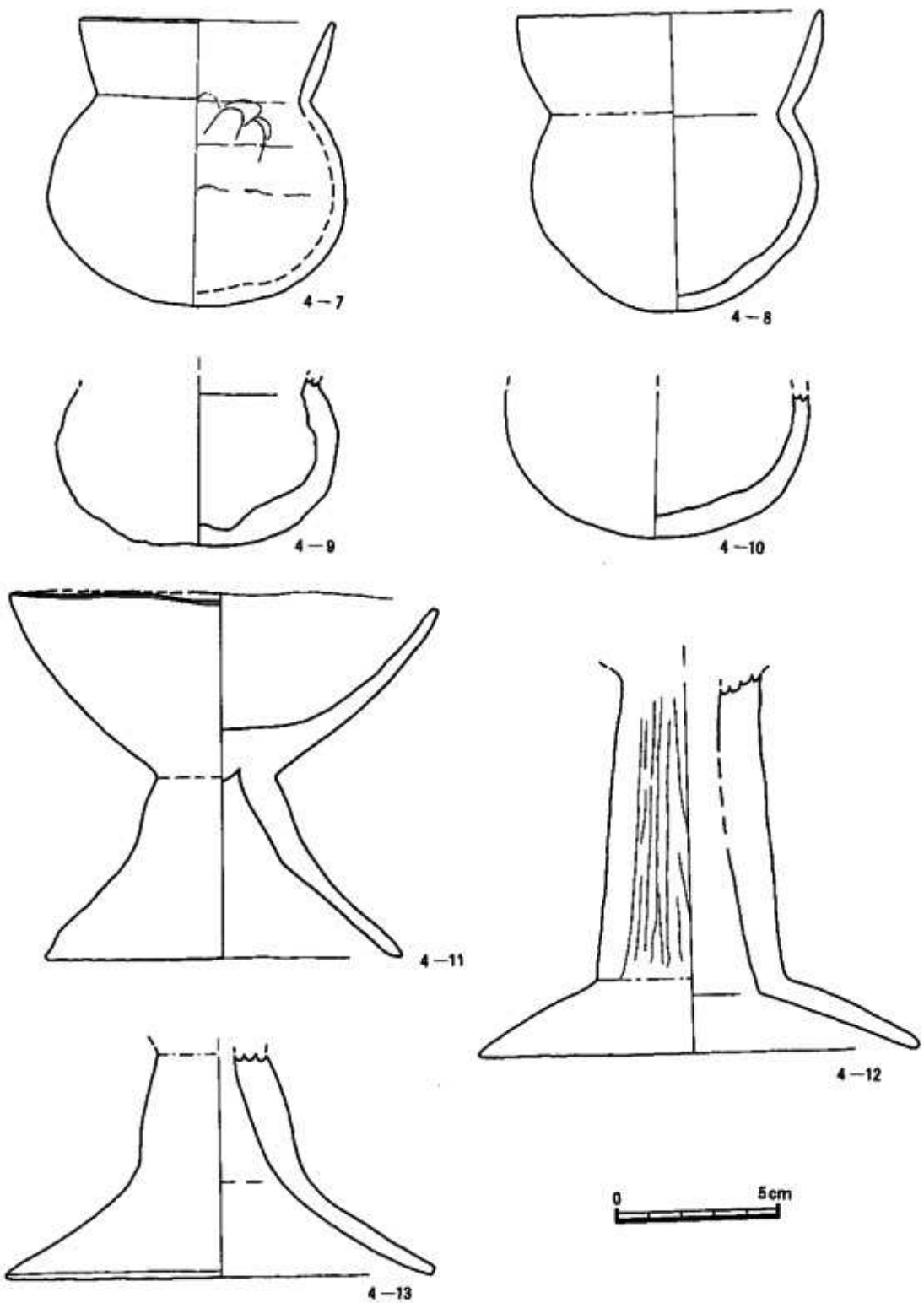
第36図　3号住居跡出土土器実測図



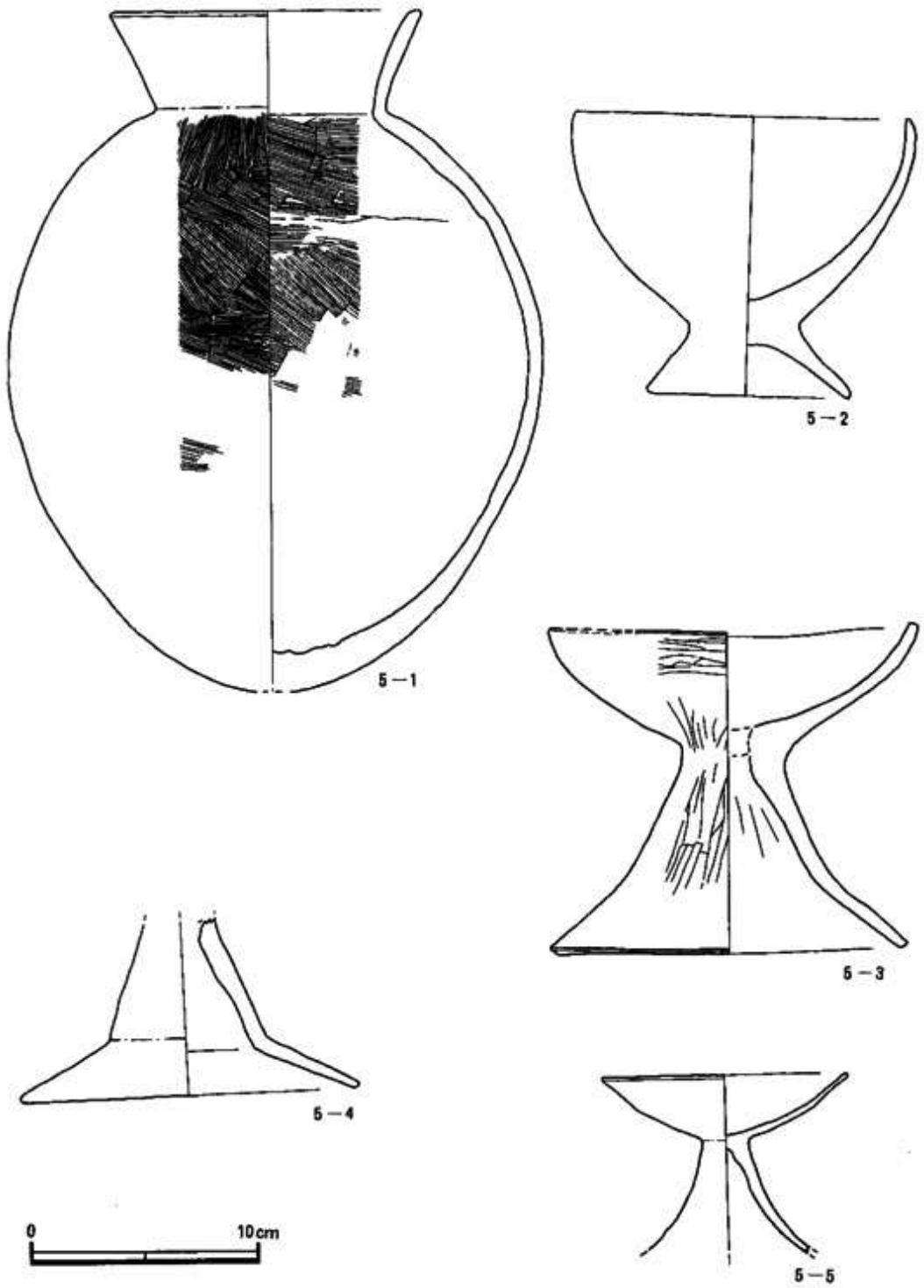
第37図　4号住居跡出土土器実測図(1)



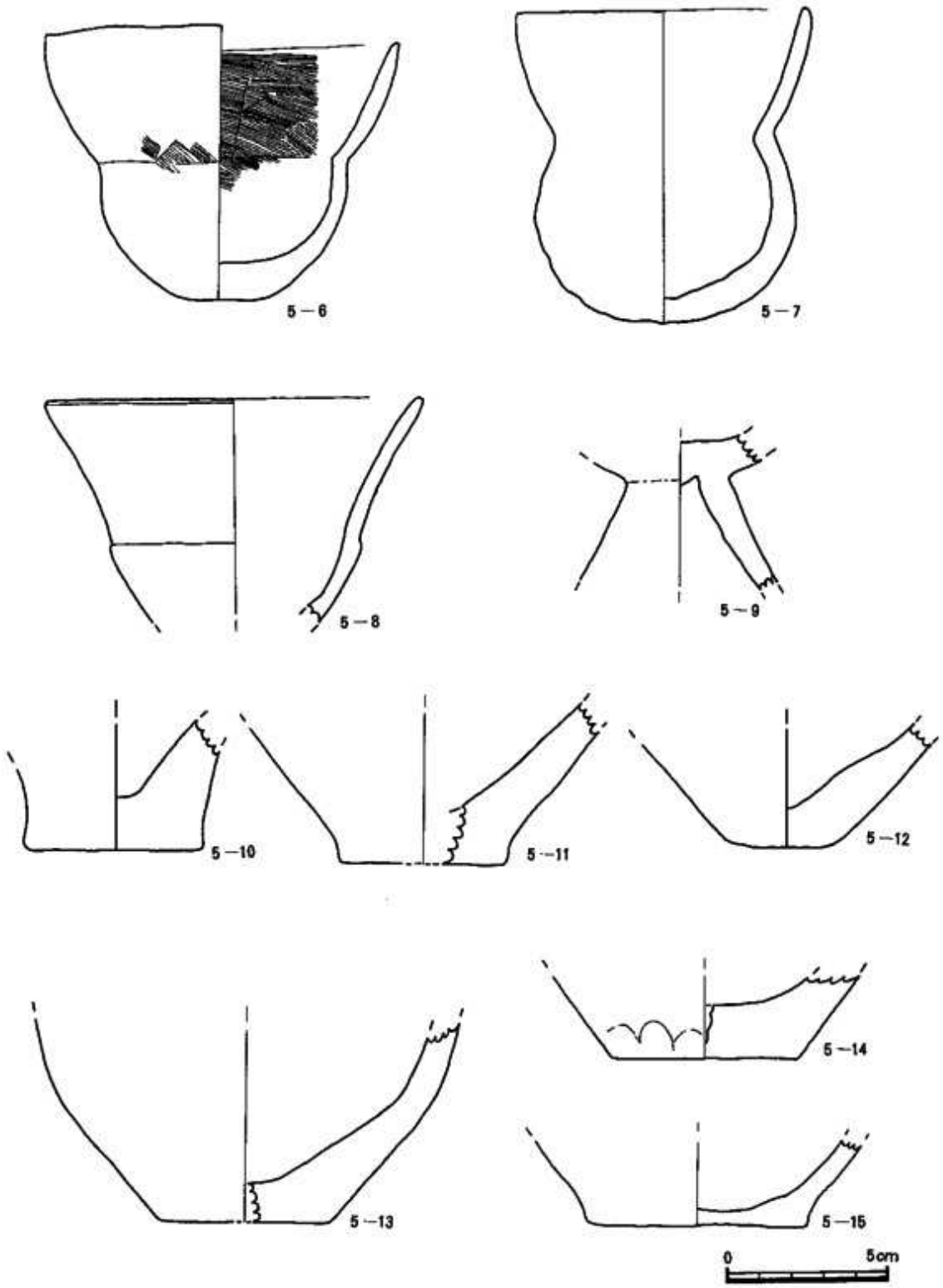
第38図　4号住居跡出土土器実測図(2)



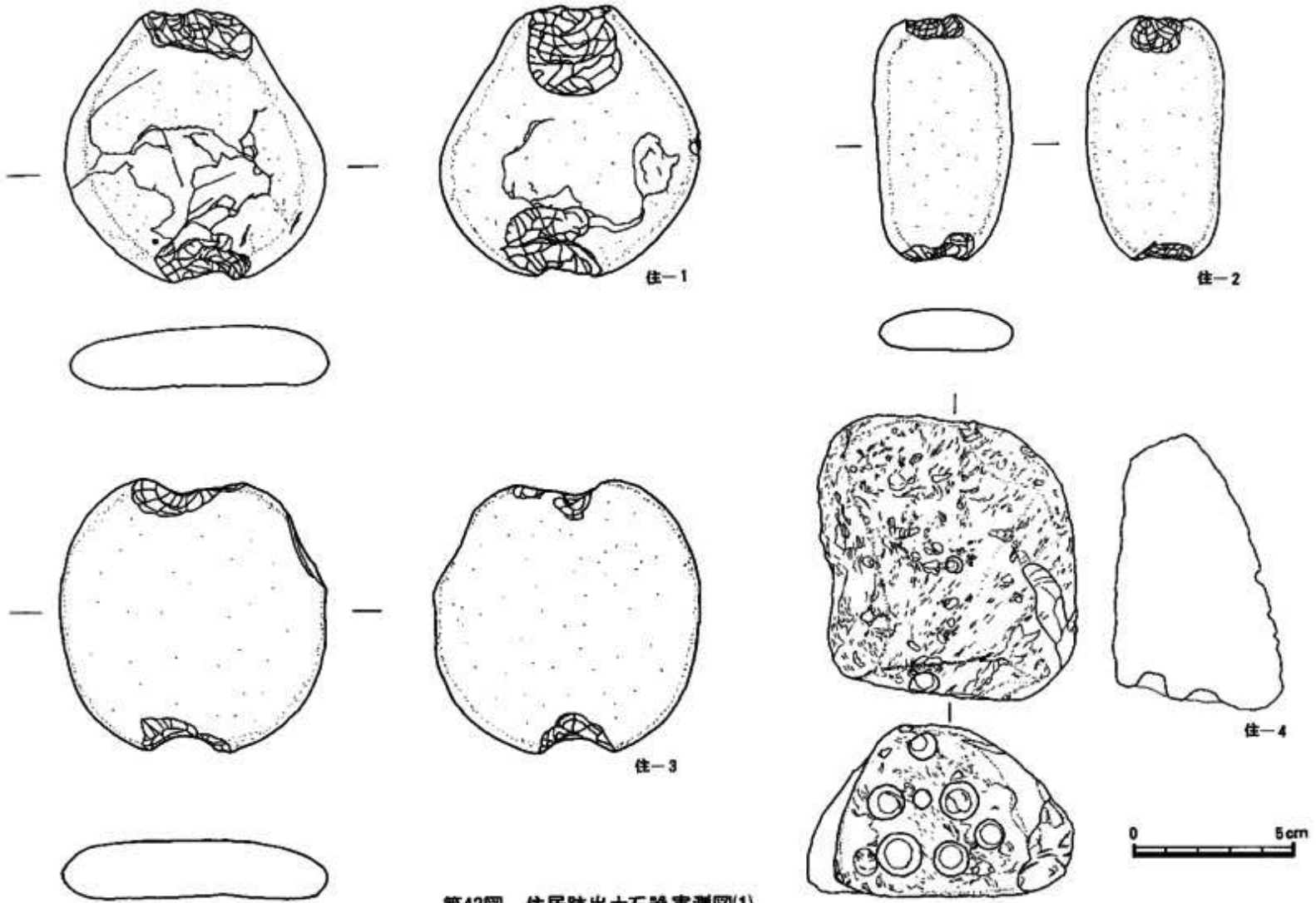
第39図　4号住居跡出土土器実測図(3)



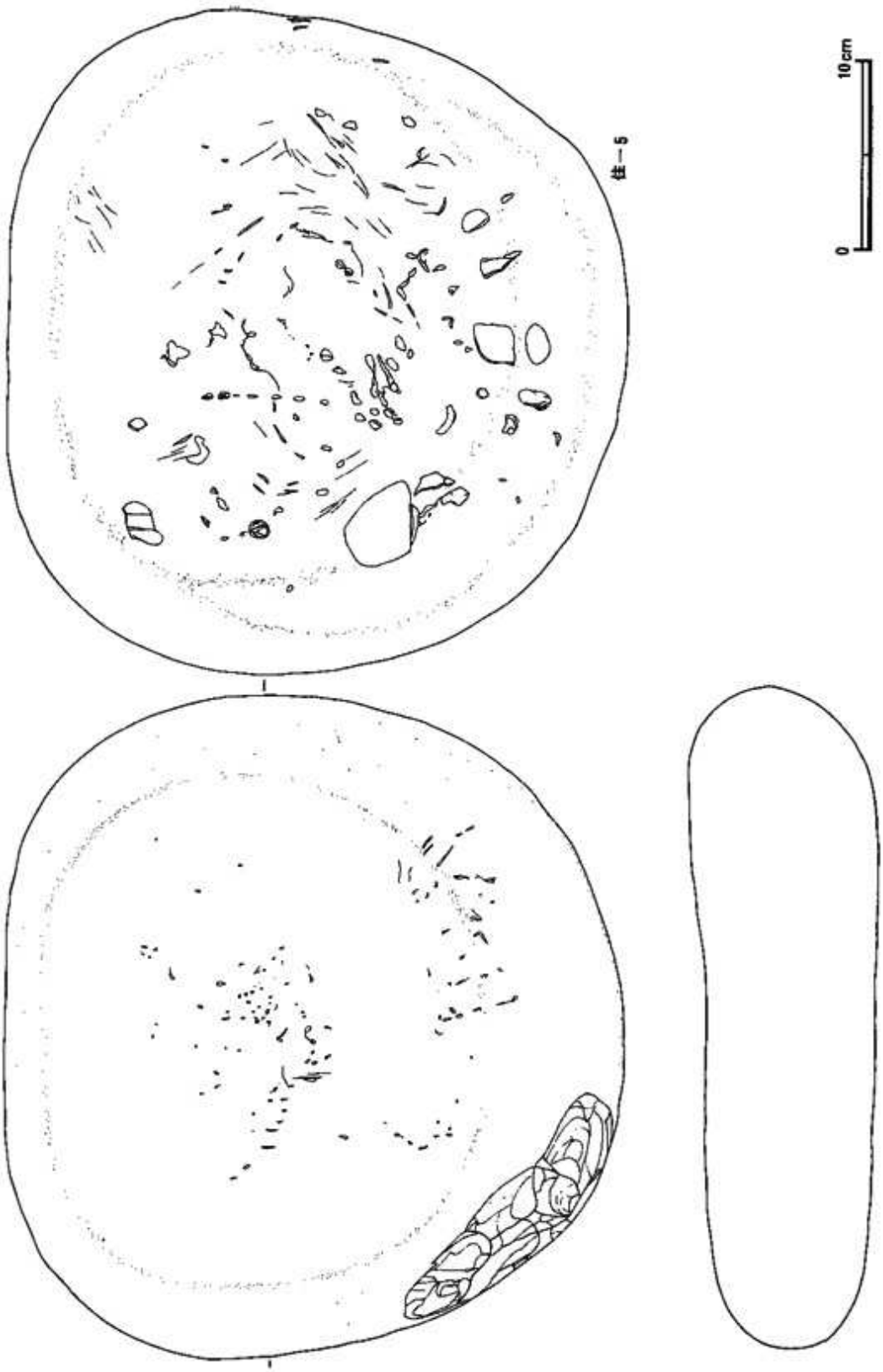
第40図　5号住居跡出土土器実測図(1)



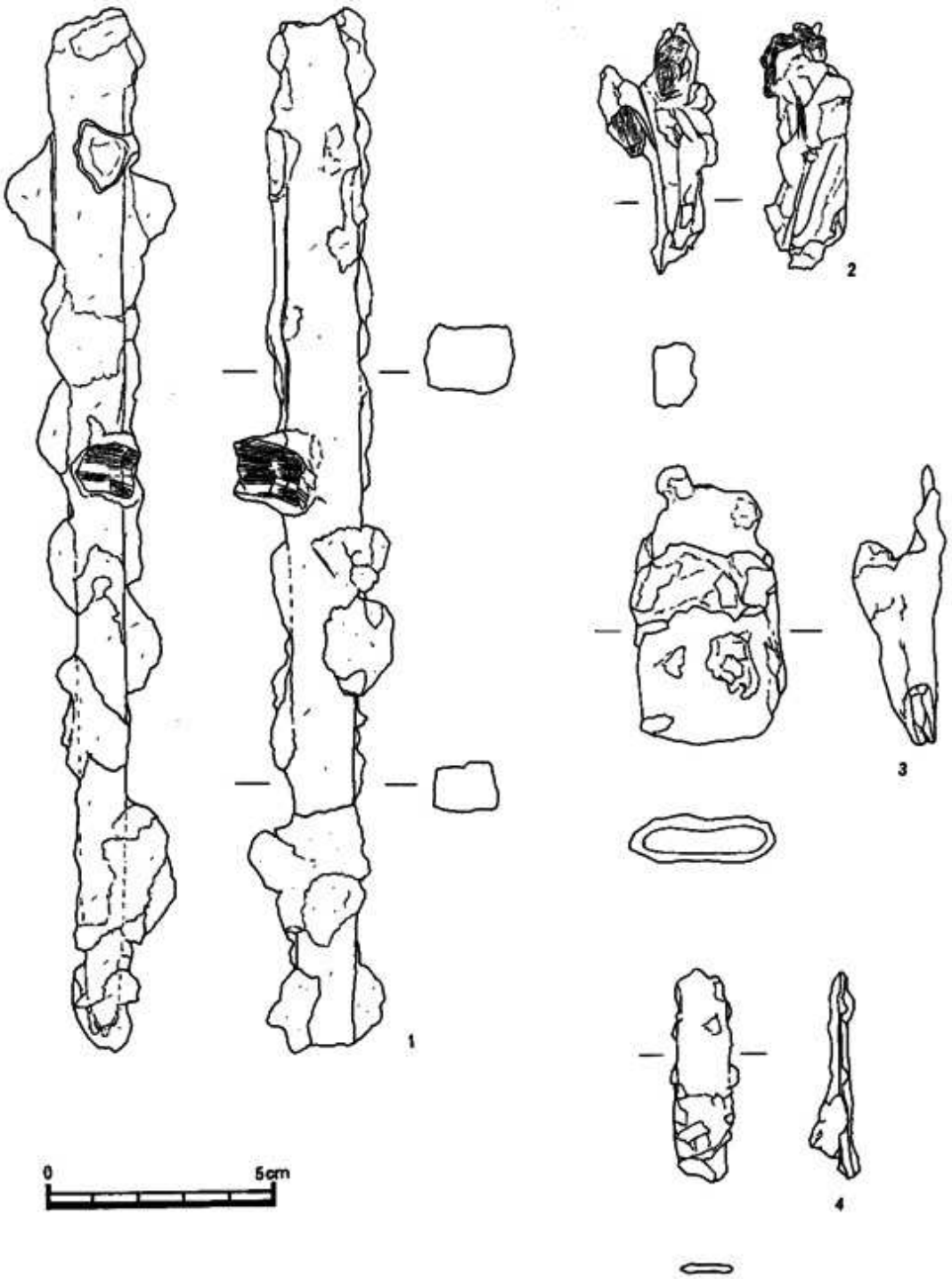
第41図　5号住居跡出土土器実測図(2)



第42図　住居跡出土石器実測図(1)



第43図　住居跡出土石器実測図(2)



第44図　住居跡出土鉄器実測図

住居跡土器観察表

番号	出土地	器種	焼成	胎土・色調	調整・文様	備考
1−1	1号住居跡	甕	良好	1㎜以下の砂粒及び石英粒を含む 内−褐色　外−暗褐色	内−ナデ 外−ハケ目	刻み入り凸帯 外面煤付着
2	〃	甕	〃	2㎜以下の砂粒を含む 内−褐色　外−黒褐色	内外ともナデ	外面煤付着
3	〃	甕	〃	3㎜未満の砂粒及び1㎜未満の石英粒を含む 内−黄褐色　外−黒褐色	内外ともナデ	外面煤付着
4	〃	甕	〃	3㎜未満の砂粒をやや多量に含む 内−淡褐色　外−淡黄褐色	内−ナデ 外−ハケ目	刻み入り凸帯 外面煤付着
5	〃	甕	〃	2㎜未満の砂粒を含む 内−淡褐色　外−暗黄褐色	内外ともナデ	刻み入り凸帯 外面煤付着
6	〃	甕	〃	2㎜未満の砂粒を含む 内−褐色　外−暗褐色	内−ナデ 外−ハケ目	刻み入り凸帯
7	〃	甕	〃	2㎜未満の砂粒及び1㎜以下の石英粒を含む 内−黒褐色　外−褐色	内−不明 外−ハケ目	内面煤付着
8	〃	ミニチュア 甕	〃	1㎜未満の砂粒を含み、0.5㎜以下の石英粒を微量含む 内−淡灰褐色　外−淡黄褐色	内外ともナデ	
9	〃	甕	〃	1㎜以下の砂粒を含み、細かい石英粒を微量含む 内外とも褐色	内−不明 外−ナデ	内外とも煤付着
10	〃	甕 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、2㎜未満の金雲母を少量含む 内外とも暗褐色	内−ヨコナデ、ハケ目 外−ヨコナデ	
11	〃	ミニチュア 壺	〃	1㎜未満の砂粒を含む 内外とも暗褐色	内外ともナデ	
12	〃	壺	〃	2㎜以下の砂粒を含み、1㎜未満の石英粒を微量含む 内−灰褐色　外−褐色	内−不明.(一部ヨコナデ) 外−ミガキ、ハケ目調	黒変部分あり
2−1	2号住居跡	深鉢 口縁部	〃	1㎜未満の砂粒及び微細な石英粒を含む 内外とも暗褐色	内−ナデ 外−ナデ、貝殻腹縁文	外面煤付着
2	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、微細な石英粒を微量含む 内外とも茶褐色	内−ナデ 外−ナデ、貝殻腹縁文	凸帯
3	〃	深鉢 口縁部	〃	2㎜未満の砂粒を含み、微細な石英粒も微量含む 内−茶褐色　外−黒褐色	内−ナデ 外−ナデ、貝殻腹縁文	外面煤付着
4	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜以下の砂粒及び微細な石英粒を含む 内外とも褐色	内−ナデ 外−ナデ、貝殻腹縁文	穿孔 外面煤付着
5	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜以下の砂粒及び微細な石英粒を含む 内−灰褐色　外−褐色	内−ナデ 外−ナデ、貝殻腹縁文後に沈線	
6	〃	深鉢 口縁部	〃	細砂粒及び微細な石英粒を含む 内−黒褐色　外−褐色	内−ヨコナデ 外−ナデ、貝殻腹縁文後に沈線	
7	〃	深鉢	〃	細砂粒を少量含む 内−褐色　外−黒褐色	内−ナデ 外−ナデ、貝殻腹縁文後に沈線	外面煤付着
8	〃	深鉢 口縁部	〃	細砂粒及び微細な石英粒を含む 内外とも褐色	内−ナデ 外−ナデ、貝殻腹縁文後に沈線	
9	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜以下の砂粒を含む 内−黒褐色　外−茶褐色	内−ナデ 外−沈線	凸帯
10	〃	深鉢 口縁部	〃	3㎜未満の砂粒を含む 内外とも黒褐色	内−ナデ 外−貝殻腹縁文	凸帯
11	〃	深鉢 口縁部	〃	1㎜以下の砂粒を含み、0.5㎜以下の石英粒を微量含む 内−黄褐色　外−褐色	内−ナデ 外−貝殻腹縁文後に沈線	凸帯
12	〃	深鉢 口縁部	〃	0.5㎜以下の砂粒を含む 内−褐色　外−黒褐色	内−ナデ 外−ナデ、貝殻腹縁文	

番号	出土地	器種	焼成	胎土・色調	調整	備考
13	2号住居跡	深鉢	良好	2㎜未満の砂粒を含む 内－褐色　外－暗褐色	内外ともナデ	外面煤付着
14	〃	深鉢 胴部	〃	3㎜未満の砂粒を含む 内－茶褐色　外－黒褐色	内－ナデ 外－貝殻腹縁文沈線	凸帯
15	〃	深鉢 胴部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、1㎜未満の石英粒をごく微量含む 内－茶褐色　外－褐色	内－ナデ 外－条痕	
16	〃	深鉢 胴部	〃	細砂粒及び微細な石英粒を含む 内－黄褐色　外－褐色	内－ナデ 外－条痕	
17	〃	深鉢 胴部	〃	1㎜以下の砂粒を含み、微細な石英粒も微量含む 内外とも褐色	内－ナデ 外－条痕	
18	〃	甕 底部	〃	1㎜未満の砂粒を含み、微細な石英粒を少量含む 内外とも暗褐色	内外ともナデ	
19	〃	甕 底部	〃	2㎜以下の砂粒を含み、0.5㎜以下の石英粒を微量含む 内－褐色　外－暗褐色	内外ともナデ	
3－1	3号住居跡	壺	〃	1㎜以下の砂粒を含む 内－褐色　外－褐色一部明茶褐色	内－ナデ 外－丁寧なナデ	朱塗りの可能性あり
2	〃	壺 口縁部	〃	3㎜以下の砂粒を含む 内外とも褐色	内外ともナデ	
3	〃	高坏 脚部	〃	1㎜未満の砂粒及び微細な石英粒を含む 内外とも黄褐色	内外ともナデ	
4－1	4号住居跡	壺	〃	3㎜未満の砂粒を含む 内－暗茶褐色　外－茶褐色	内－不明 外－ナデ	外面煤付着
2	〃	壺 口縁部	〃	2㎜未満の砂粒を含む 内外とも褐色	内－ナデ、指オサエ 外－ナデ	
3	〃	甕	〃	2㎜以下の砂粒を含み、0.5㎜以下の石英粒を少量含む 内外とも褐色	内外ともナデ	刻み入り凸帯 外面煤付着
4	〃	甕 底部	〃	3㎜未満の砂粒を含む 内－赤褐色　外－茶褐色	内外ともナデ	
5	〃	甕	〃	1㎜以下の砂粒を多量に含む 内外とも淡褐色	内－ナデ 外－ハケ目か	
6	〃	器台	〃	2㎜未満の砂粒を含む 内外とも明茶褐色	内外ともナデ、ハケ目	朱塗りの可能性あり
7	〃	小型丸底壺	〃	細砂粒をかなり多量に含み、微細な石英粒を少量含む 内外とも淡橙褐色	内－ヨコナデ、指オサエ 外－ナデ	
8	〃	小型丸底壺	〃	1㎜以下の砂粒をやや多量に含み、0.5㎜以下の石英粒を微量含む 内－黄褐色　外－淡褐色	内外ともナデ	
9	〃	小型丸底壺	〃	1㎜未満の砂粒を含み、微細な石英粒を微量含む 内外とも淡褐色	内外ともナデ	
10	〃	小型丸底壺	〃	2㎜以下の砂粒をかなり多量含む 内－黒褐色　外－淡橙褐色	内－ナデ 外－不明	
11	〃	高坏	〃	2㎜以下の砂粒をかなり多量に含み、1㎜以下の石英粒を少量含む 内外とも淡褐色	内外ともナデ	
12	〃	高坏	〃	1㎜以下の砂粒をかなり多量に含み、0.5㎜以下の石英粒を微量含む 内外とも淡褐色	内－上下の指ナデ、ヨコナデ 外－削り、ナデ	
13	〃	高坏	〃	2㎜以下の砂粒をかなり多量に含み、0.5㎜以下の石英粒を少量含む 内外とも淡橙褐色	内－上下の指ナデ、ヨコナデ 外－ヨコナデか	
5－1	5号住居跡	壺	〃	1㎜以下の砂粒をかなり多量に含み、0.5㎜以下の石英粒を少量含む 内－黄褐色　外－淡褐色	内－ナデ、ハケ目 外－ハケ目	外面煤付着

番号	出土地	器種	焼成	胎土・色調	調整	備考
5－2	5号住居跡	脚付鉢	良好	3㎜以下の砂粒をかなり多量に含み、微細な石英粒を少量含む 内－淡褐色　外－淡赤褐色	内－不明 外－ナデ	内外ともに煤けた部分あり
3	〃	高　坏	〃	1㎜未満の砂粒及び微細な石英粒を含む 内外とも淡橙褐色	内－丁寧なナデ、脚部は上下に指ナデの後ヨコナデ 外－ミガキか	朱塗りの可能性あり
4	〃	高　坏	〃	2㎜以下の砂粒及び微細な石英粒を含む 内外とも淡茶褐色	内－上下の指ナデ、ヨコナデ 外－丁寧なナデ	朱塗りの可能性あり
5	〃	高　坏	〃	3㎜未満の砂粒を含む 内外とも褐色	内－丁寧なナデ 外－ナデ	
6	〃	小型丸底壺	〃	1㎜以下の砂粒及び微細な石英粒をかなり多量に含む 内－淡褐色　外－淡黄褐色	内－ハケ目 外－ナデ、一部にハケ目痕	外面煤付着
7	〃	小型丸底壺	〃	2㎜以下の砂粒を含む 内－褐色　外－灰褐色	内－不明 外－ナデ	
8	〃	小型丸底壺	〃	2㎜未満の砂粒を含む 内－淡橙褐色　外－淡黄褐色	内外ともナデ	
9	〃	高　坏	〃	2㎜未満の砂粒を含む 内外とも淡橙褐色	内外ともナデ	
10	〃	甕底部	〃	3㎜以下の砂粒を含む 内－淡橙褐色　外－淡褐色	内外ともナデ	
11	〃	甕底部	〃	3㎜以下の砂粒を含む 内－灰褐色　外－褐色	内外ともナデか	
12	〃	壺底部	〃	2㎜以下の砂粒を含む 内外とも淡橙褐色	内－不明 外－ナデか	
13	〃	壺底部	〃	4㎜未満の砂粒を含む 内－暗褐色　外－褐色	内－不明 外－ナデ	
14	〃	壺底部	〃	2㎜以下の砂粒を含む 内外とも淡褐色	内－ナデ 外－ナデ、指オサエ	
15	〃	壺底部	〃	1㎜未満の砂粒を含み、細かい石英粒を微量含む 内－褐色　外－暗褐色	内外ともナデ	外面煤付着

住居跡石器・鉄器観察表

番号	出土地	器種	材質	所見
住－1	2号住居	石錘	砂岩	全長8.5㎝、160ｇ、表面中央にタール状のものが付着。
住－2	〃	〃	〃	全長7.6㎝、65ｇ、縦長で打ち欠きは小さい。
住－3	〃	〃	〃	全長8.6㎝、185ｇ、ほぼ円形をしている。床面で1ｍ程離れて出土したものを接合。
住－4	4号住居	支脚	軽石	高さ8㎝、78ｇ、内面に煤が付着し、底面に7ケ所穴があいている。
住－5	5号住居	台石	頁岩	全長35㎝、両面共中央部に敲打痕が見られる。住居中央にあり、何らかの作業台と思われる。
1	3号住居	ノミ	鉄	全長22.5㎝、205ｇ、ほぼ完形と思われる。中央に木質のような付着がある。
2	4号住居	不明	〃	現長5㎝、15ｇ、ヤリガンナの先端の可能性がある。
3	〃	手斧	〃	現長6㎝、22ｇ、先端部を欠損。
4	5号住居	ヤリガンナ（？）	〃	現長4.6㎝、4ｇ、薄手のヤリガンナか？　刀子の可能性もある。

Ⅲ. 終わりに

西ノ原第２遺跡は、学園都市遺跡群の一部を構成するものであるが、今回の調査と昭和59年の調査から、この枝丘陵の利用の一端を知ることが出来た。

縄文時代早期には、丘陵の中でも比較的小高い部分を使った生活が営まれるが、住居を作った定住か、移動生活の中の１地点かは不明である。後期になると住居が作られ、石錘を利用した生活が営まれる。

弥生時代の中期には、丘陵北側に墓域若しくは住居の有った可能性があり、南側の後期の花弁状住居が検出された一帯は、中、後期を通して居住されていたと思われる。

弥生時代の終末ごろから、住居は丘陵上のみならず裾野にも広がり始め、古墳時代になり、前方後円墳を含む木花村古墳を形成するだけの、人口の増加と権力者の出現を示している。また、６世紀後半の丘陵北側における住居の出現は、新たな階層の出現の可能性を有する。

奈良時代の遺構は確認されていないが、熊野地区は延喜式に見られる日向16駅のうちの「救麻」に比定されており、その前段階としての繁栄が想像される。

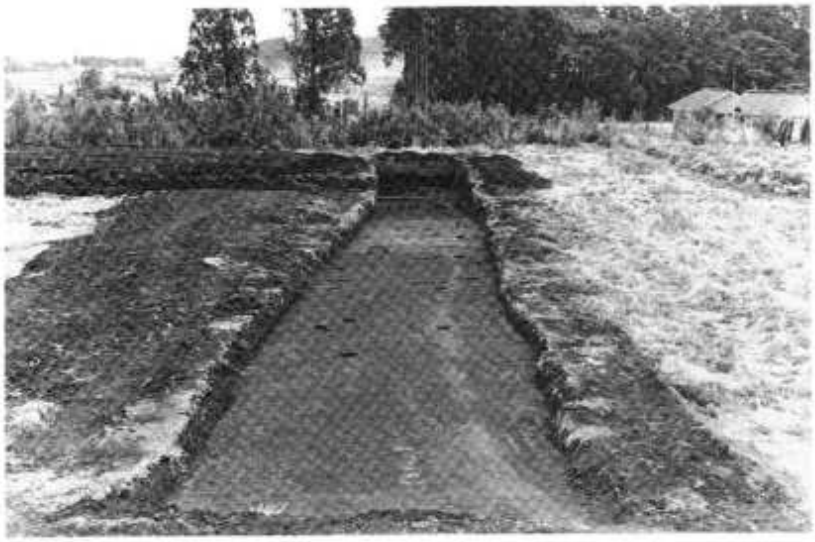
平安時代の10世紀を前後する頃には、丘陵上の溝を巡らせた館を中心に、丘陵周辺の平地に建つ住居や土器焼成土坑が存在し、律令制から荘園制への移行期における、里長（豪農）を中心とした自給自足的農村社会の在り方を窺わせる。

以上のように此の丘陵の略史を纏めたが、清武町や学園都市遺跡群を含めた全体像を纏めることが、これからの課題として残されている。

A１・２区溝状遺構

A－１区出土状況

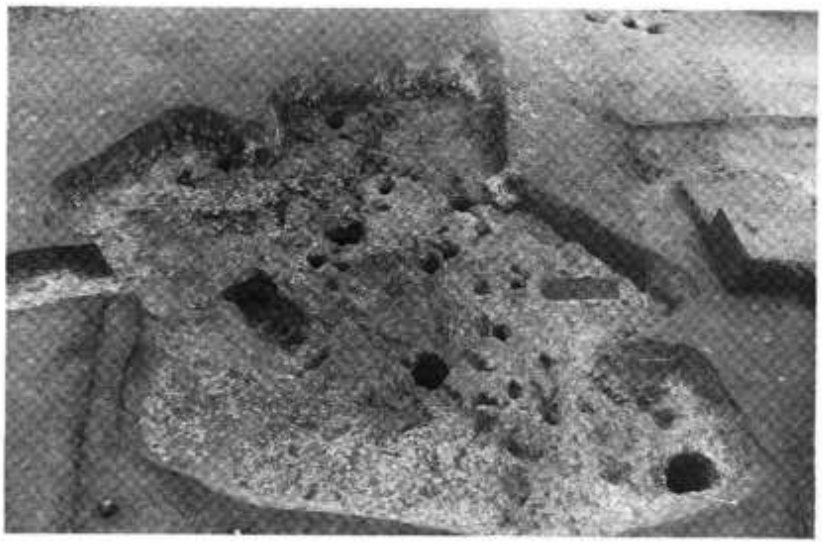
A－２区出土状況



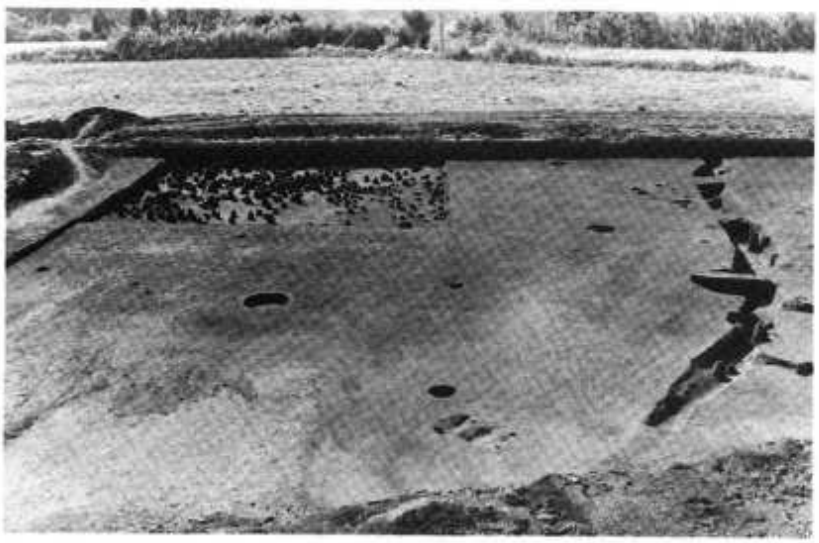
A－3区出土状況

A－3区出土状況

1号住居跡出土状況

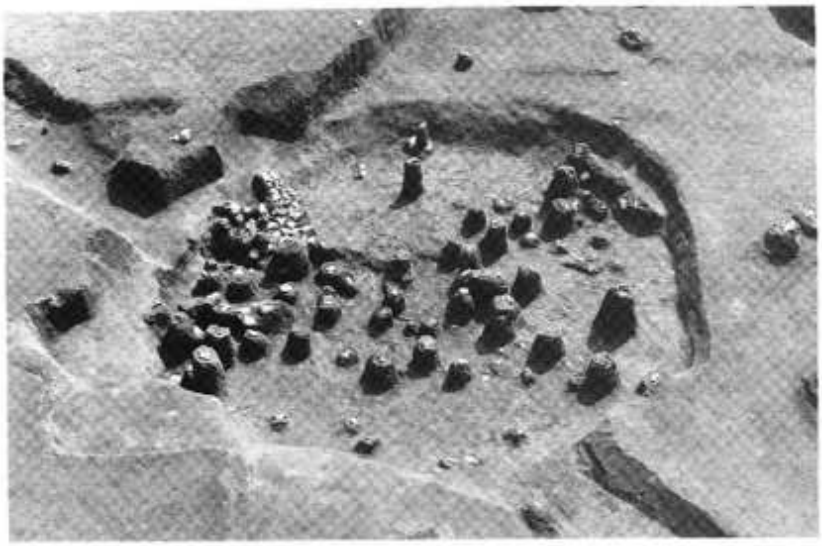


1号住居跡床面

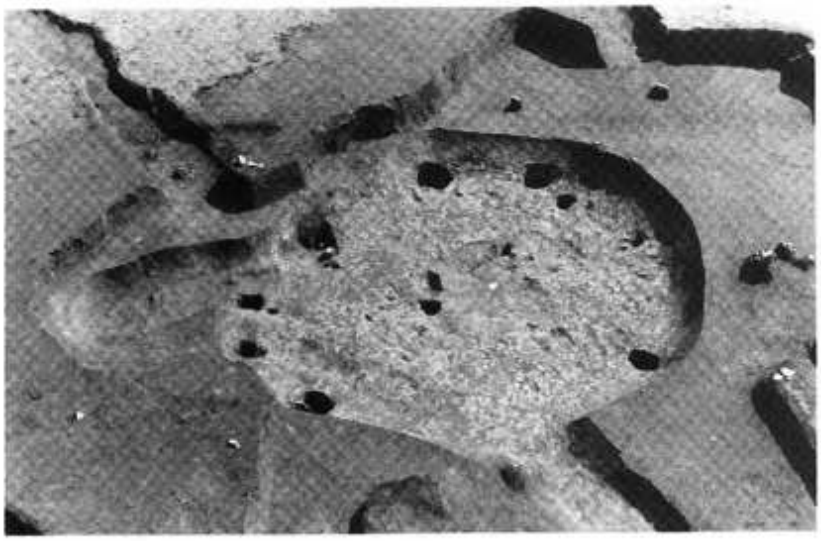


A－4区全景－①

A－4区全景－②



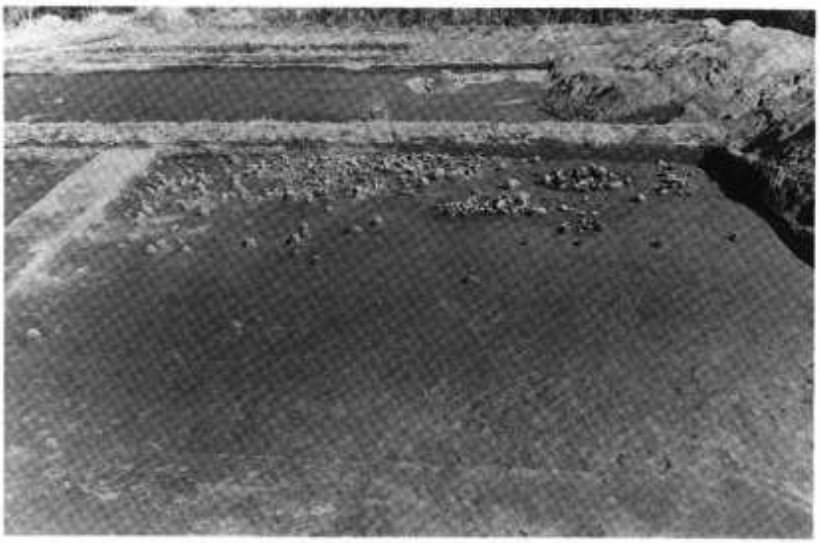
2号住居跡出土状況



2号住居跡床面

B－1区出土状況－①

B－2区出土状況－②

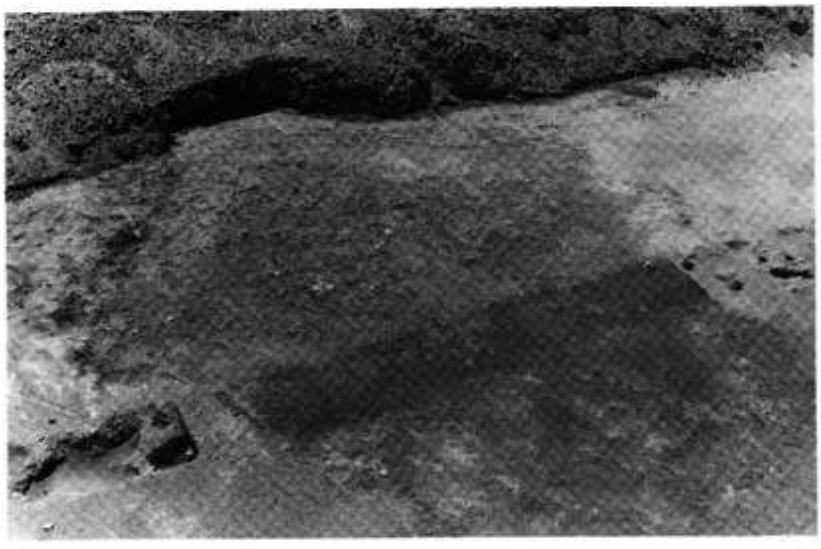


B－3区出土状況－①

B－3区出土状況－②

C区全景

C区全景

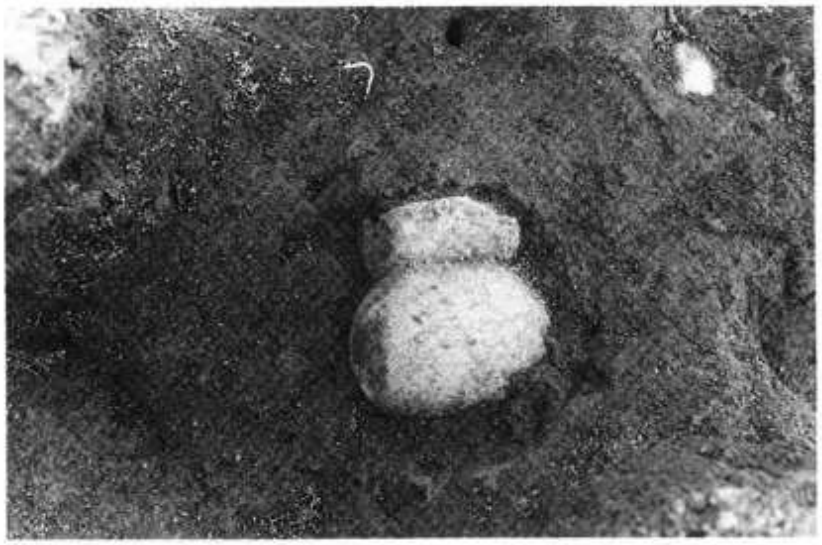


3号住居跡と溝状遺構

3号住居跡出土状況

3号住居鉄器出土状況

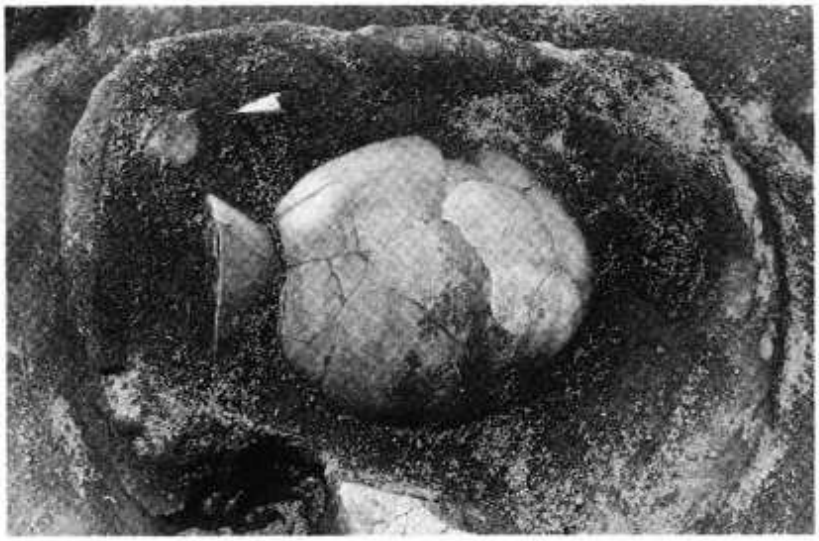
4号住居跡出土状況



4号住居土器出土状況

4号住居焼礫出土状況

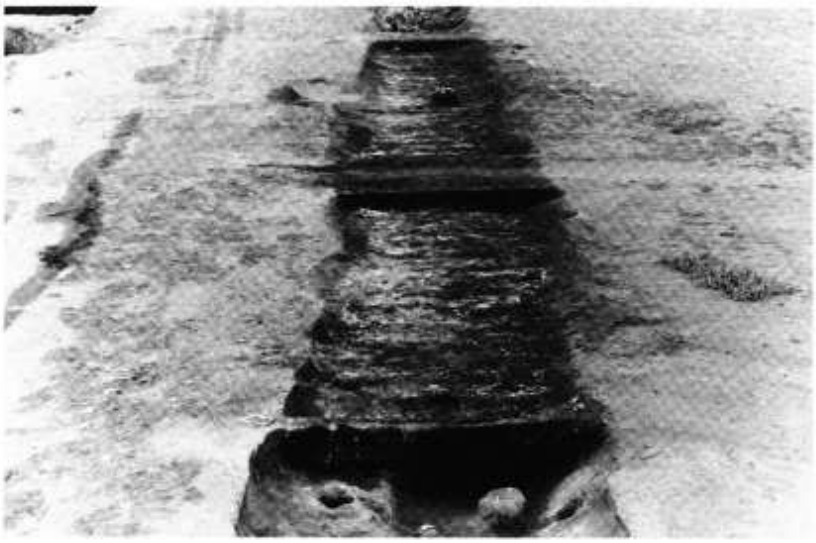
5号住居出土状況



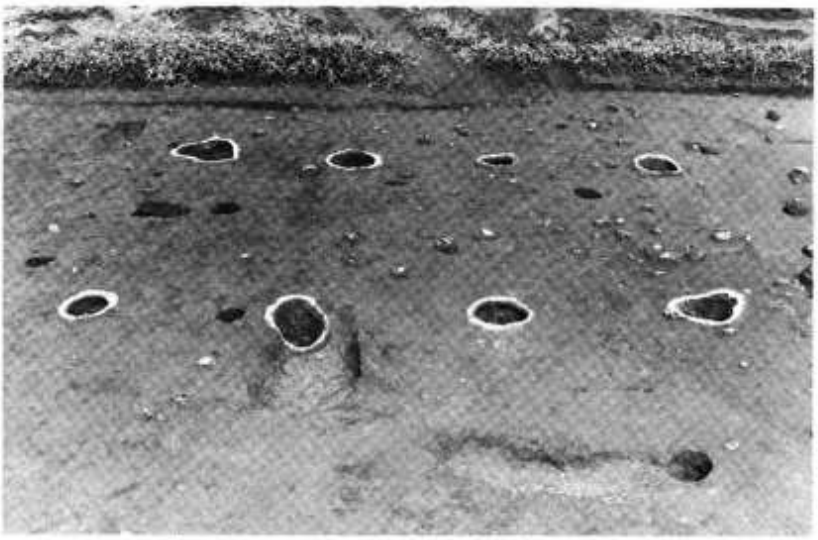
5号住居土器出土状況

5号住居炭出土状況

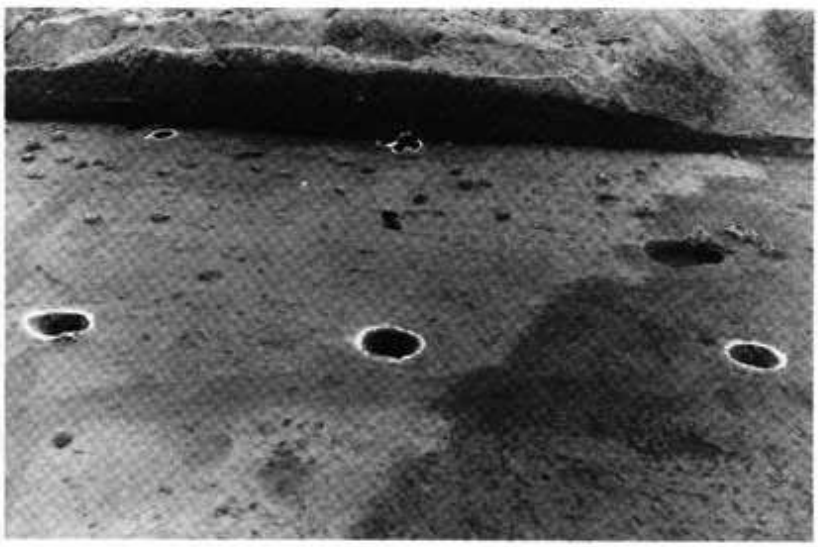
5号住居床面



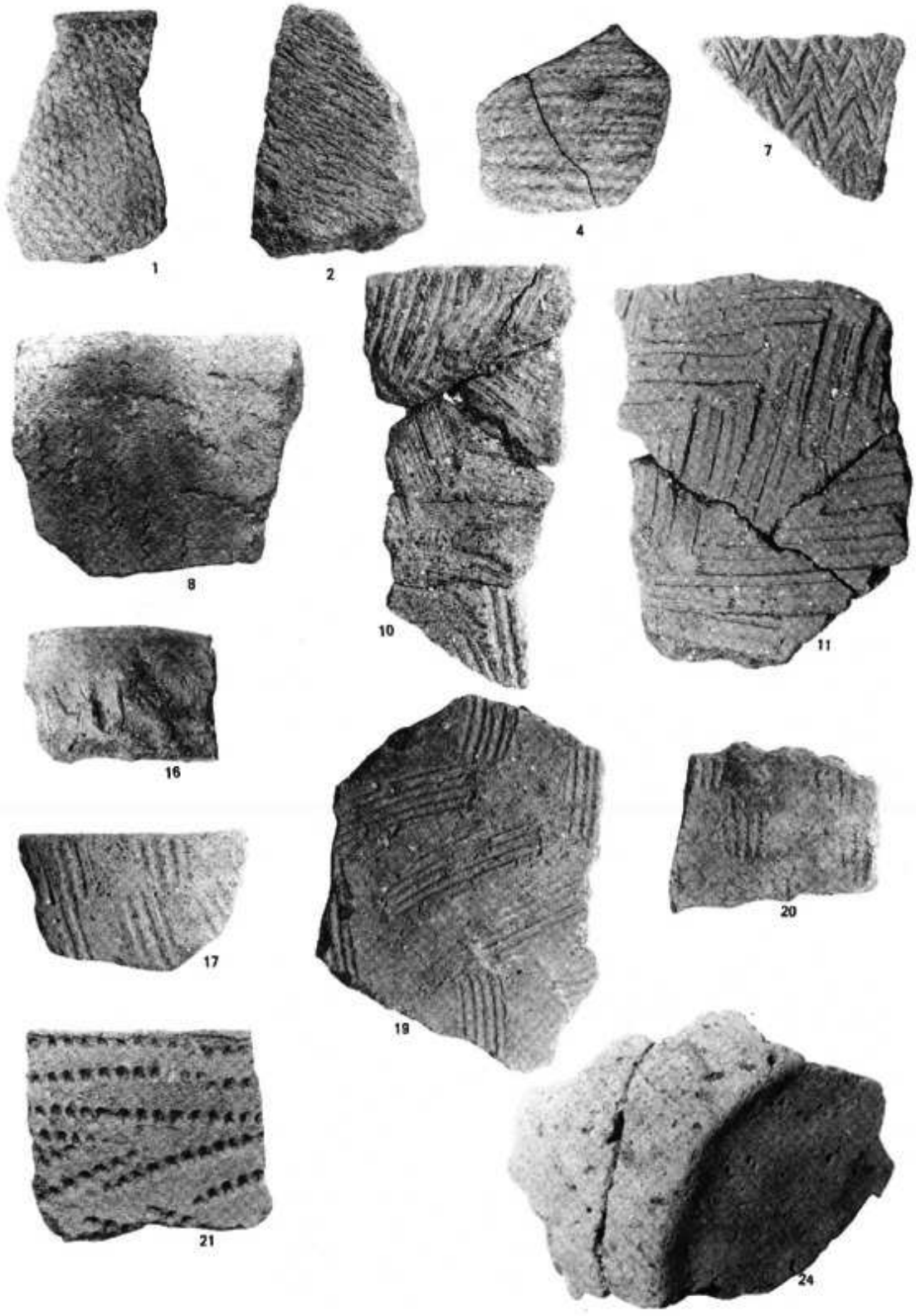
溝状遺構



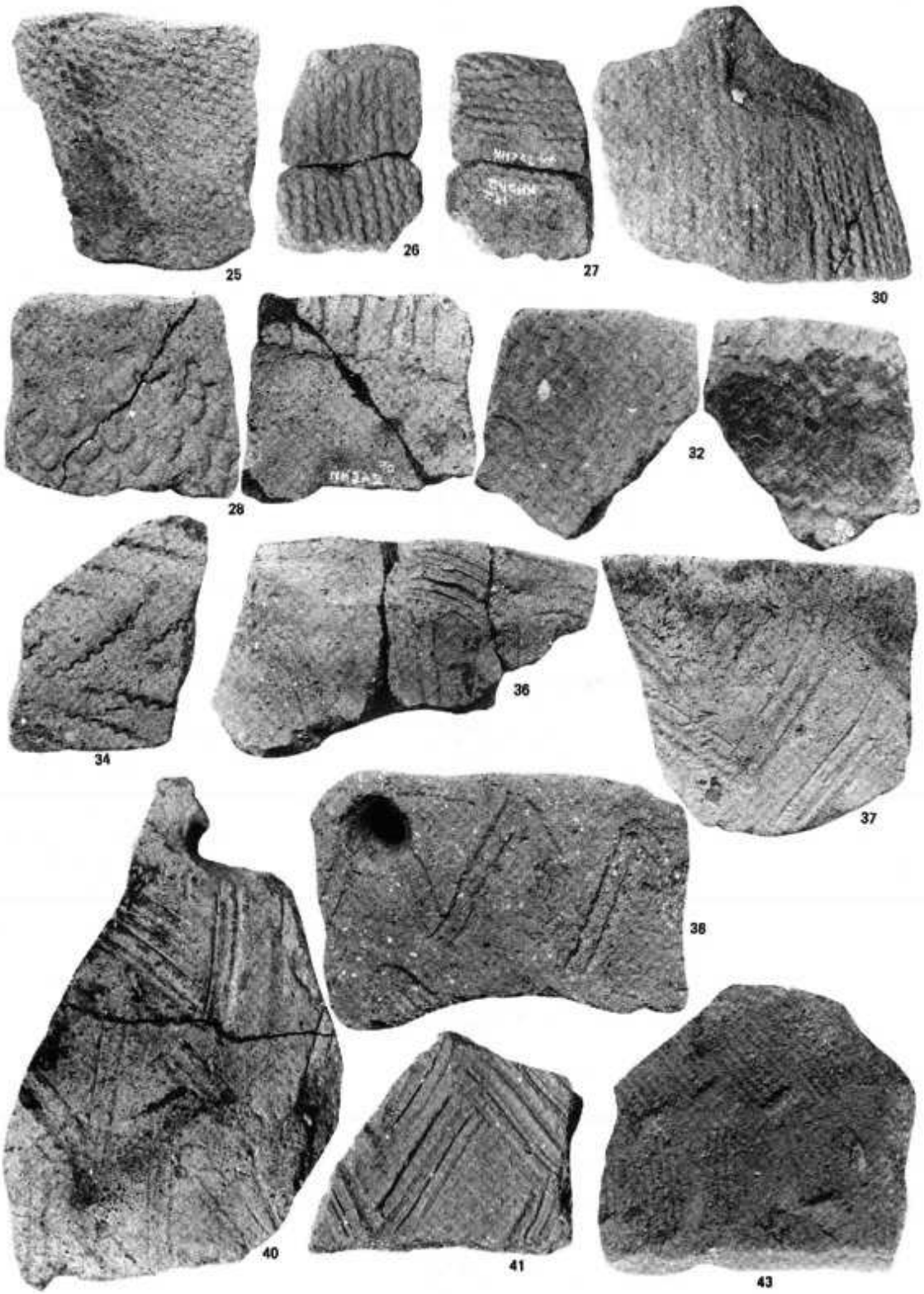
掘立柱建物—①



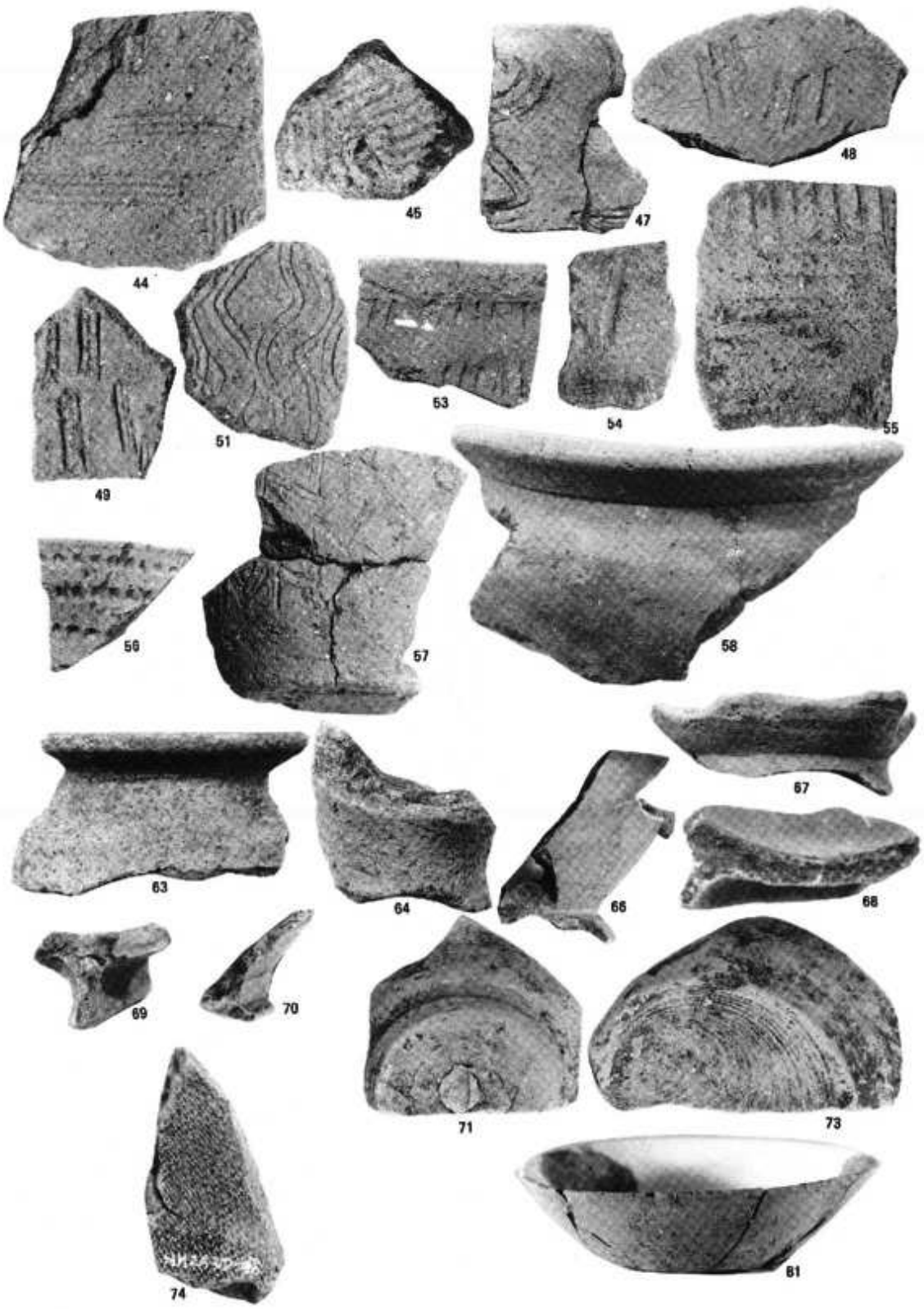
掘立柱建物—②



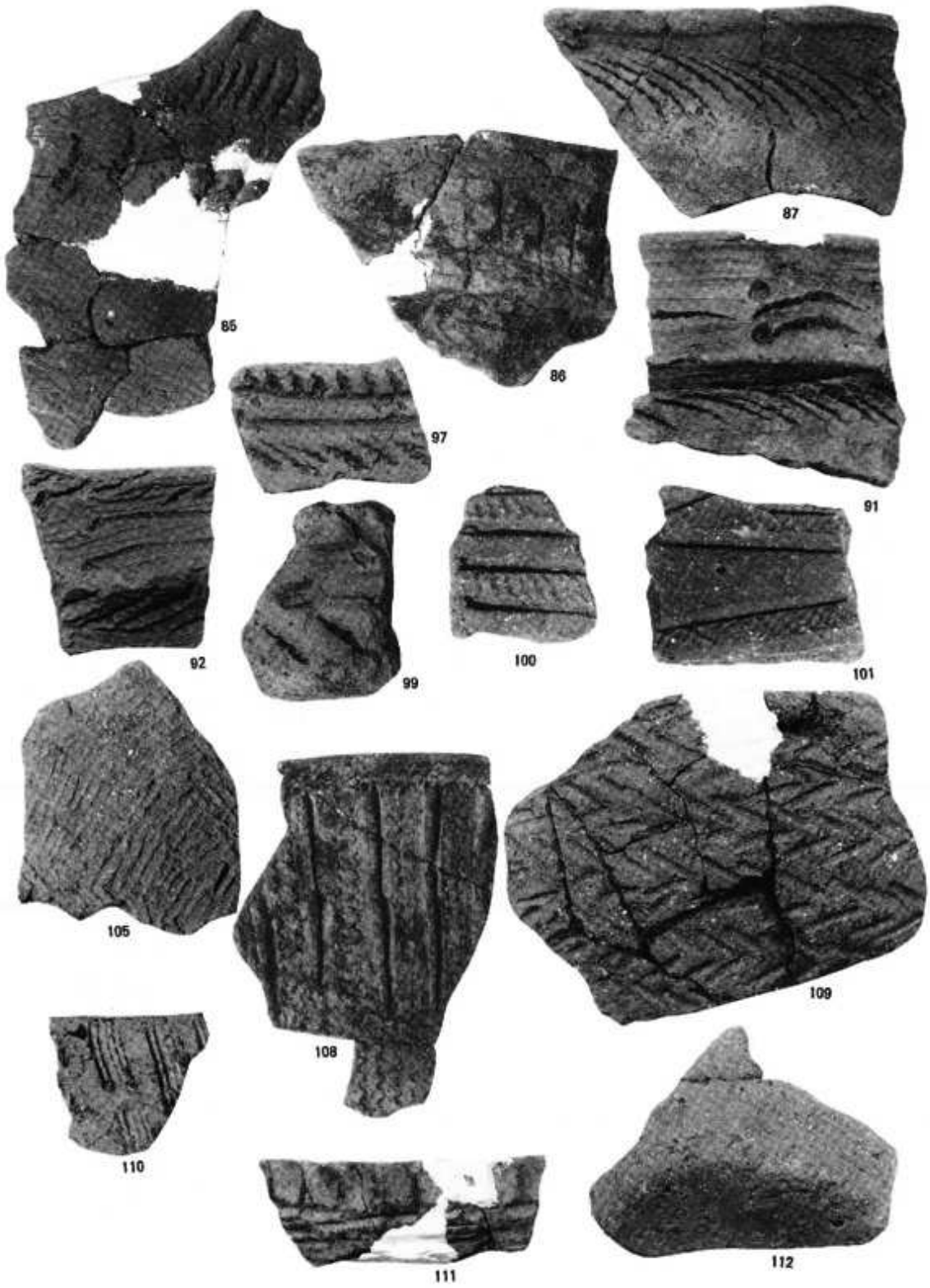
A～C区出土土器(1)



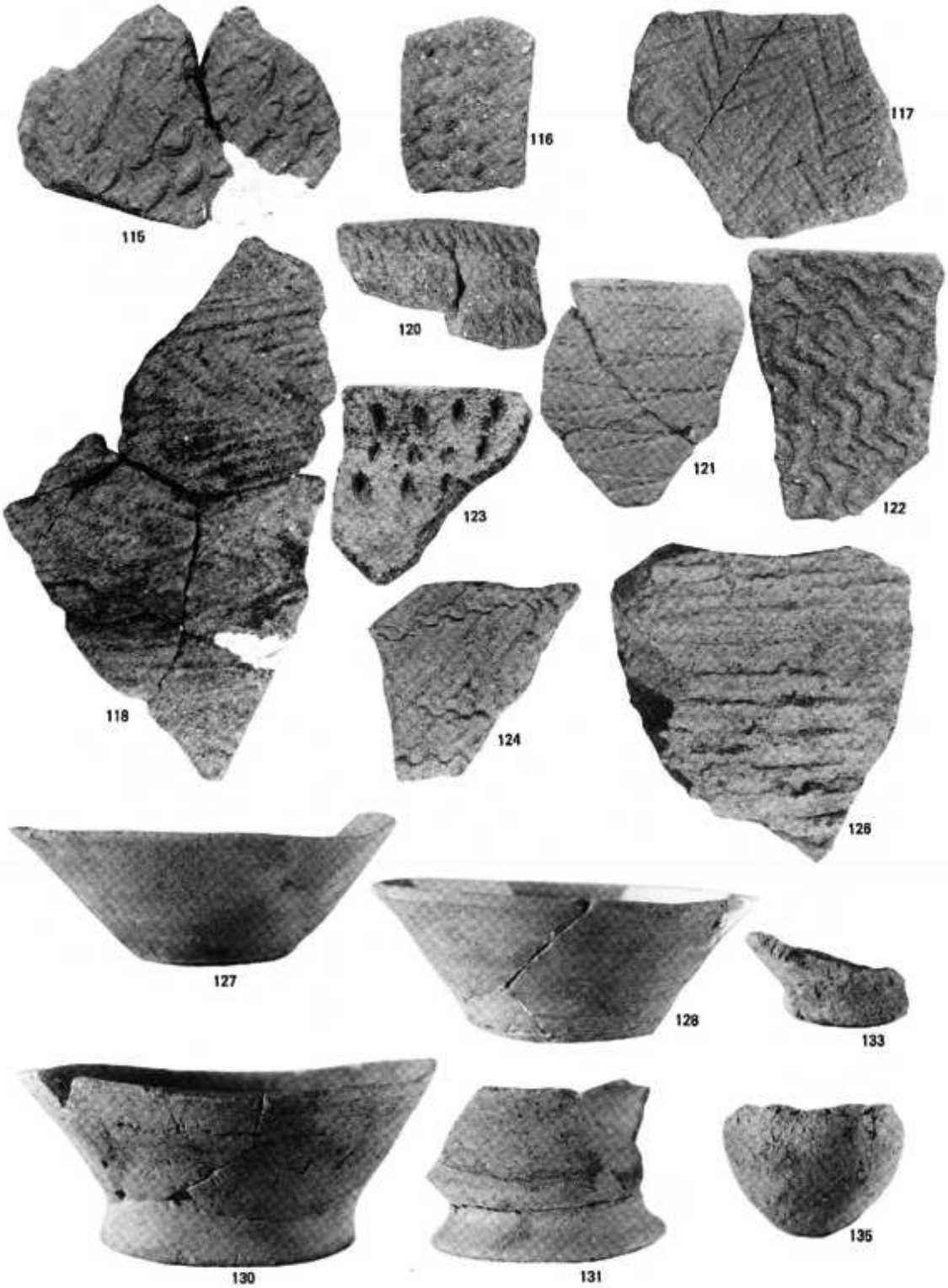
A～C区出土土器(2)



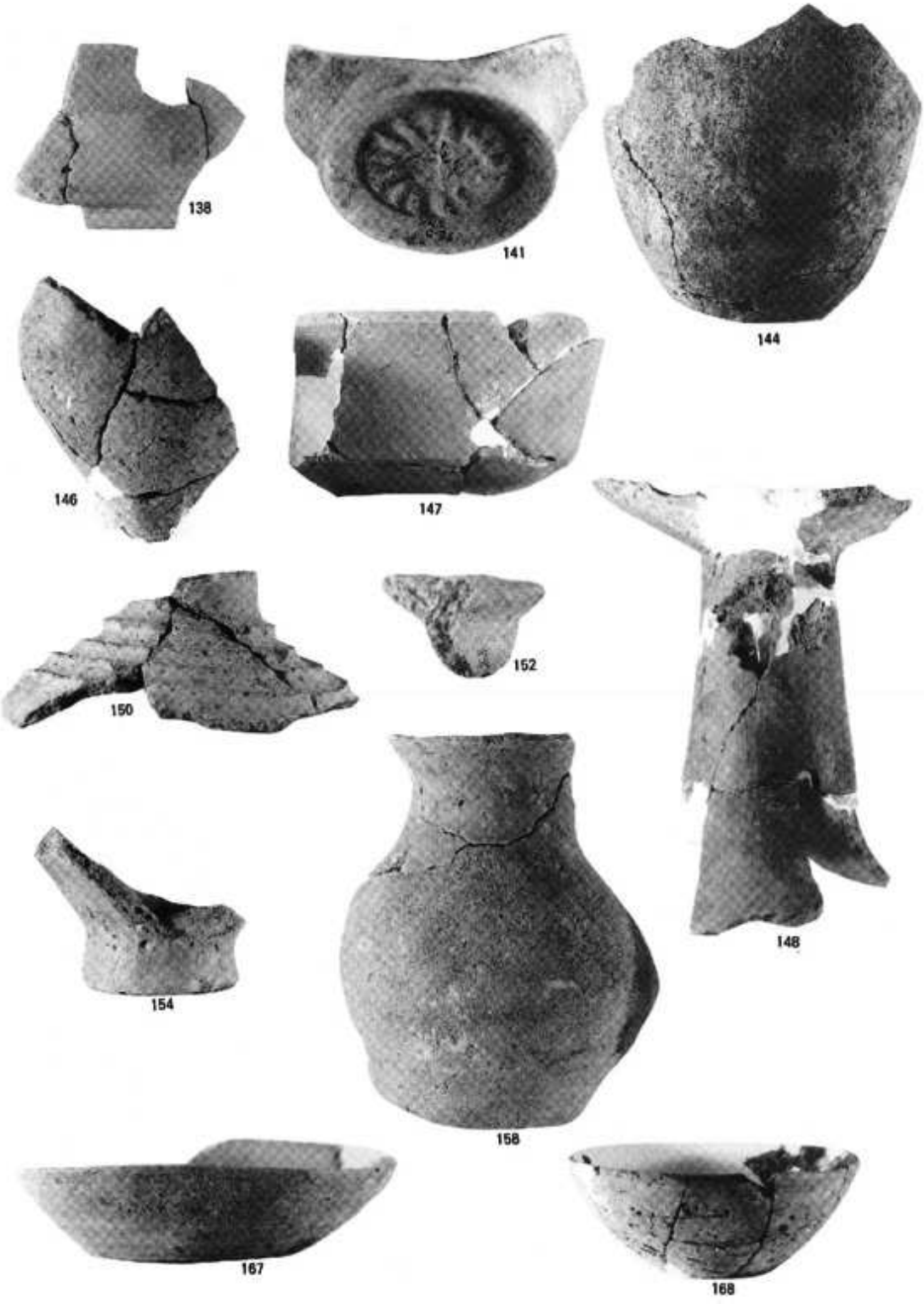
A～C区出土土器(3)



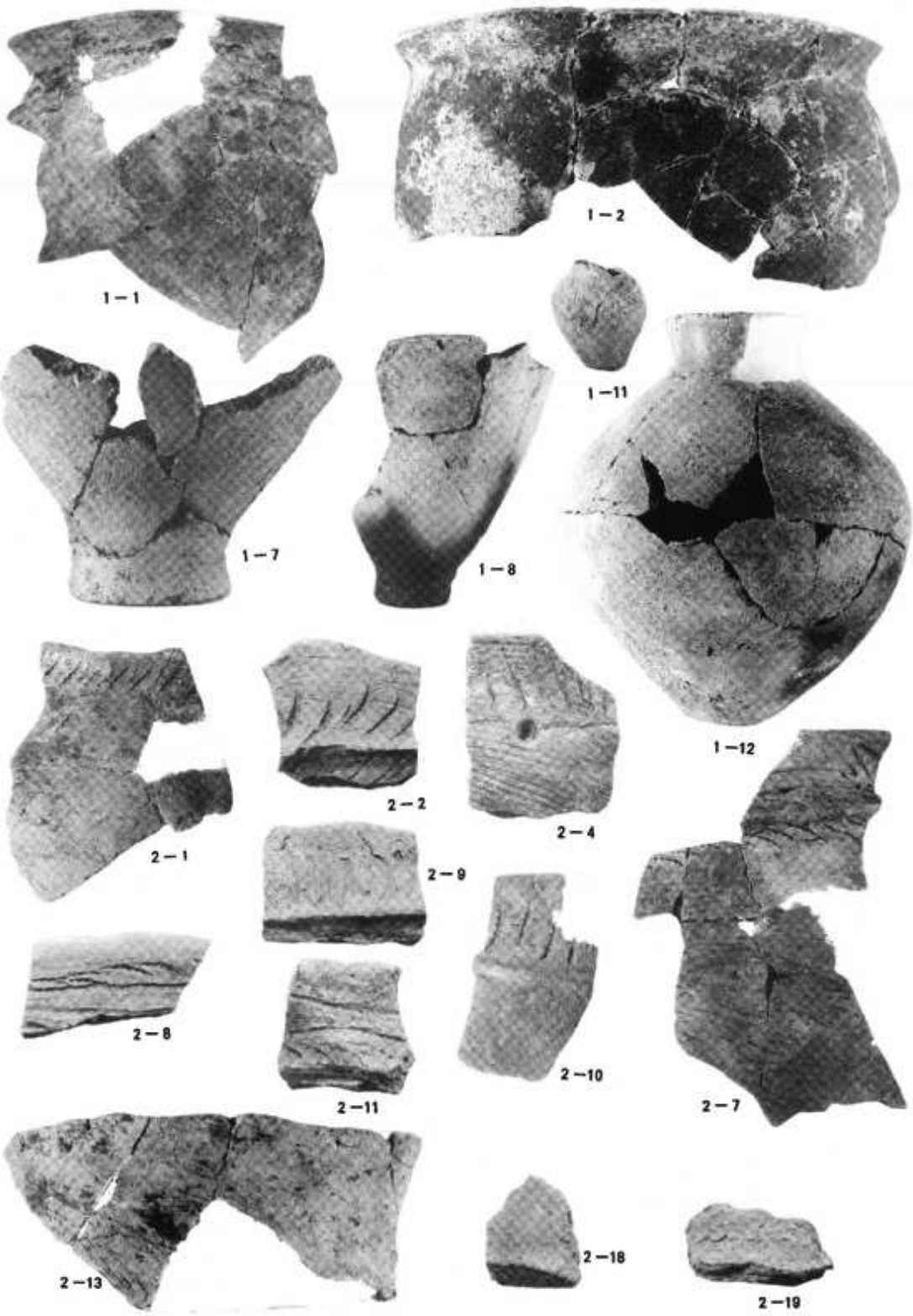
A～C区出土土器(4)



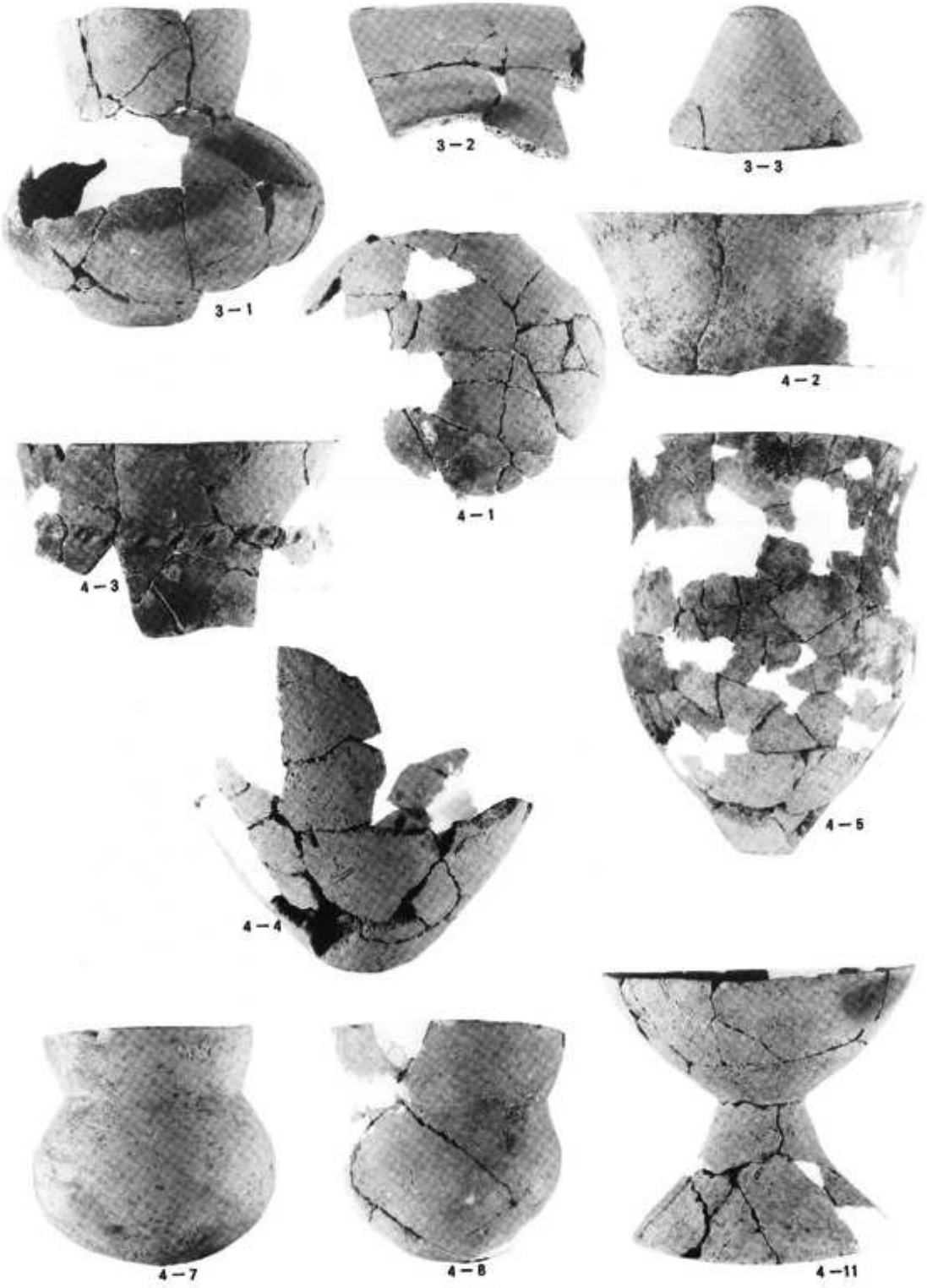
A～C区出土土器(5)



A～C区出土土器(6)



住居跡出土土器(1)



住居跡出土土器(2)

4－12

4－13

5－1

5－2

5－3

5－4

5－5

5－6

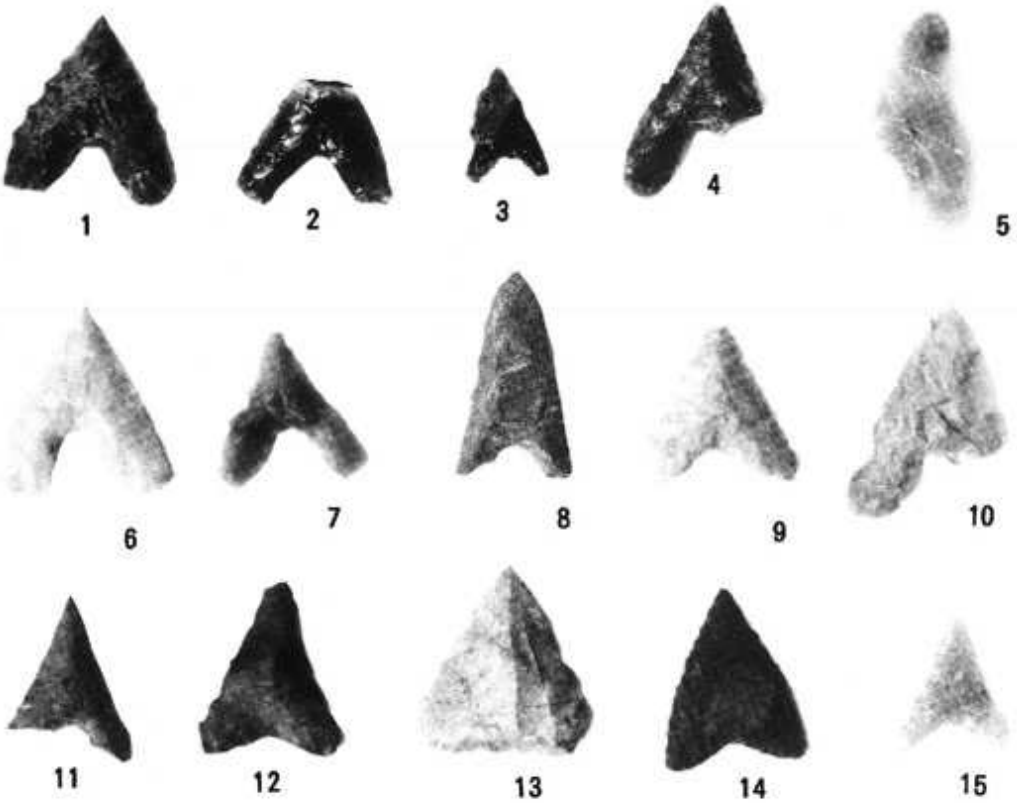
5－7

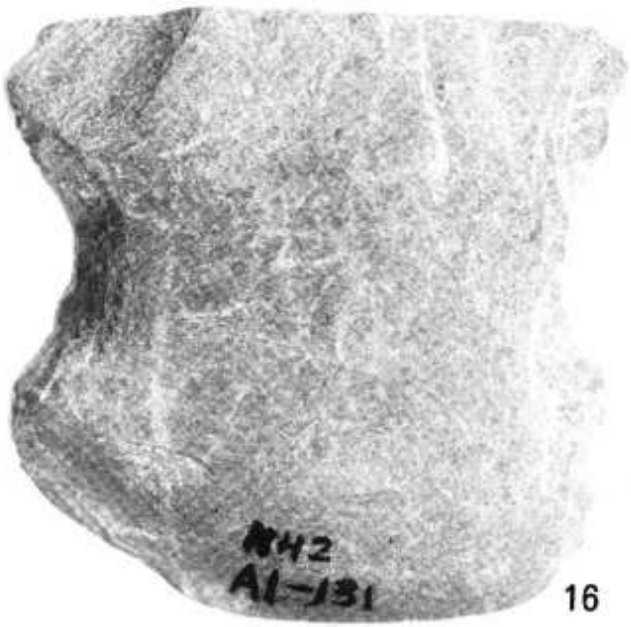
5－8

5－10

5－12

住居跡出土土器(3)





A～C区・住居跡出土石器(1)

18

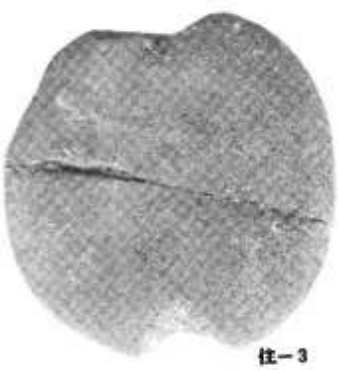
19

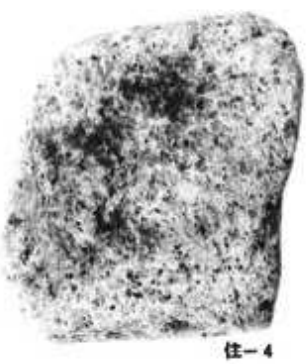
22

23

住－1

住－2


住－3


住－4

住－5

A～C区・住居跡出土石器(2)

2

3

4

住居跡出土鉄器

西ノ原第2遺跡

宮崎市文化財調査報告書

平成4年3月

編集・発行　宮崎市教育委員会

印　　刷　宮崎紙工印刷株式会社

〒880 宮崎市本郷南方4045